

平成29年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調査報告書

長野市

目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計 報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的なこと	21
	就労に関することについて	41
	仕事と生活の調和に関することについて	53
	地域社会に関することについて	75
	男女の人権に関することについて	81
	男女共同参画施策に関することについて	89
	資 料	93
	単純集計	95
	自由意見	111
	調 査 票	123

I 調査の概要

1 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象

平成 29 年 9 月 1 日現在で長野市に在住する 20 歳以上 75 歳未満の男女各 1,000 人
(計：2,000 人)

3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒（料金受取人払）により調査票を返送してもらう郵送調査法による（調査票は別紙のとおり）。

5 調査時期

平成 29 年 9 月 8 日（金） ～ 平成 29 年 9 月 22 日（金）

6 送付・回収状況

送付数：2,000 票

回収数：831 票（回収率：41.6%）

【男性票：353 票、女性票：477 票 性別無回答：1 票】

7 調査事項

● 回答者の属性

A性別 B年齢 C職業 D家族 E配偶者の有無 F子の有無

- (1) 一般的な問題
- (2) 就労に関する問題
- (3) 仕事と生活の調和に関する問題
- (4) 地域社会に関する問題
- (5) 男女の人権に関する問題
- (6) 男女共同参画施策に関する問題
- (7) 自由記入

8 調査票の集計

電子計算機による集計（委託）

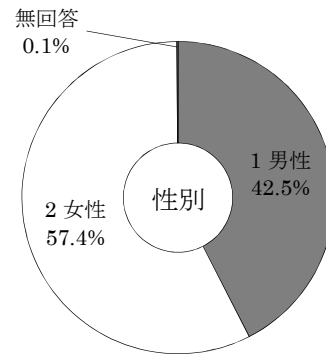
報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表記している。従って、内訳を合計しても 100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。

II 回答者の属性

A 性別

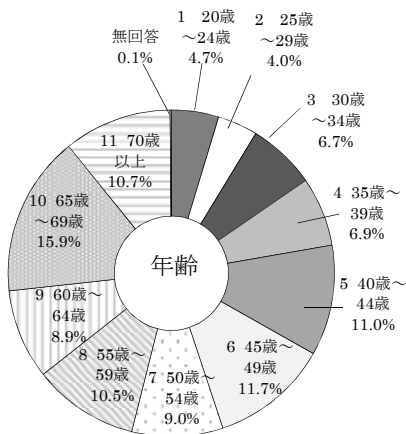
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	353	42.5%
2 女性	477	57.4%
無回答	1	0.1%
合計	831	100.0%



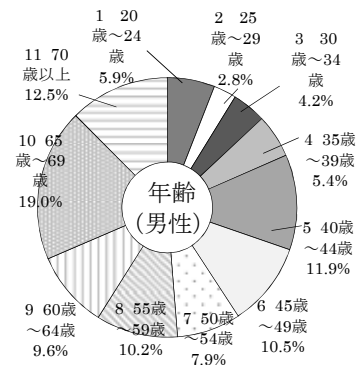
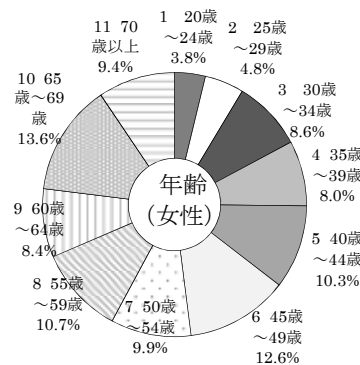
B 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 20歳～24歳	39	18	21	0	4.7	3.8	5.9	0.0
2 25歳～29歳	33	23	10	0	4.0	4.8	2.8	0.0
3 30歳～34歳	56	41	15	0	6.7	8.6	4.2	0.0
4 35歳～39歳	57	38	19	0	6.9	8.0	5.4	0.0
5 40歳～44歳	91	49	42	0	11.0	10.3	11.9	0.0
6 45歳～49歳	97	60	37	0	11.7	12.6	10.5	0.0
7 50歳～54歳	75	47	28	0	9.0	9.9	7.9	0.0
8 55歳～59歳	87	51	36	0	10.5	10.7	10.2	0.0
9 60歳～64歳	74	40	34	0	8.9	8.4	9.6	0.0
10 65歳～69歳	132	65	67	0	15.9	13.6	19.0	0.0
11 70歳以上	89	45	44	0	10.7	9.4	12.5	0.0
無回答	1	0	0	1	0.1	0.0	0.0	100.0
合計	831	477	353	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



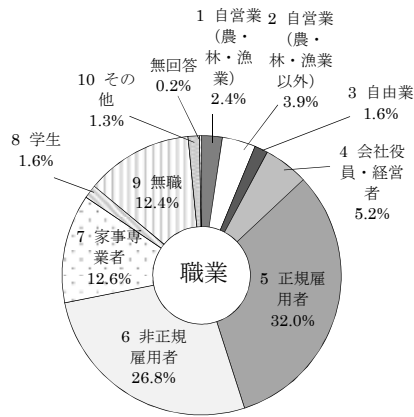
【男女別】



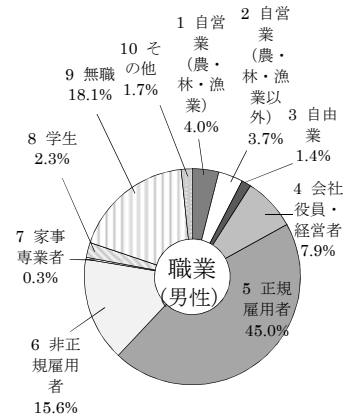
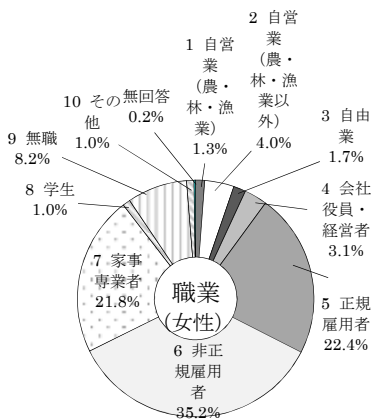
C 職業

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 自営業 (農・林・漁業)	20	6	14	0	2.4	1.3	4.0	0.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	32	19	13	0	3.9	4.0	3.7	0.0
3 自由業	13	8	5	0	1.6	1.7	1.4	0.0
4 会社役員・経営者	43	15	28	0	5.2	3.1	7.9	0.0
5 正規雇用者	266	107	159	0	32.0	22.4	45.0	0.0
6 非正規雇用者	223	168	55	0	26.8	35.2	15.6	0.0
7 家事専業者	105	104	1	0	12.6	21.8	0.3	0.0
8 学生	13	5	8	0	1.6	1.0	2.3	0.0
9 無職	103	39	64	0	12.4	8.2	18.1	0.0
10 その他	11	5	6	0	1.3	1.0	1.7	0.0
無回答	2	1	0	1	0.2	0.2	0.0	100.0
合計	831	477	353	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

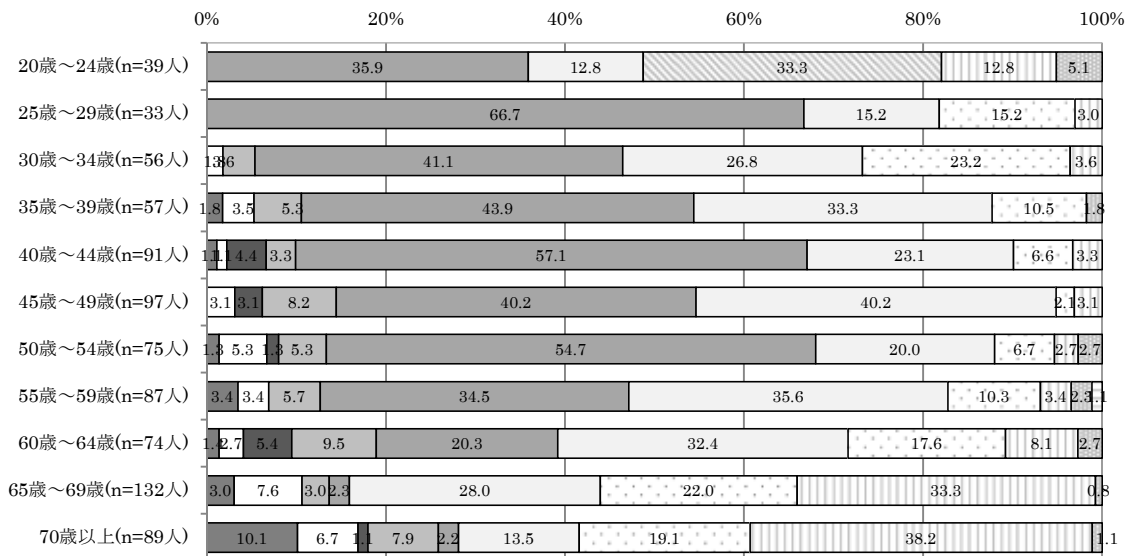


【男女別】



【年代別】

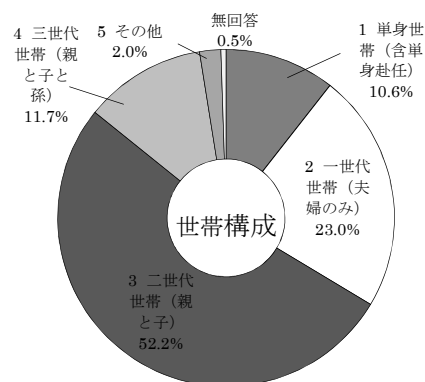
- 自営業 (農・林・漁)
- 正規雇用者
- 無職
- 自営業 (農・林・漁以外)
- 非正規雇用者
- その他
- 自由業
- 家事専業者
- 無回答
- 会社役員・経営者
- 学生



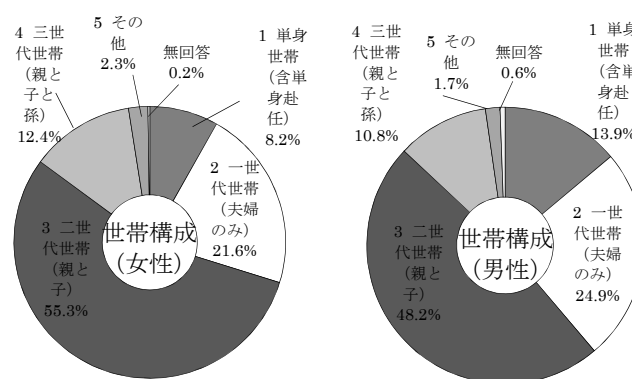
D あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 単身世帯（含単身赴任）	88	39	49	0	10.6	8.2	13.9	0.0
2 一世代世帯（夫婦のみ）	191	103	88	0	23.0	21.6	24.9	0.0
3 二世代世帯（親と子）	434	264	170	0	52.2	55.3	48.2	0.0
4 三世代世帯（親と子と孫）	97	59	38	0	11.7	12.4	10.8	0.0
5 その他	17	11	6	0	2.0	2.3	1.7	0.0
無回答	4	1	2	1	0.5	0.2	0.6	100.0
合計	831	477	353	1	100.0	100.0	100.0	100.0

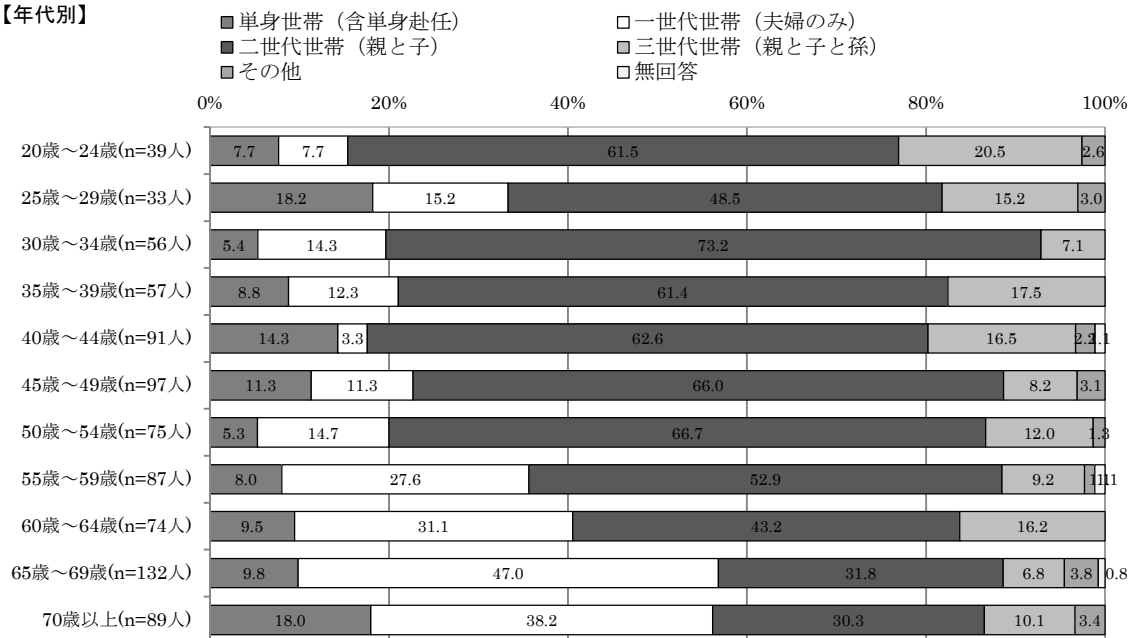
【全体】



【男女別】



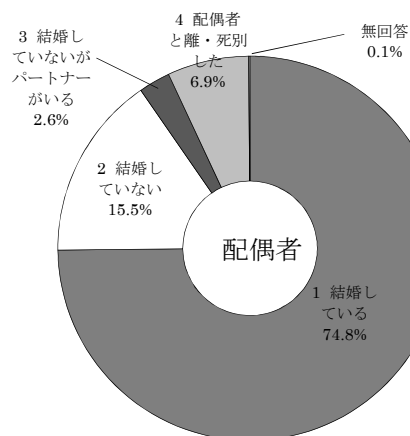
【年代別】



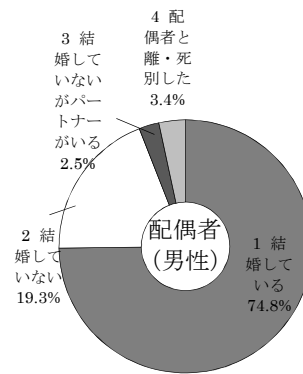
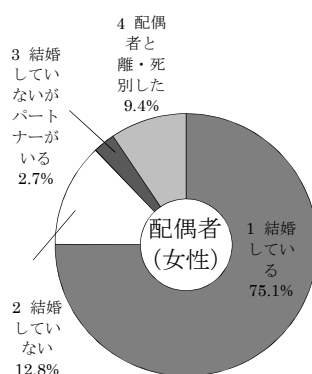
E あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 結婚している	622	358	264	0	74.8	75.1	74.8	0.0
2 結婚していない	129	61	68	0	15.5	12.8	19.3	0.0
3 結婚していないがパートナーがいる	22	13	9	0	2.6	2.7	2.5	0.0
4 配偶者と離・死別した	57	45	12	0	6.9	9.4	3.4	0.0
無回答	1	0	0	1	0.1	0.0	0.0	100.0
合計	831	477	353	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

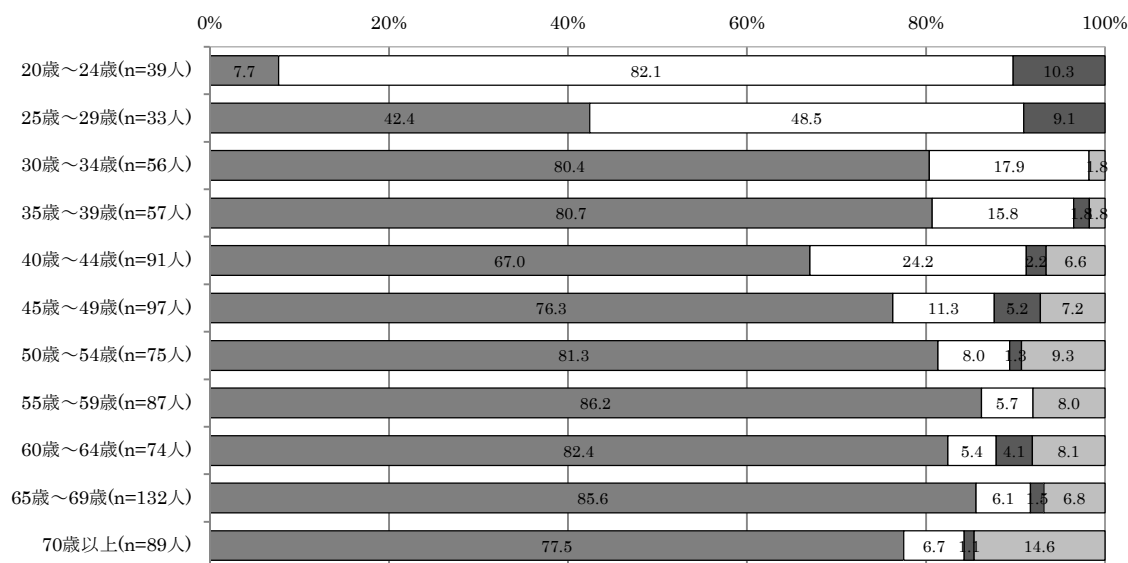


【男女別】



【年代別】

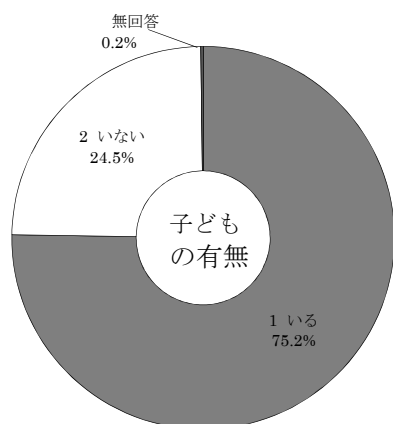
■結婚している □結婚していない ■結婚していないがパートナーがいる □配偶者と離・死別した ■無回答



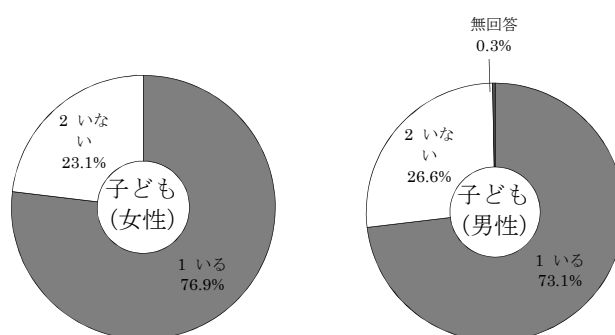
F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる	625	367	258	0	75.2	76.9	73.1	0.0
2 いない	204	110	94	0	24.5	23.1	26.6	0.0
無回答	2	0	1	1	0.2	0.0	0.3	100.0
合計	831	477	353	1	100.0	100.0	100.0	100.0

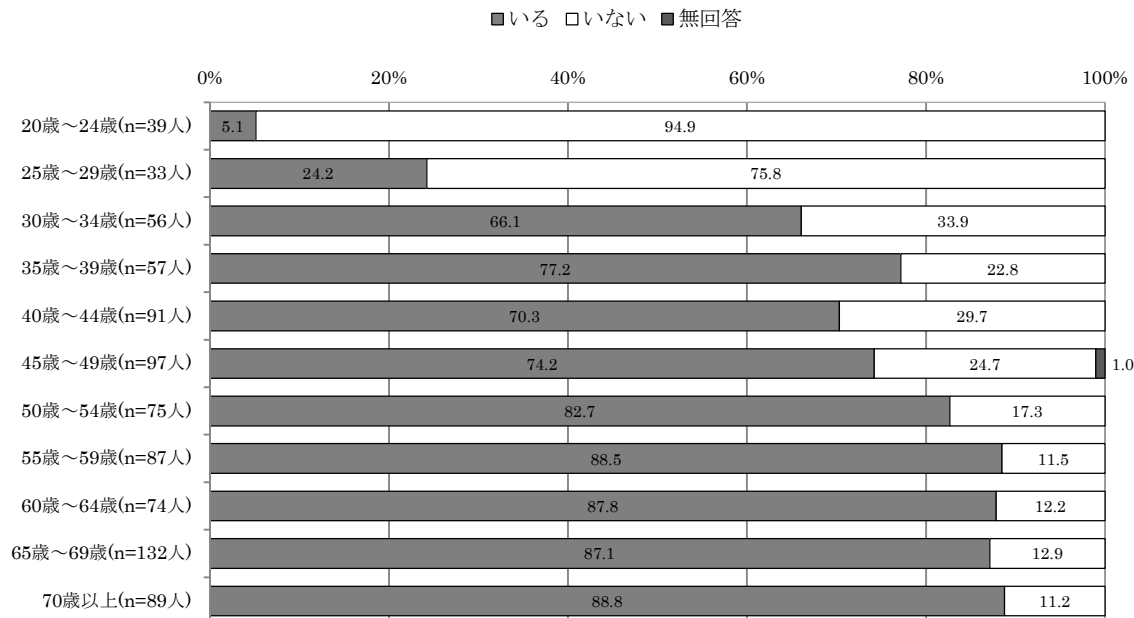
【全体】



【男女別】



【年代別】



Ⅲ 結果の概要

1 一般的なこと

(1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(54.6%)、「家庭」(46.5%)、「法律や制度」(38.4%)の3分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性が優位」という回答が約7割となっている。

分野別でみると、「家庭」においては、全体では「平等である」(46.5%)という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が19.5%、女性が38.8%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が21.8%なのに対し、女性は44.0%と最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも約5割～8割となっている。

(2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「長野市男女共同参画推進条例」、「長野市男女共同参画センター」、「女性活躍推進法」の4つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「男女共同参画社会」(75.9%)となっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも4割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「男女共同参画社会」は全ての年代、性別においても6割以上の認知度となっている。

(3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は37.5%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は61.9%となっている。前年に比べ、前者は4.0ポイント増加し、後者は3.6ポイント減少した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回っている。年代別でみると、25歳～29歳、40歳代、50歳代、70歳以上の女性と、30歳～34歳の男性で「賛成」がいない結果となっている。

(4) 女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多い回答となっている。

2 就労に関することについて

(1) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、「女性の方が優遇されている」という回答が最も多いのは、「仕事の内容」となっている。

(2) 離職の原因（理由）について

離職の原因（理由）について尋ねたところ、「結婚・出産」という回答が、全体で 49.2% となっているが、男性が 8.2%なのに対し、女性は 67.6%となり、性別により差がある。

(3) 女性の就労について

女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「職場の理解や協力」(55.2%) が最も多い回答となっており、次いで「家族の理解や協力」(47.8%)、「育児・介護に関する制度の充実」(42.2%) と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(88.0%) が最も多い回答となっており、次いで「保育所などの保育施設の充実」(66.4%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(60.8%) と続いている。

3 仕事と生活の調和に関することについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の 29.5%となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が 30.6%と女性の 28.7%より多くなっている。

(2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も多い回答となった。現実の生活では、『仕事』優先が最も多い回答となっている。しかし、『仕事』優先では、男性は 39.7%と多く回答しており、女性が 17.0%となっている。全体では『仕事』優先が『家庭』優先より若干多いが、どちらも男女間での差が大きくなっている。

(3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(42.2%)、女性では、「食事のしたく」(79.6%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」(49.7%)で、女性では、「ごみ捨て」(17.1%)であった。

また、男性は、「掃除」、「食料品、日用品などの買物」、「食事の後かたづけ」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が4割を超えている。

家事従事時間に関しては、平日では「0～1時間未満」という回答は、男性 60.3%、女性 7.5%と差が大きくなっている。休日では「0～1時間未満」という回答が男性 39.7%、女性 5.5%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、男性は 19.4%、女性は 56.7%と差が大きい。介護に関しては男性が 21.5%、女性が 22.3%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関して、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(64.6%)、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(63.2%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(61.7%)、「昇給、昇格に影響すると考えるから」(32.7%)といった理由で利用が進まない状況となっている。

4 地域社会に関することについて

自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」で、47.7%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」42.7%、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」38.0%となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、約3割（27.9%）となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（24.8%）と「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（16.8%）と続いている。

5 男女の人権に関することについて

DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が33.4%に対し、女性は42.8%となっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が20.7%、女性では4.8%、女性では「受けたことがある」という回答が19.3%、男性は3.1%となっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（警察安全相談窓口）」で約5割（50.9%）となっている。次いで、「児童虐待・DV24時間ホットライン」（22.9%）、「女性の人権ホットライン」（21.1%）の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約5割（49.1%）となっている。

6 男女共同参画施策に関することについて

（1）長野市議会及び住民自治協議会への女性の参画について

長野市議会及び住民自治協議会の女性議員・役員の数についての考えを尋ねたところ、「現在より少し増えた方がよい」（36.3%）という回答が最も多くなっている。次いで、「現在より大幅に増えた方がよい」（28.6%）が続いており、合わせて64.9%の方が「増えた方がよい」と考えている。

（2）男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

行政に期待することについては、「育児や介護に関するサービスの充実」（55.1%）が最も多くなっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」（42.5%）、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」（39.7%）の順で続いている。

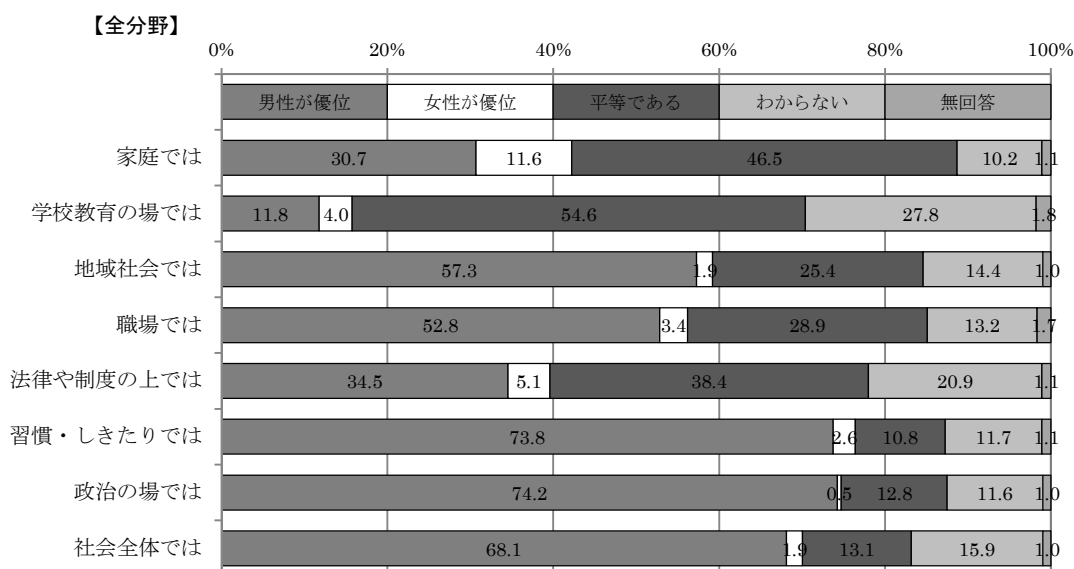
IV 調査の結果

一般的なこと

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

- ・「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(54.6%)、「家庭」(46.5%)、「法律や制度」(38.4%)の3分野となっている。
- ・一方、「習慣・しきたり」(73.8%)、「政治」(74.2%)、「社会全体」(68.1%)では、「男性が優位」という回答がいずれも6割以上で最も多い回答となっている。なかでも「習慣・しきたり」(73.8%)、「政治」(74.2%)では7割を超えており、その他の分野に比べて「男性が優位」という回答が多い。

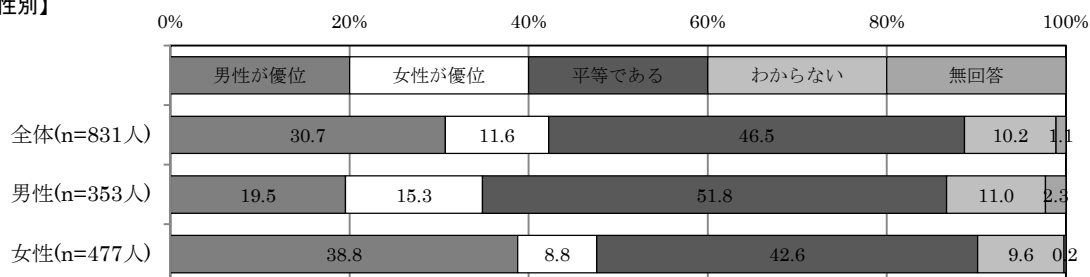
全体 (n=831人)



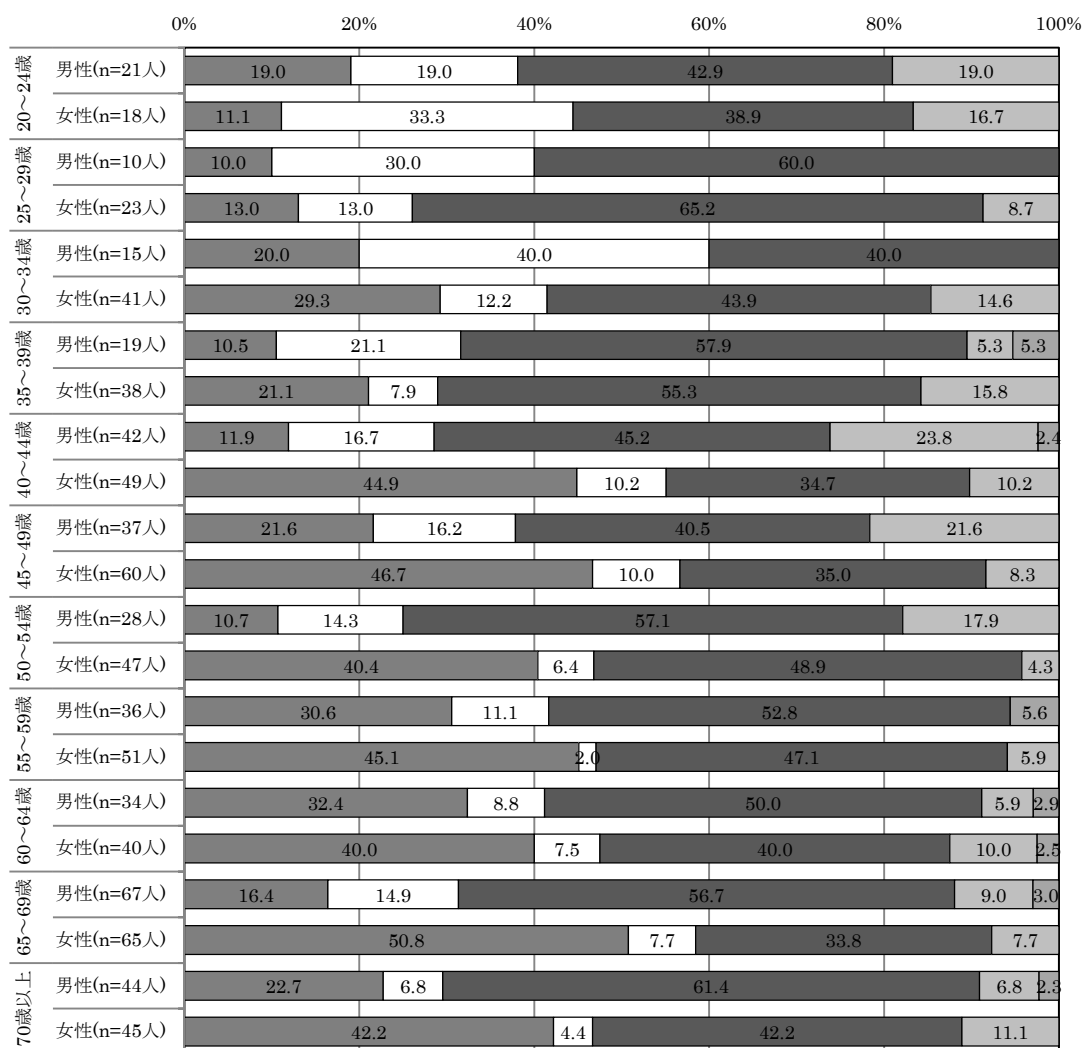
1 家庭では

- ・性別でみると、男性は、「平等である」(51.8%)という回答が最も多く、5割を超えている。女性は約4割(42.6%)となり、最も多い回答となっている。「男性が優位」という回答は、男性では約2割(19.5%)となっているが、女性では約4割(38.8%)となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性が優位」という回答は、女性では65歳～69歳で多く、回答割合が5割(50.8%)を超えている。男性では、全ての年代で「平等である」という回答が最も多い。

【性別】

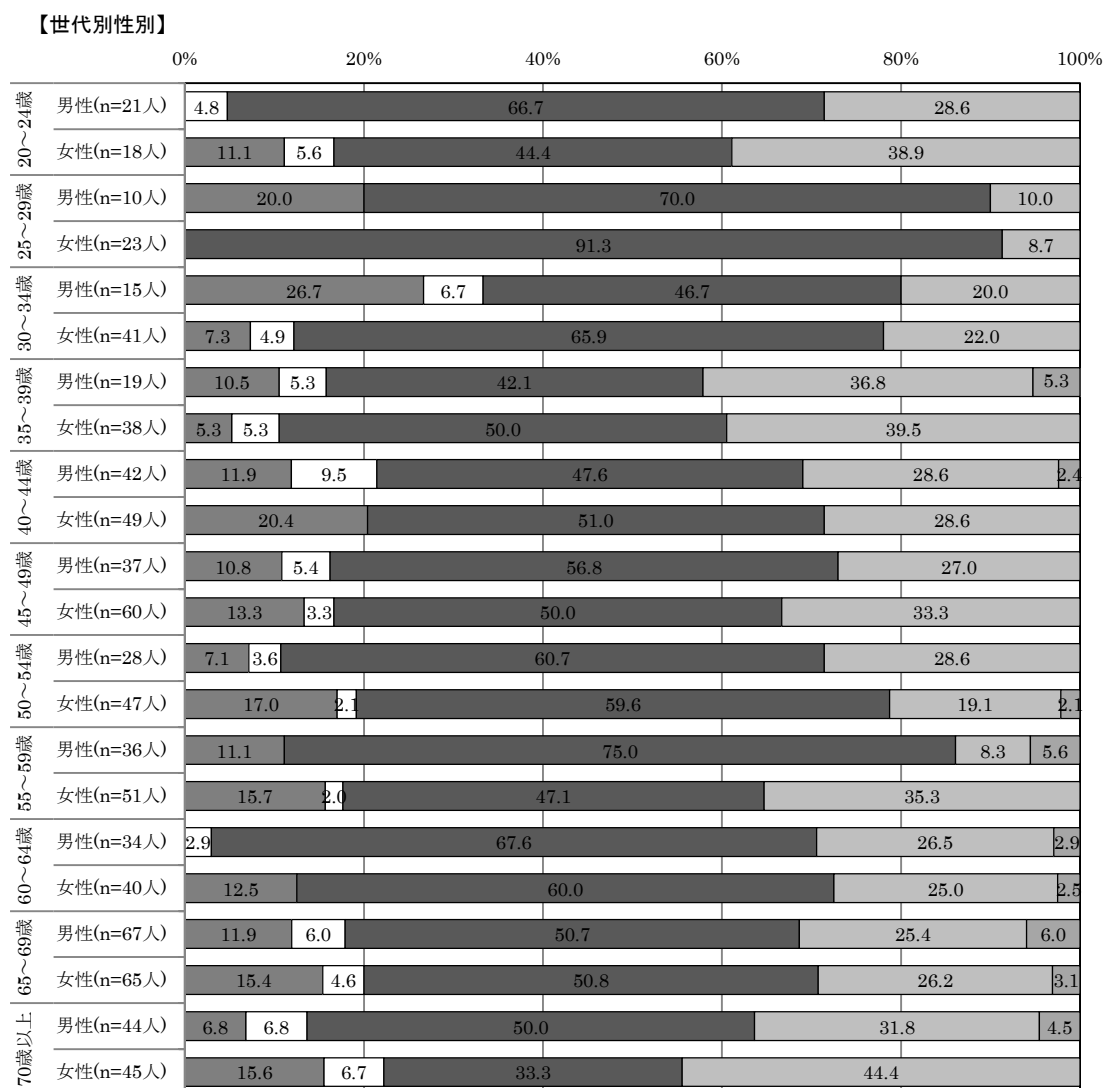
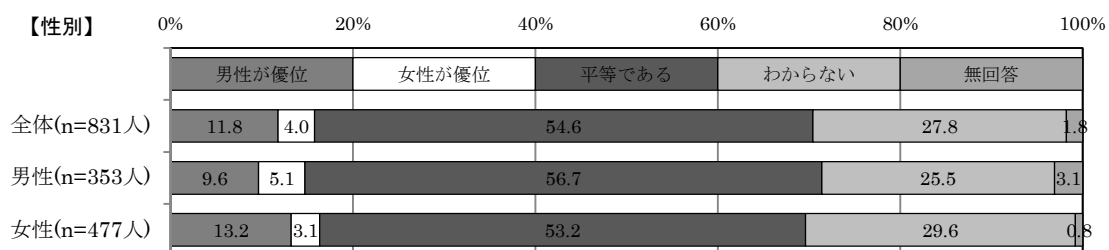


【世代別性別】



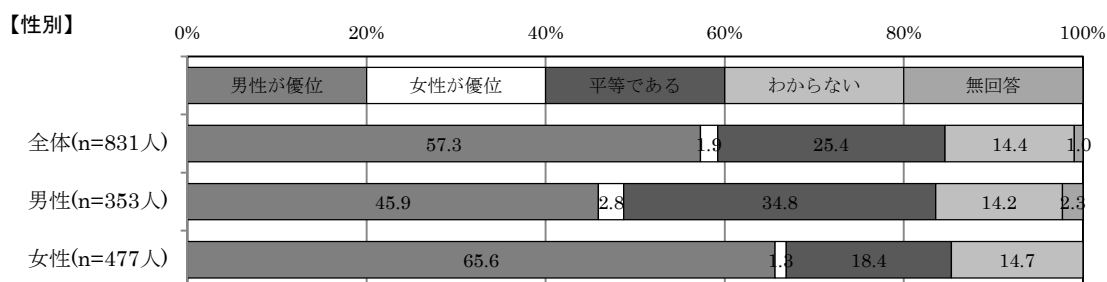
2 学校教育の場では

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（56.7%）、女性（53.2%）とともに5割を超えている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の女性を除いた各世代で「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、30歳～34歳の男性で約3割（26.7%）となり、そのほかの世代に比べ高い回答割合となっている。また、25歳～29歳、40歳～44歳、60歳～64歳の女性と、25歳～29歳、55歳～59歳の男性においては、「女性が優位」という回答はなしとなっている。また、20歳～24歳、60歳～64歳の男性では「男性が優位」という回答はなしとなっている。25歳～29歳の女性においては、「男性が優位」、「女性が優位」という回答はなしとなっている。

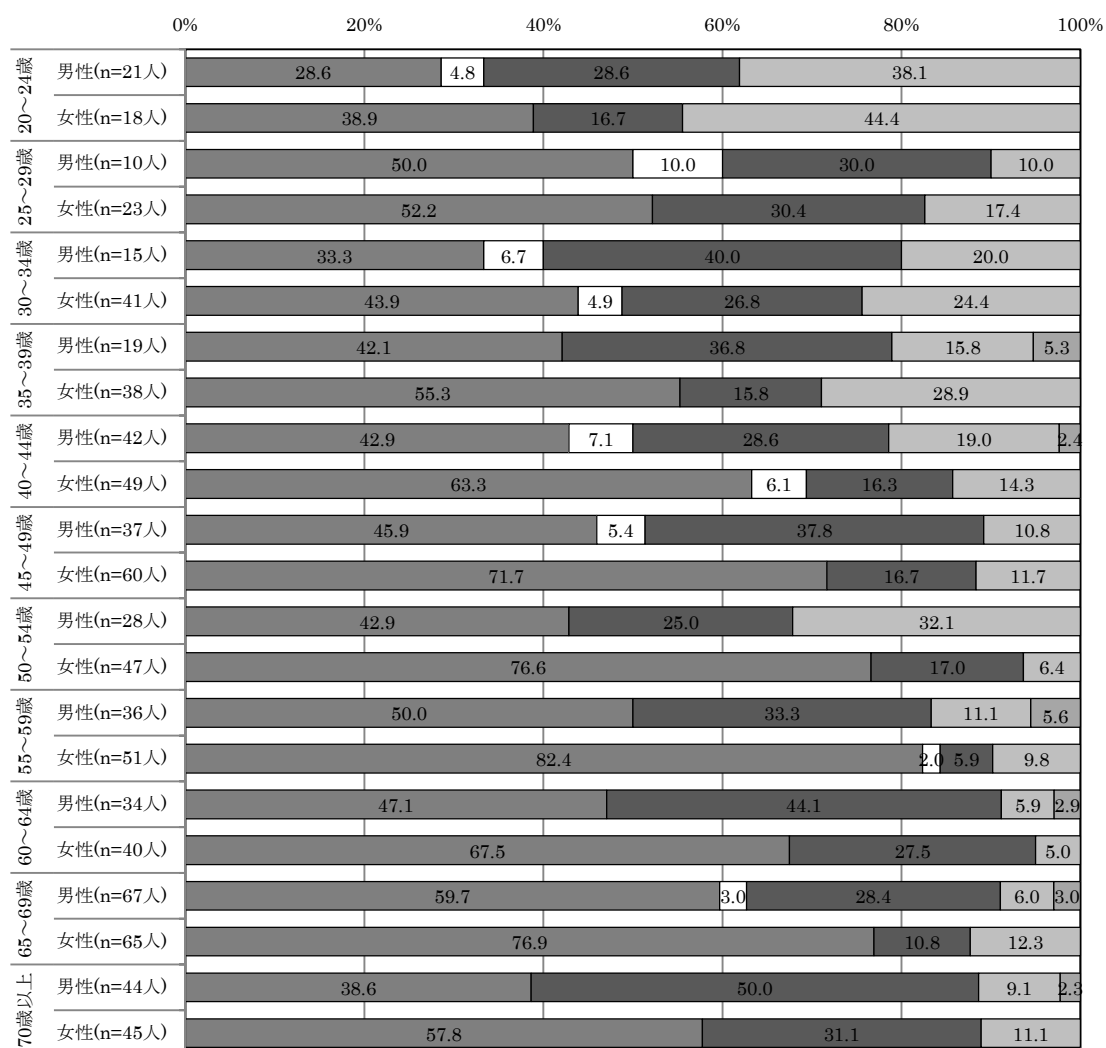


3 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約5割（45.9%）、女性は約7割（65.6%）となっている。一方、「平等である」という回答は男性が3割（34.8%）を超えているのに対し、女性が約2割（18.4%）となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳、30歳～34歳、70歳以上の男性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも55歳～59歳の女性においては「男性が優位」という回答が8割を超えている。

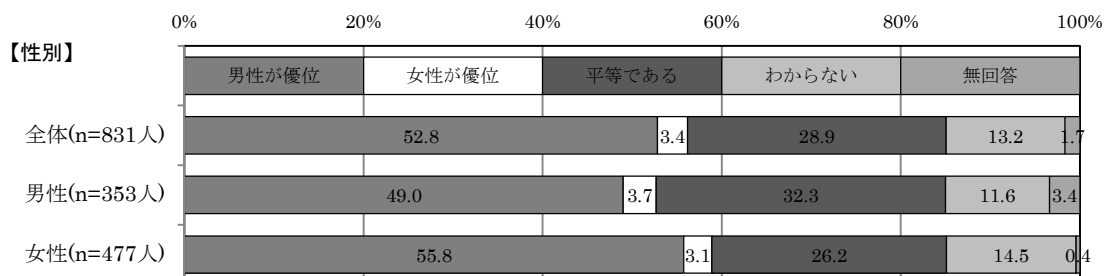


【世代別性別】

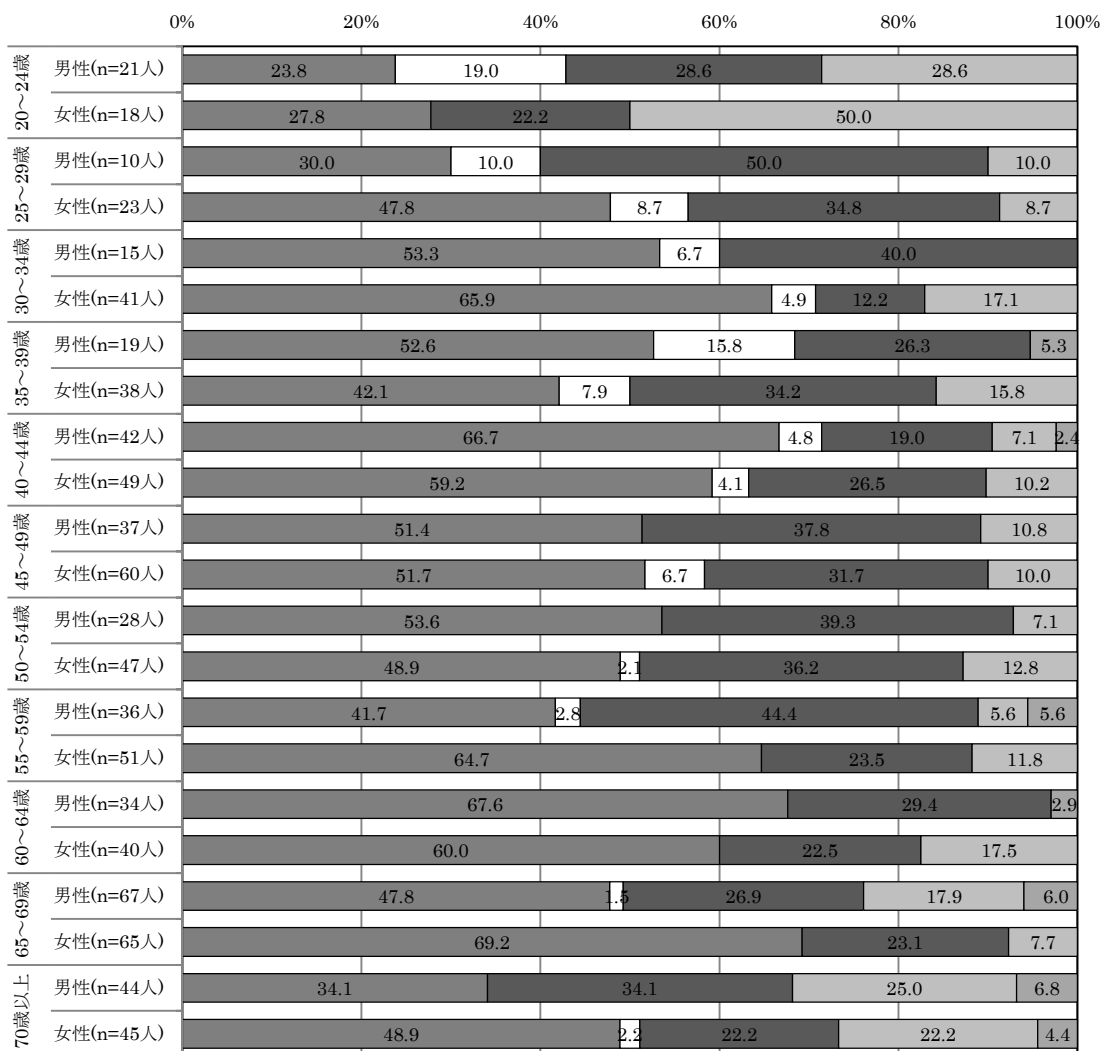


4 職場では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男女ともに約5割となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性においては「平等である」という回答が最も多く、5割となっている。65歳～69歳の女性では、「男性が優位」という回答が最も多くなっており、約7割（69.2%）となっている。

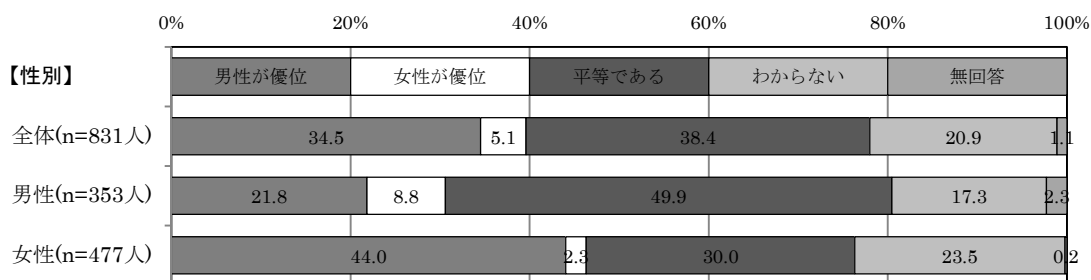


【世代別性別】

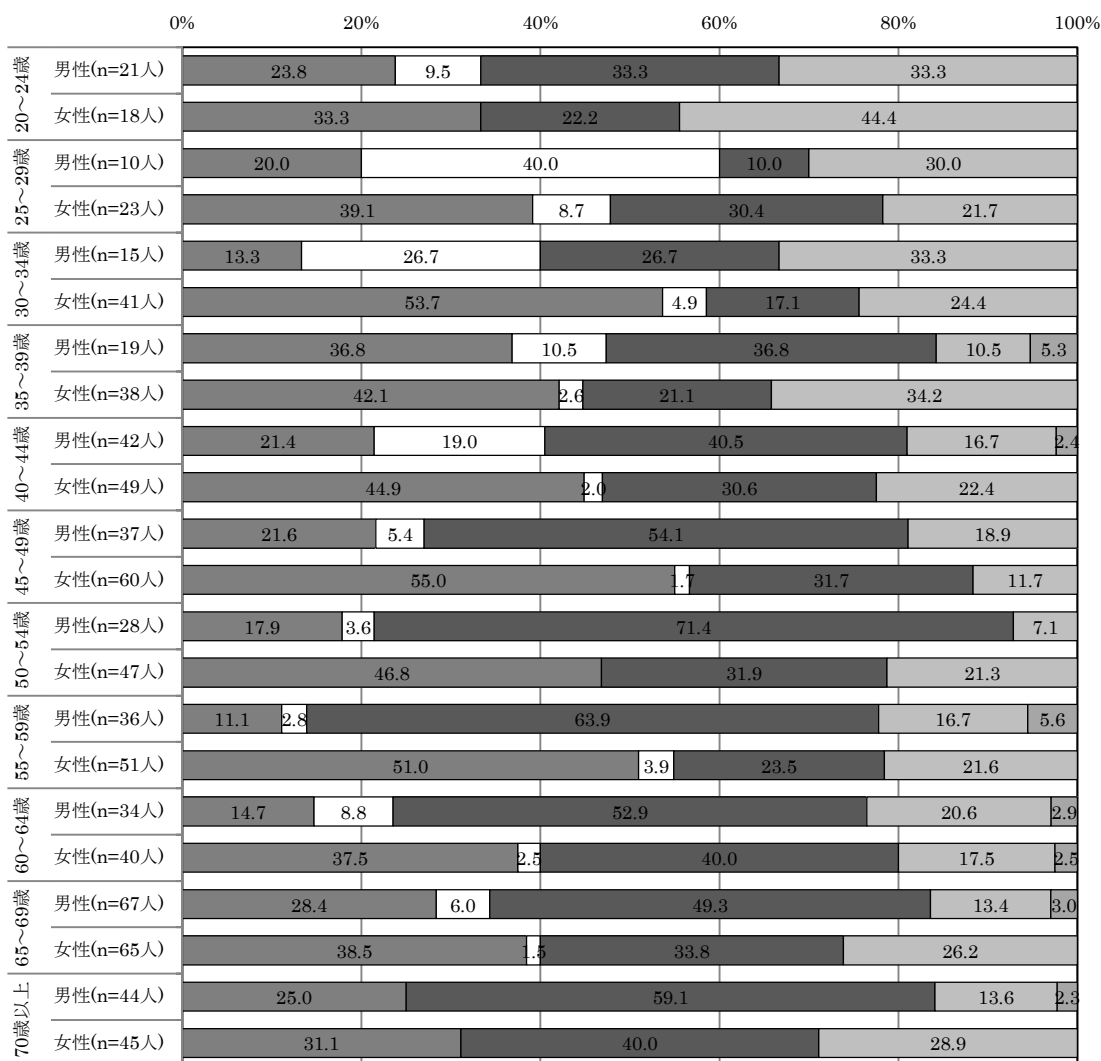


5 法律や制度の上では

- ・性別で見ると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（49.9%）となっている。一方、女性は「男性が優位」（44.0%）という回答が、「平等である」（30.0%）という回答を上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別で見ると、男性では、20歳代、30歳代以外の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。70歳以上で、「女性が優位」という回答はなしとなっている。
- ・女性においては、30歳～34歳で、「男性が優位」という回答が約5割（53.7%）を超えている。20歳～24歳、50歳～54歳、70歳以上で、「女性が優位」という回答はなしとなっている。

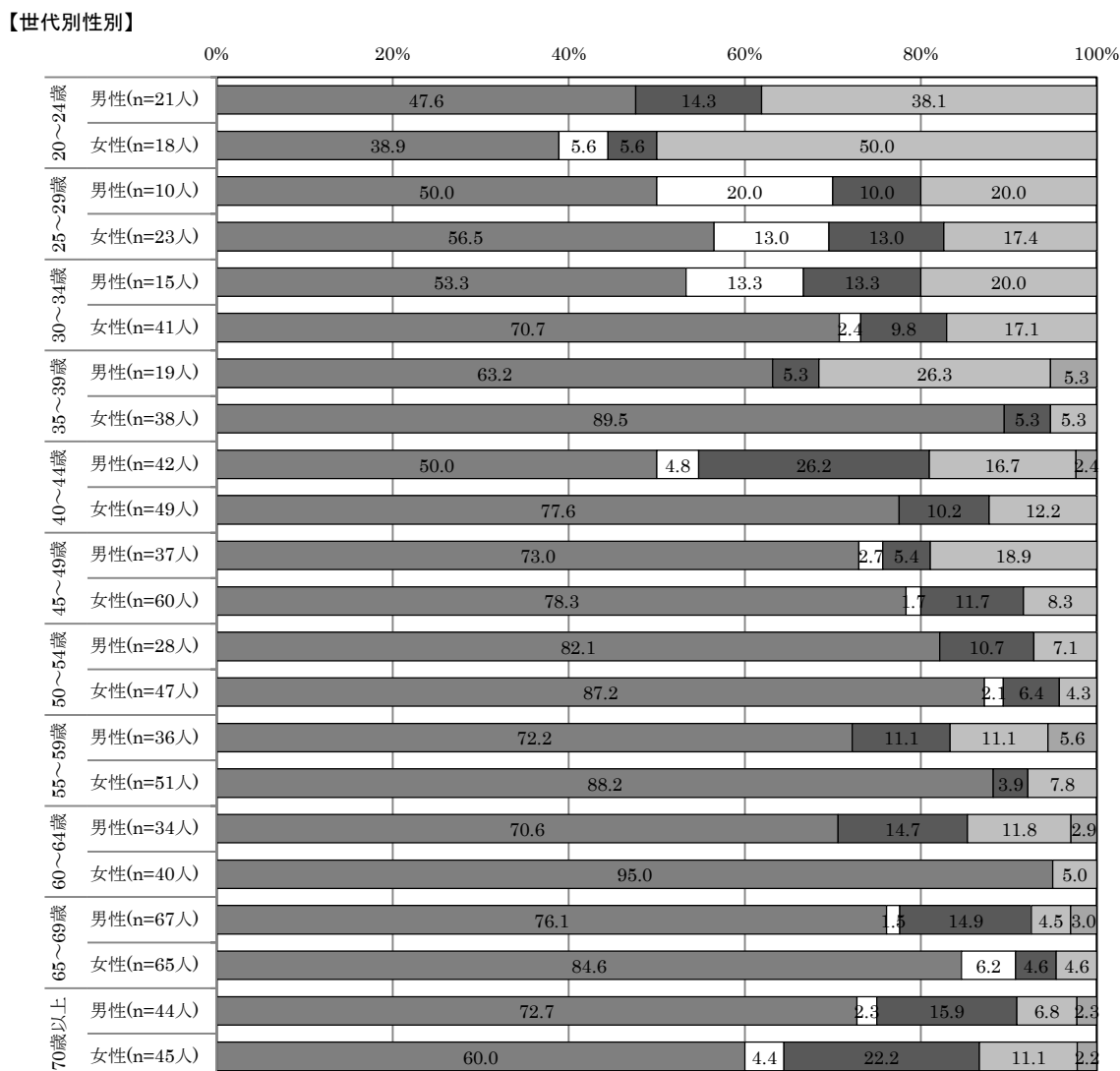
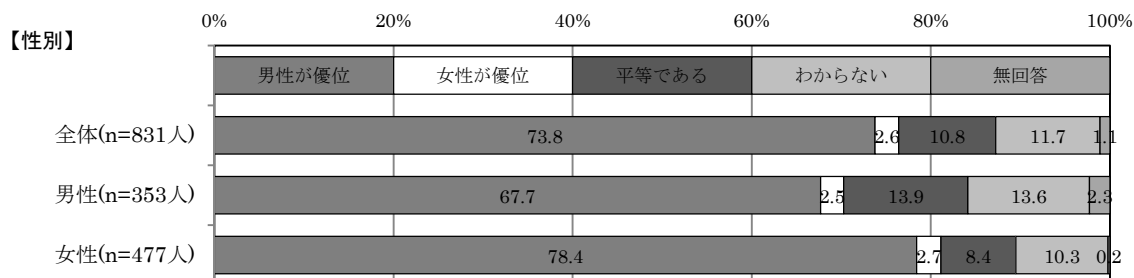


【世代別性別】



6 習慣・しきたりでは

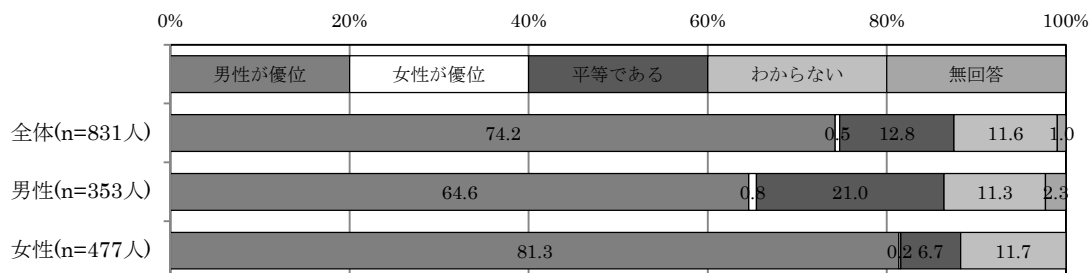
- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性（67.7%）、女性（78.4%）となっている。
- ・世代別性別で見ると、女性では、35歳～39歳、50歳代、60歳代で、「男性が優位」という回答がいずれも8割以上となっている。
- ・男性においては、50歳～54歳で「男性が優位」という回答が8割を超えている。



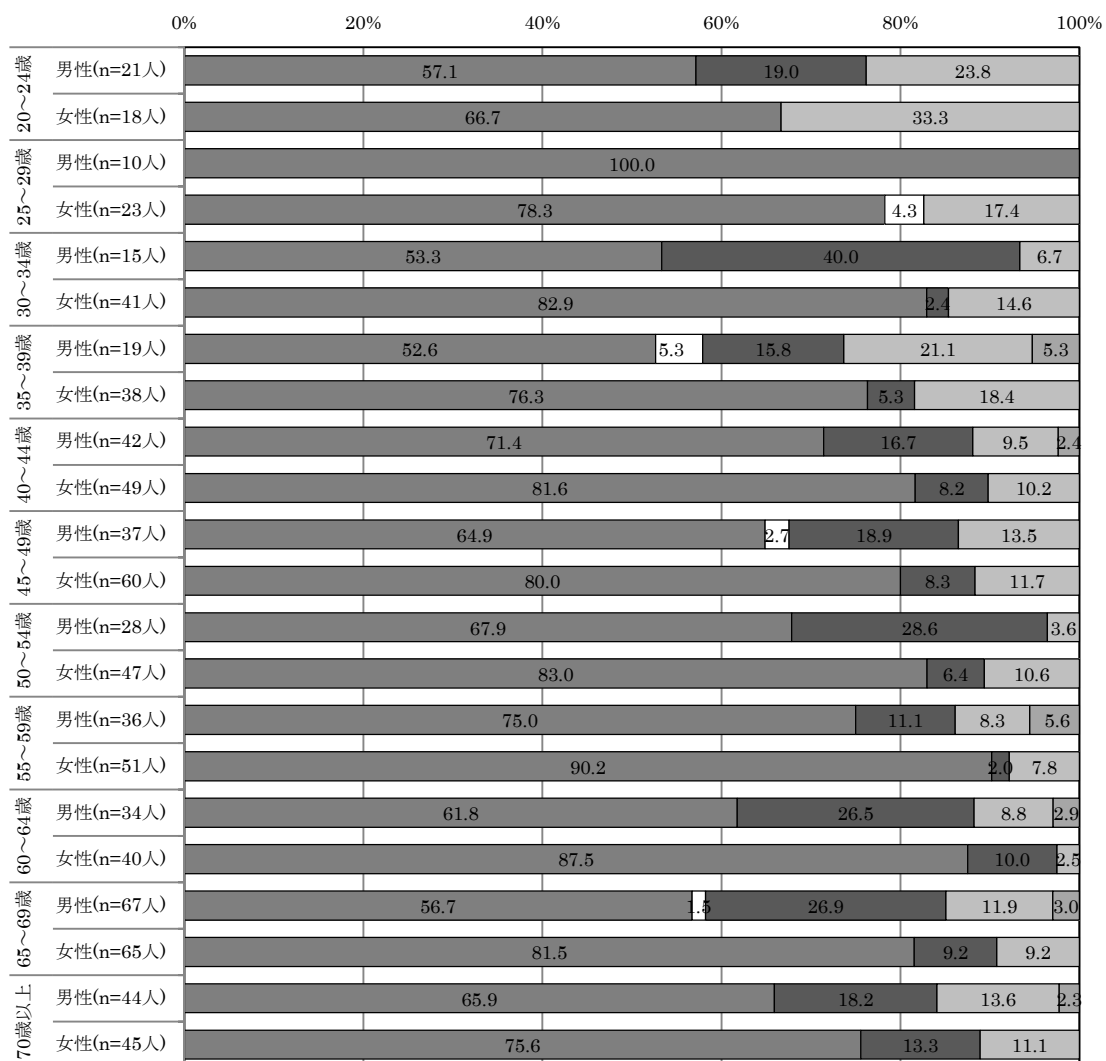
7 政治の場では

- ・性別でみると、男性は約6割（64.6%）、女性は約8割（81.3%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約2割（21.0%）なのに対して、女性は1割未満（6.7%）となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に、25歳～29歳の男性においては100.0%と極めて高い。

【性別】

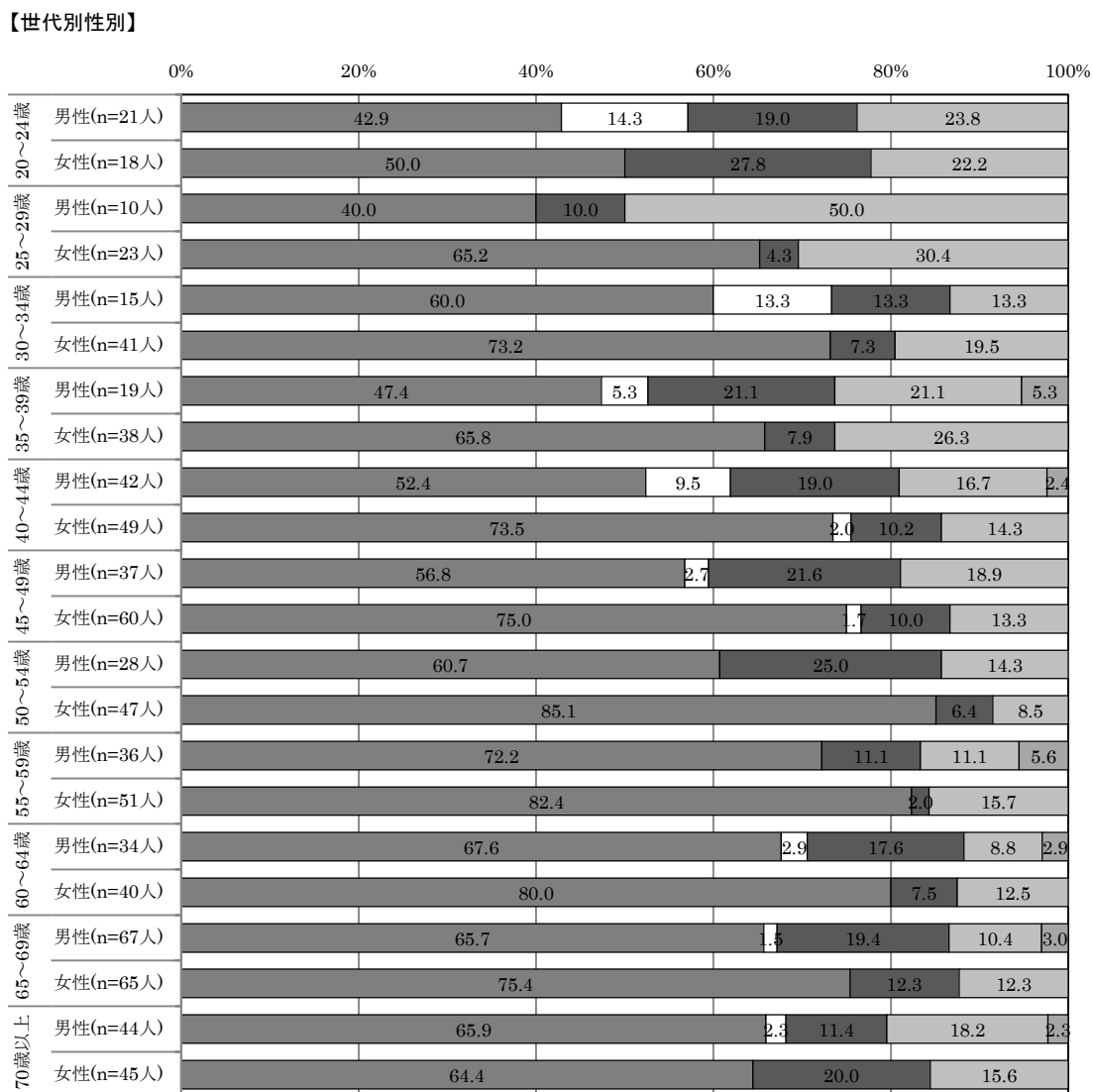
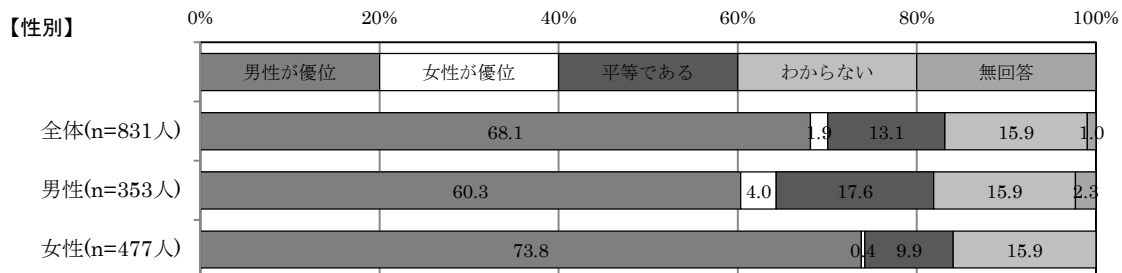


【世代別性別】



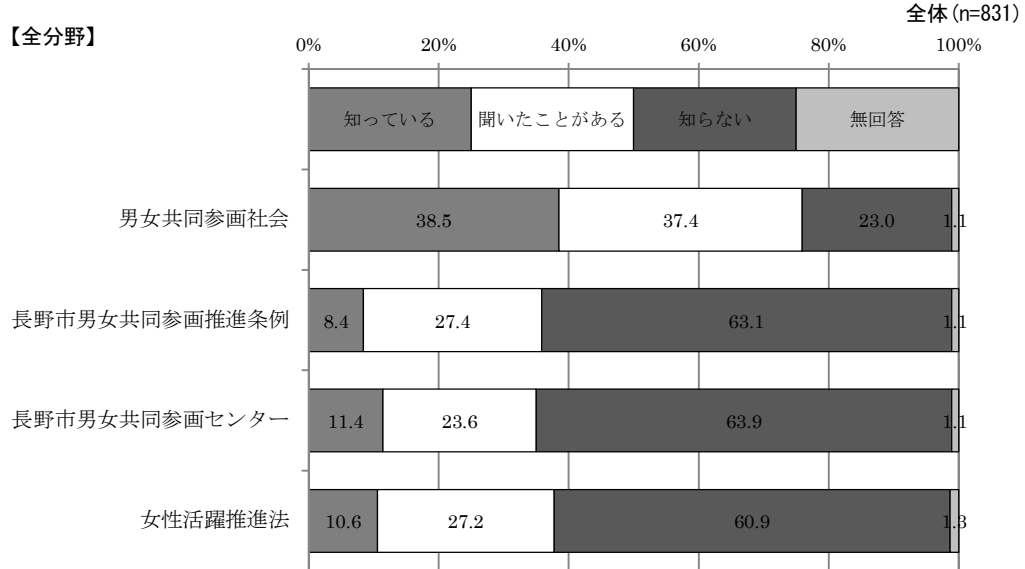
8 社会全体では

- ・性別で見ると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多いが、男性が約6割（60.3%）、に対し、女性は約7割（73.8%）となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（17.6%）、女性が約1割（9.9%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳の男性を除いて、「男性が優位」という回答が最も多い。



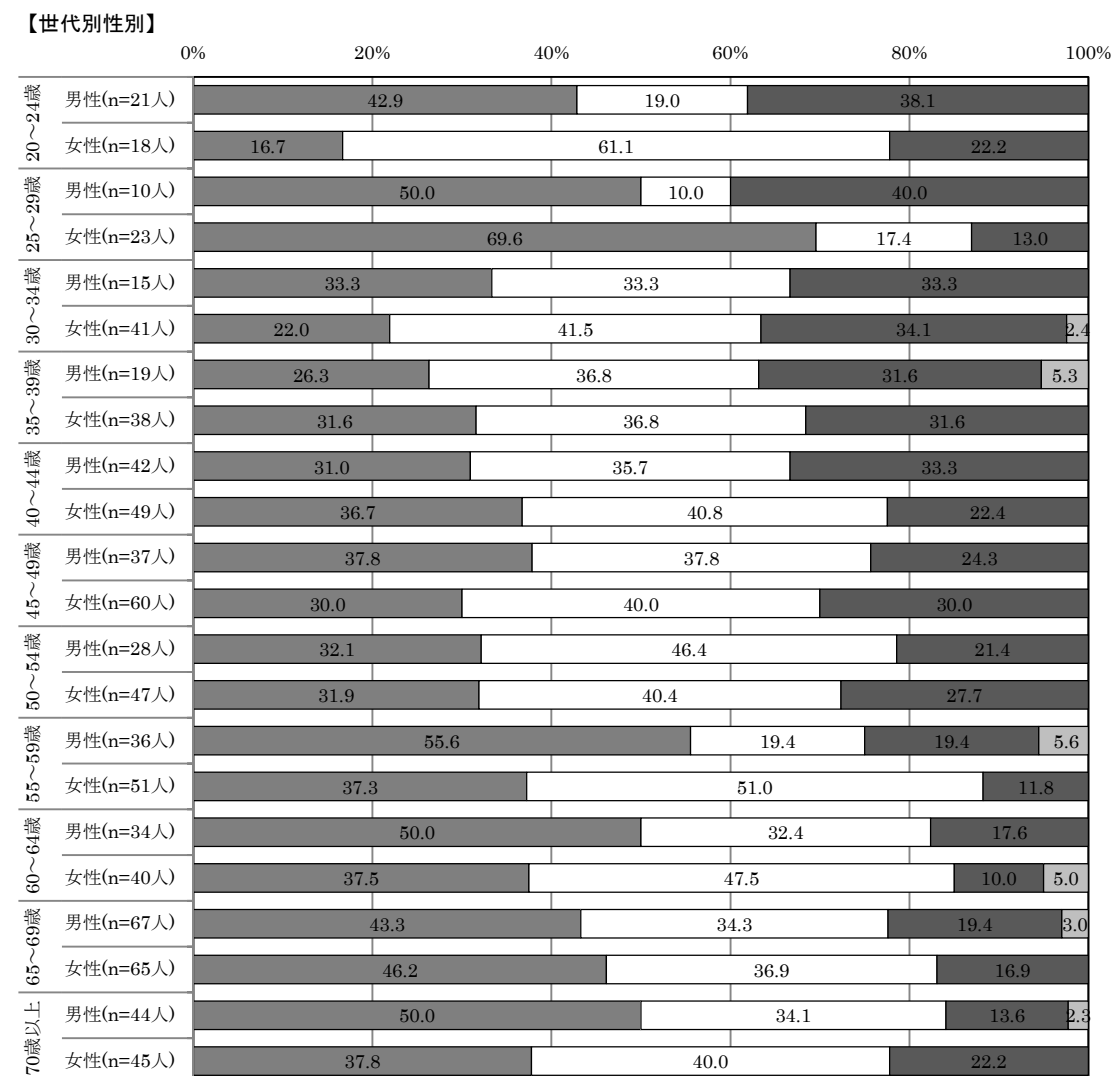
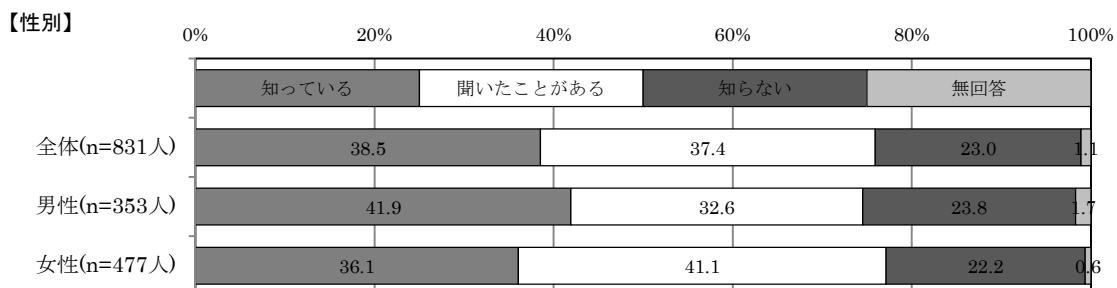
問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答を合計すると、「男女共同参画社会」が約8割（75.9%）と認知度が高い。「女性活躍推進法」（37.8%）、「長野市男女共同参画推進条例」（35.8%）、「長野市男女共同参画センター」（35.0%）が約4割となっている。



1 男女共同参画社会

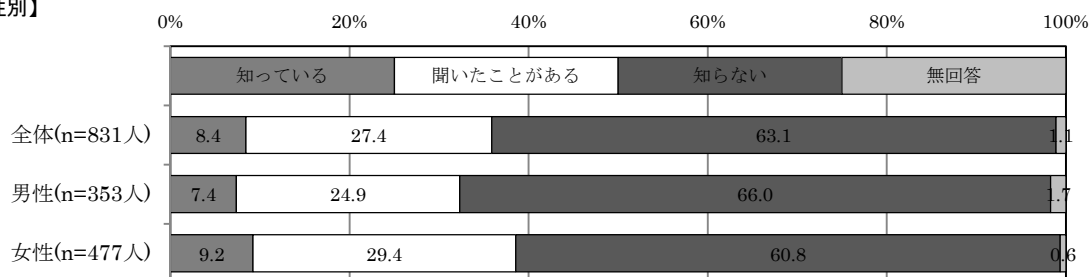
- ・性別では、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答の合計が、7割を超えている。
- ・世代別性別でみると、男性は20歳代で、「知らない」が約4割となっている。一方、女性は25歳～29歳で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が、約9割(87.0%)となっている。



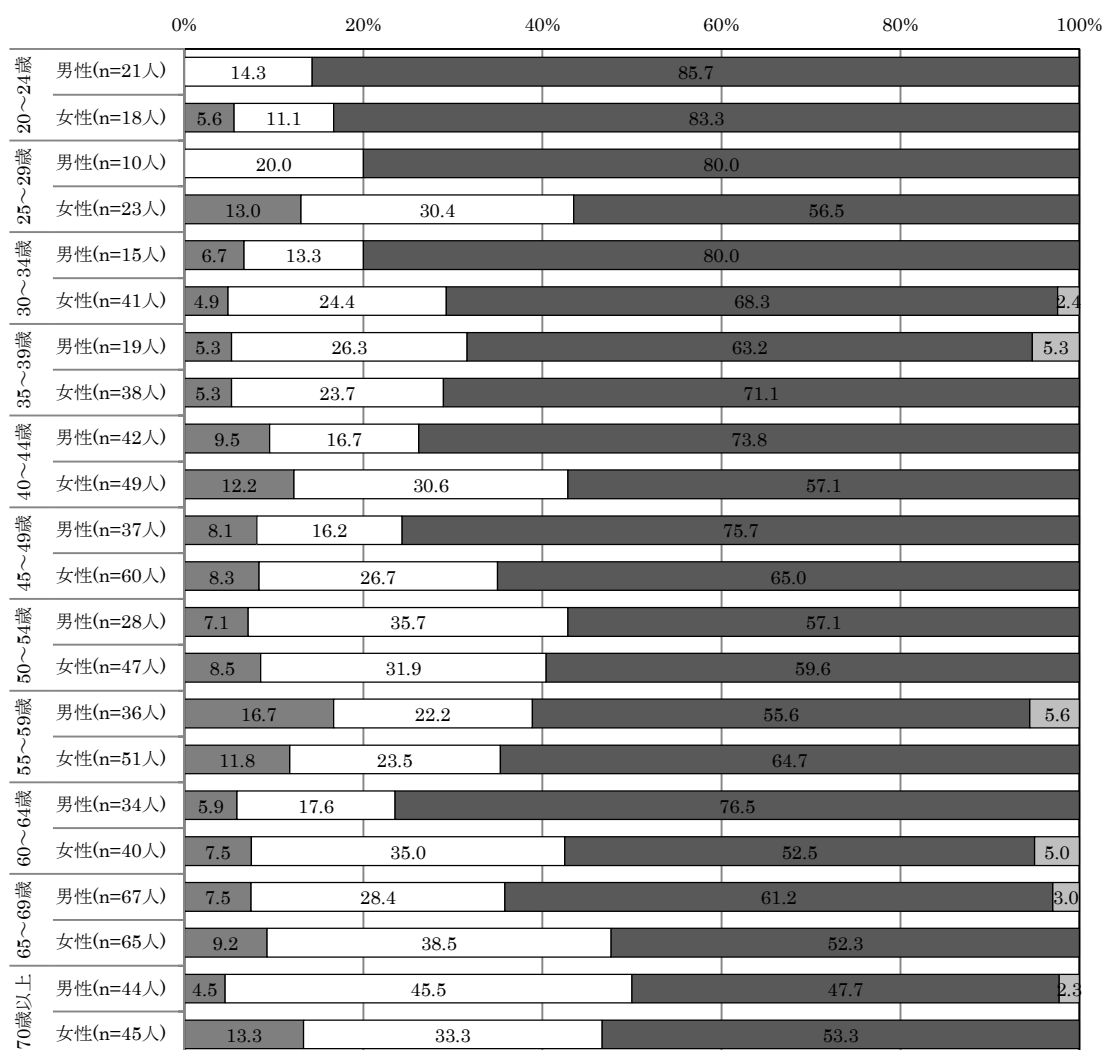
2 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は66.0%、女性は60.8%と、男女ともに6割を超えている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が32.3%、女性が38.6%となっており、若干女性の方が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、20歳～24歳で、「知らない」という回答割合は約9割(85.7%)となっている。

【性別】

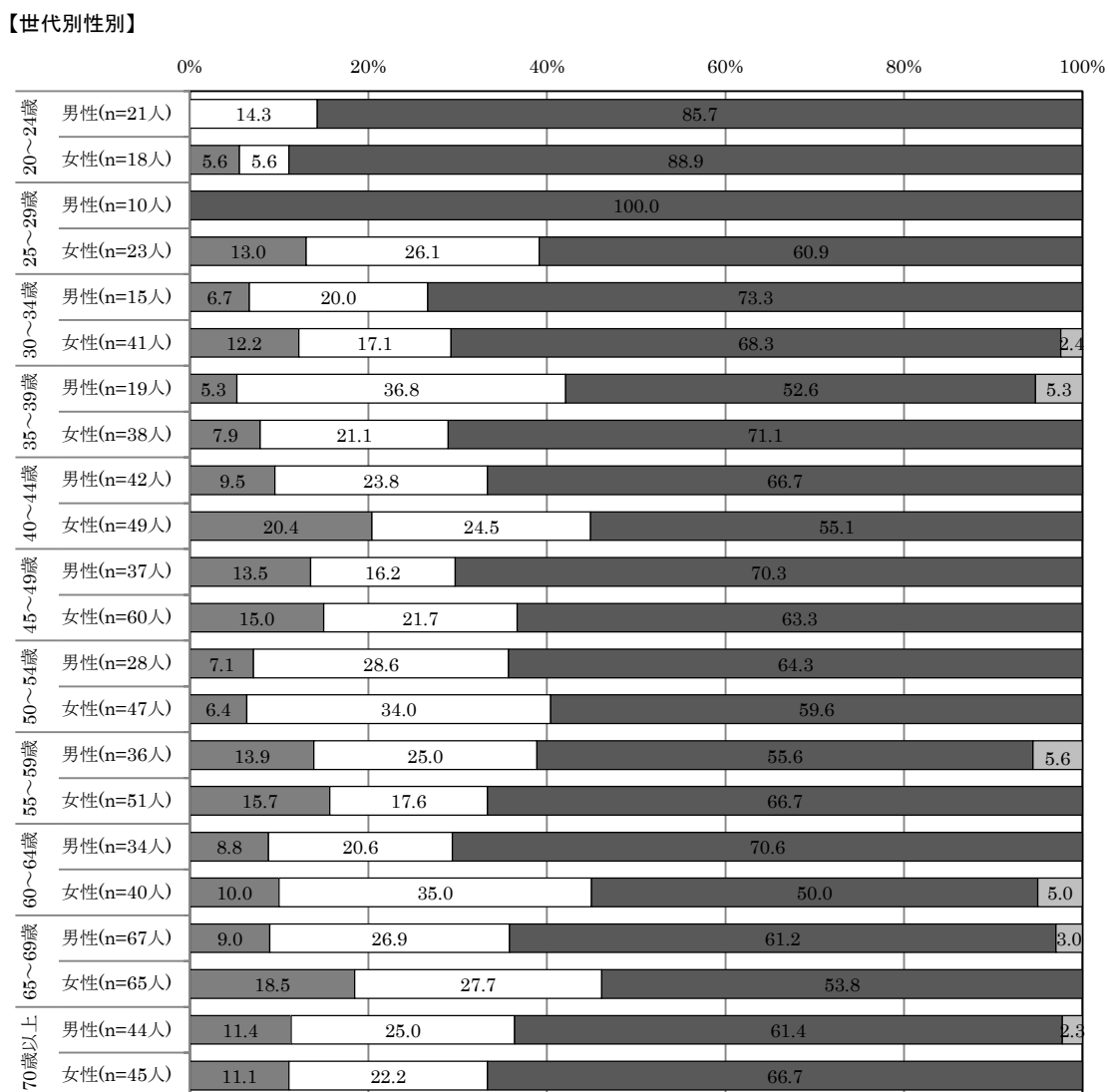
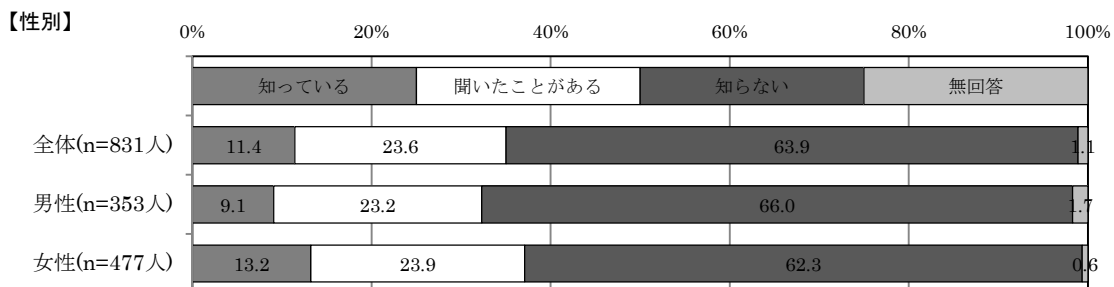


【世代別性別】



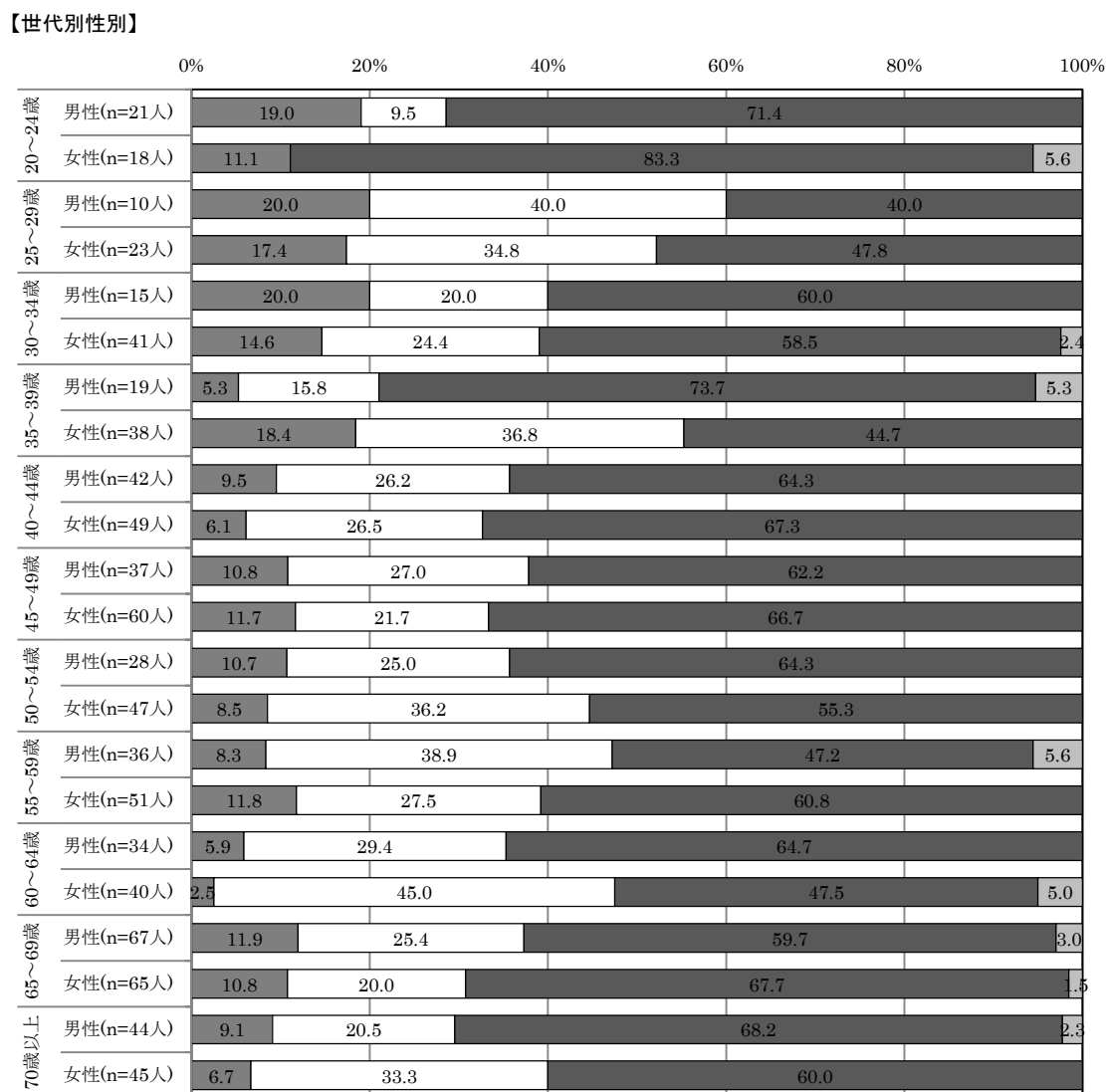
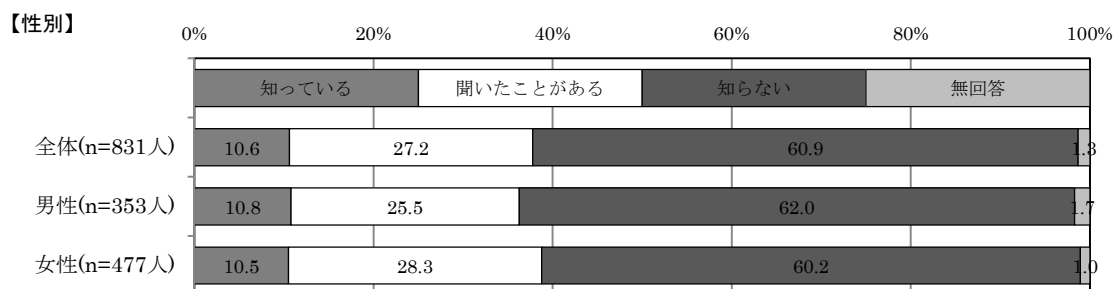
3 長野市男女共同参画センター

- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が66.0%、女性が62.3%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が32.3%、女性が37.1%と、若干女性の方が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「知らない」という回答割合が最も高いのは、男性の25歳～29歳で100%となっており、「知っている」という回答の割合が最も高いのは女性の40歳～44歳で20.4%となっている。



4 女性活躍推進法

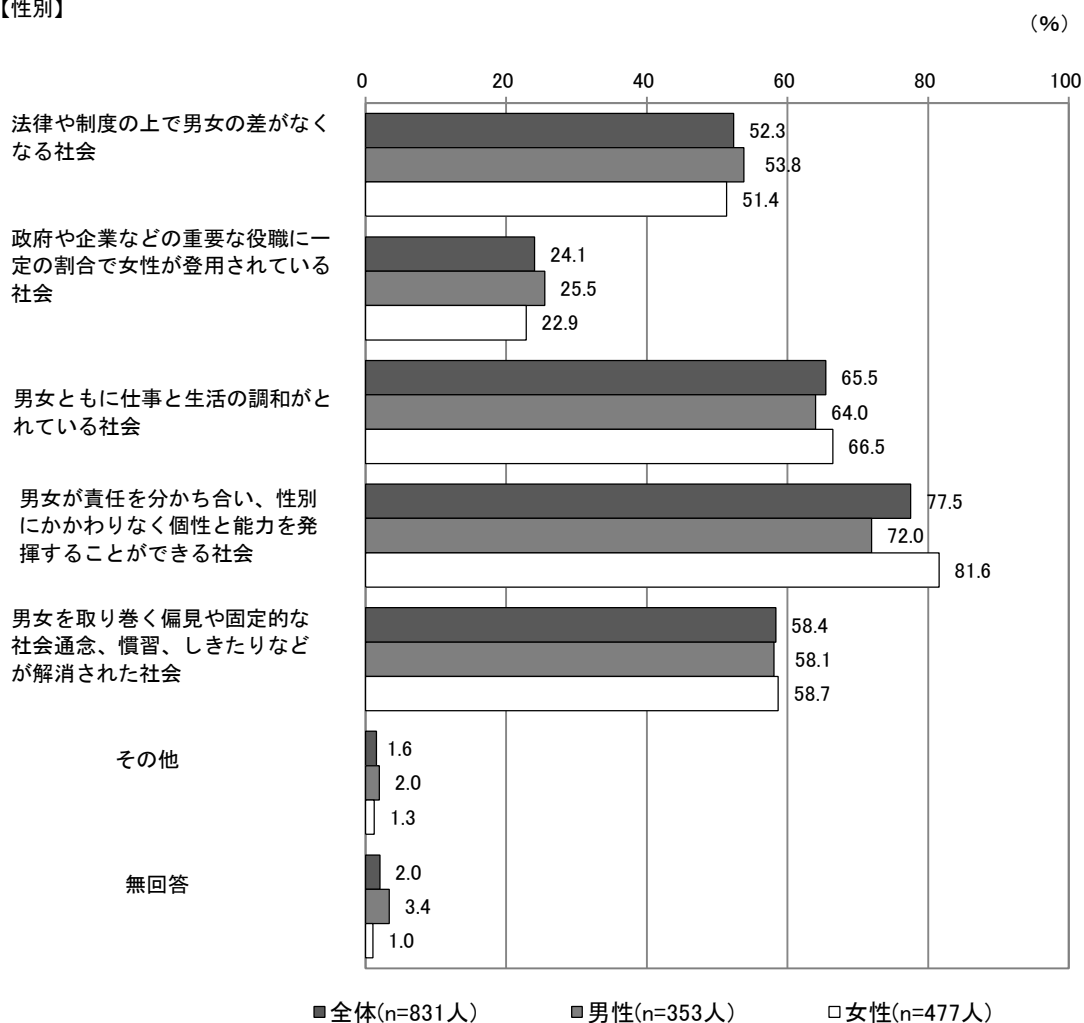
- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が62.0%、女性が60.2%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が36.3%、女性が38.8%と、やや女性の方が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「知らない」という回答割合が最も高いのは、女性の20歳～24歳で83.3%となっており、「知っている」という回答の割合が最も高いのは、男性の25歳～29歳と30歳～34歳が同じ割合で20.0%となっている。



問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

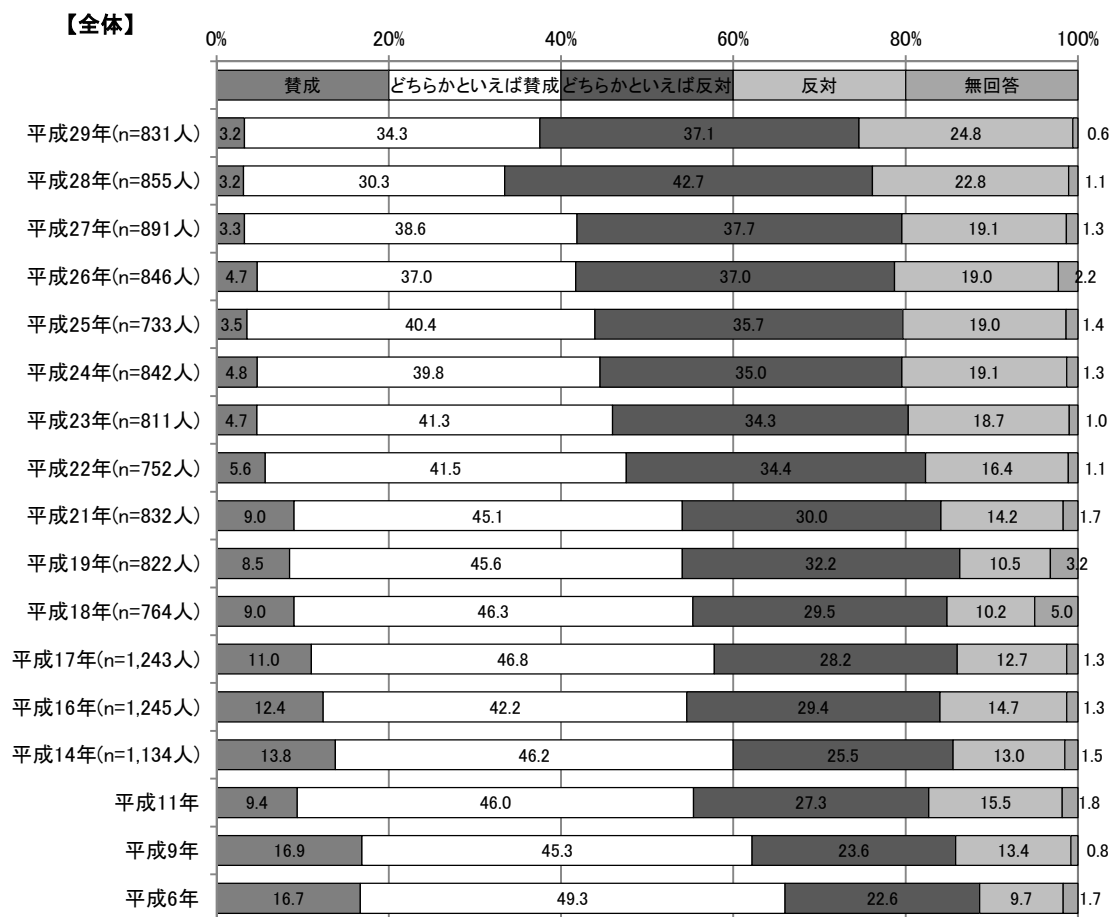
- ・全体では、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が約8割（77.5%）で最も多い回答となっている。次いで、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」（65.5%）、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」（58.4%）、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」（52.3%）の順となっている。
- ・性別でみると、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」という回答は、男性が72.0%で、女性が81.6%となっている。

【性別】

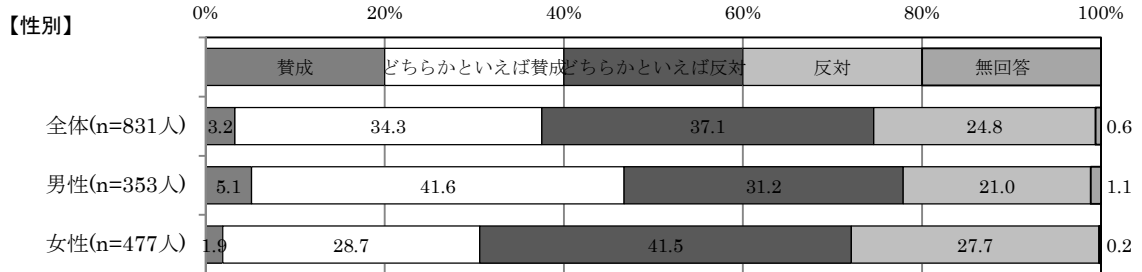


問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について
 どう思いますか。次の中から1つお選びください。

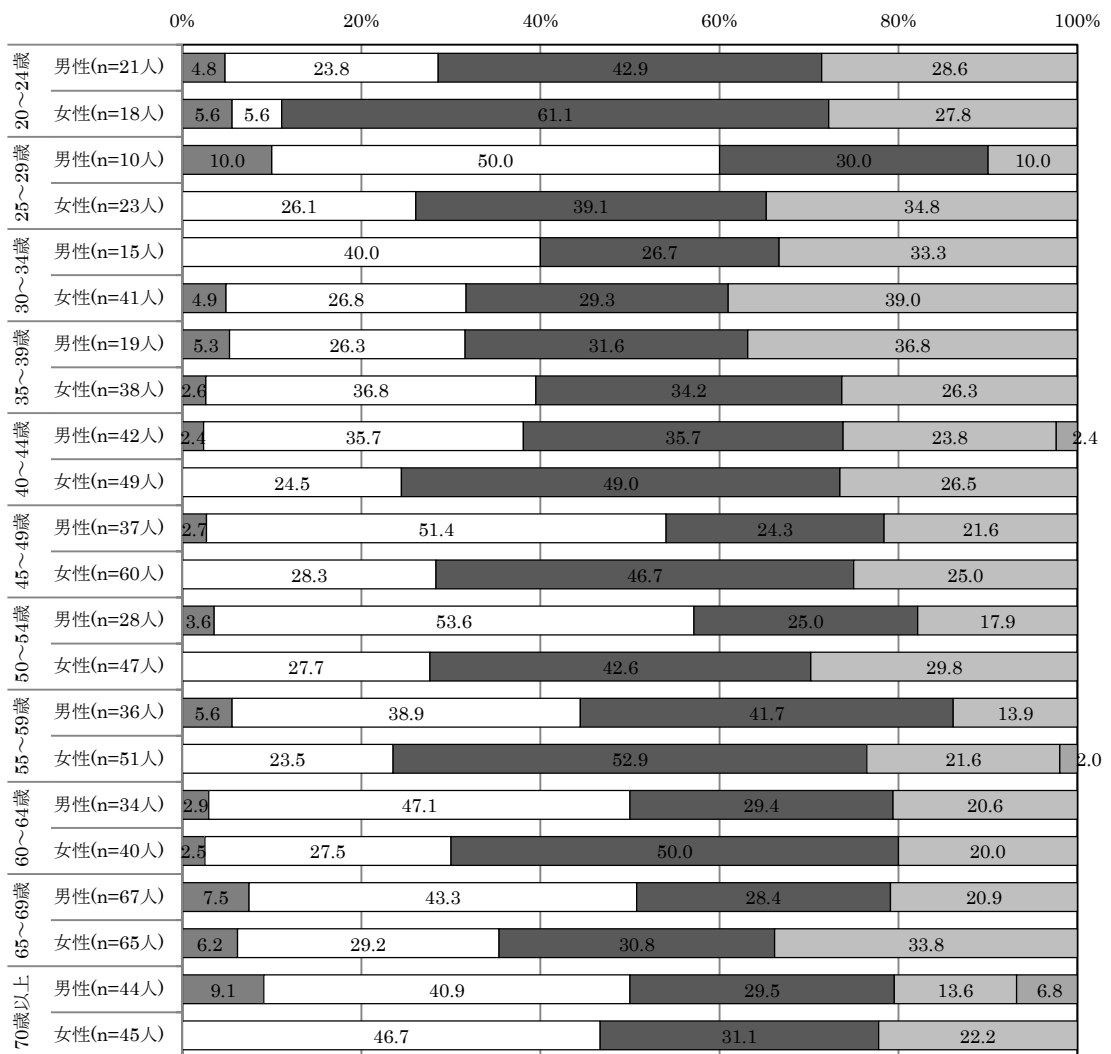
- ・平成29年の調査結果は、「賛成」が3.2%「どちらかといえば賛成」が34.3%、「どちらかとい
 えば反対」が37.1%、「反対」が24.8%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾
 向にある。平成29年は平成28年と比べて、「賛成」は増減なく、「どちらかといえば賛成」
 が4.0ポイントの増加となった。「どちらかといえば反対」と「反対」の回答割合の合計は
 3.6ポイントの減少となった。



- ・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答の合計は、男性が52.2%、女性が69.2%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答の合計は、25歳～29歳、45歳～49歳、50歳～54歳、60歳代、70歳以上の男性を除いて、5割を超えている。



【世代別性別】

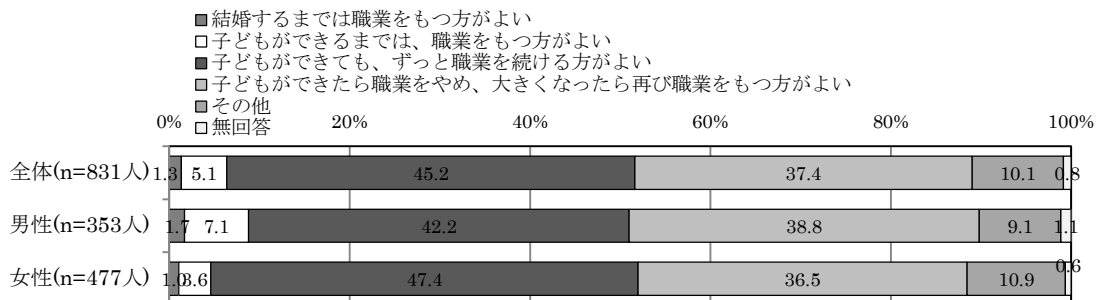


問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

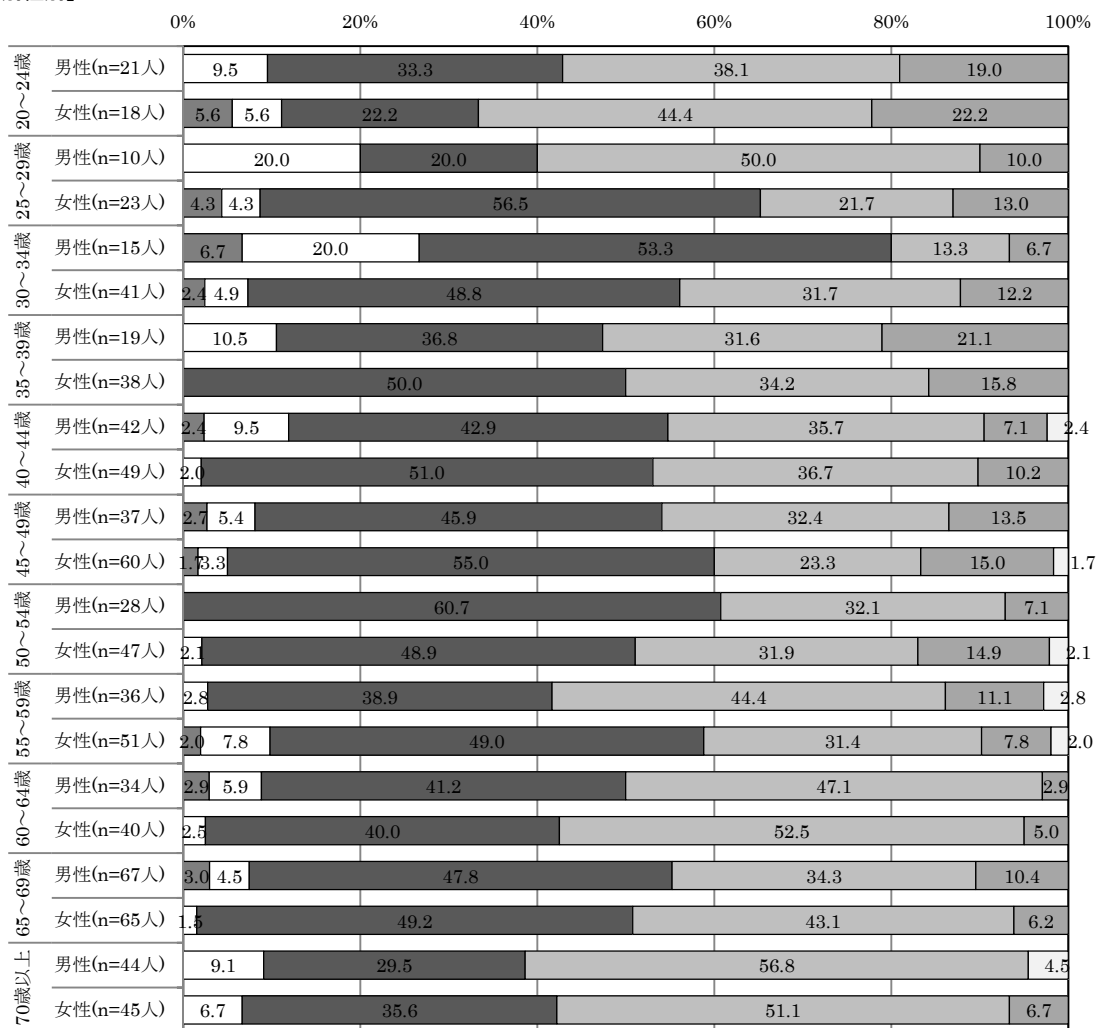
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性、女性ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別で見ると、男性は50歳～54歳で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。一方、女性は25歳～29歳、35歳～39歳、40歳代で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答の割合が5割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】



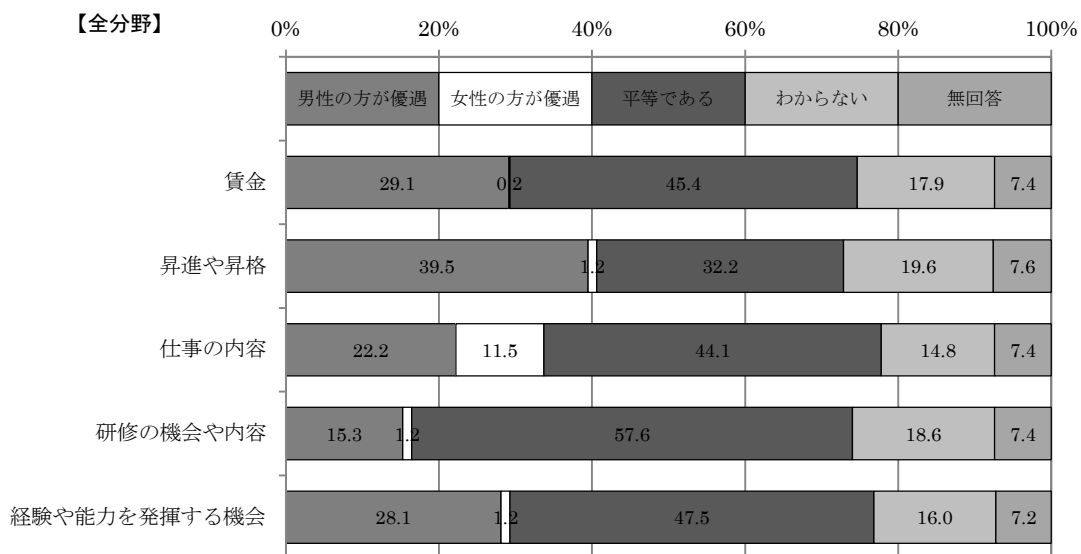
就労に関することについて

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

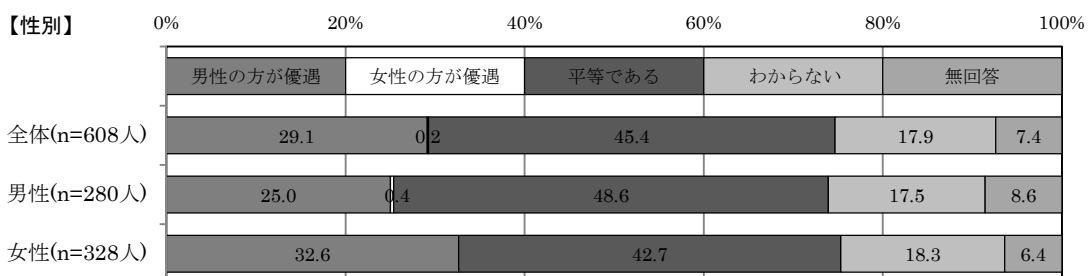
- ・「昇進や昇格」を除き、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割（39.5%）で、最も多くなっている。次いで、「賃金」が約3割（29.1%）、「経験や能力を發揮する機会」（28.1%）、「仕事の内容」（22.2%）、「研修の機会や内容」（15.3%）の順に続いている。一方、「女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（11.5%）となっている。それ以外の分野では、2%以下となっている。



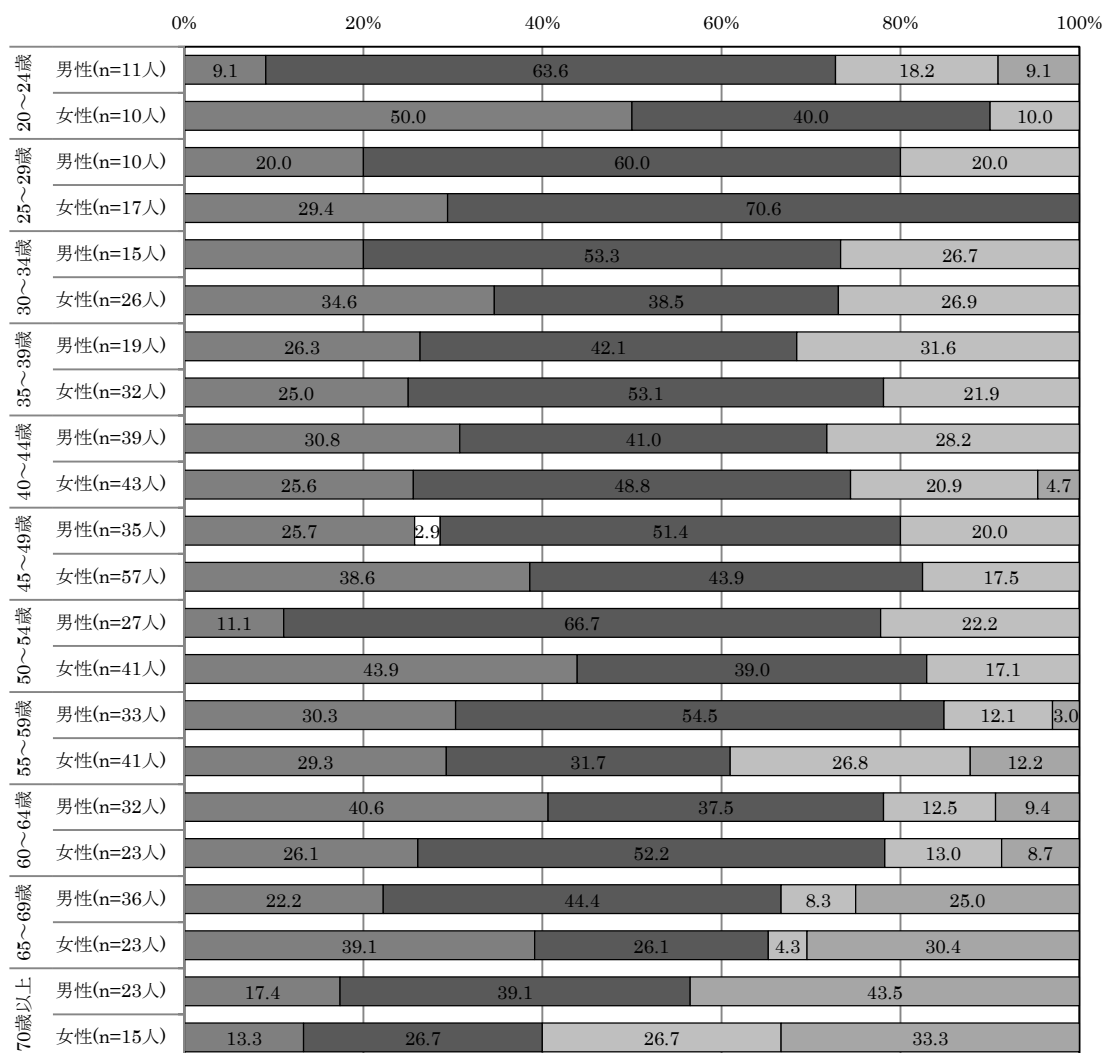
(全体 n=608人)

1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は48.6%で、女性は42.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、「平等である」という回答の割合は、25歳～29歳の女性で7割(70.6%)を超えている。「男性の方が優遇されている」という回答の割合は、20歳～24歳の女性で5割と、ほかの年代に比べて高くなっている。

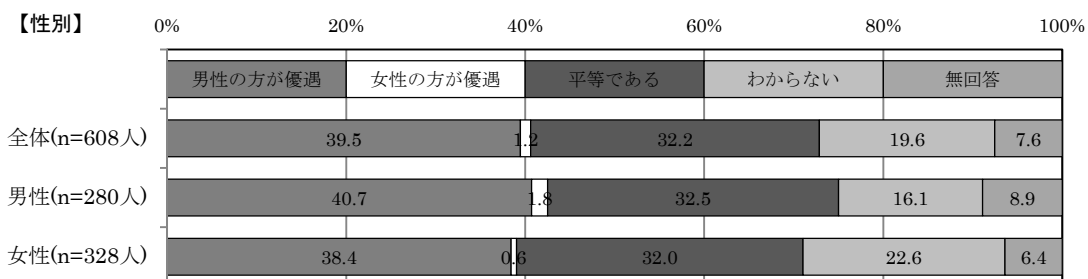


【世代別性別】

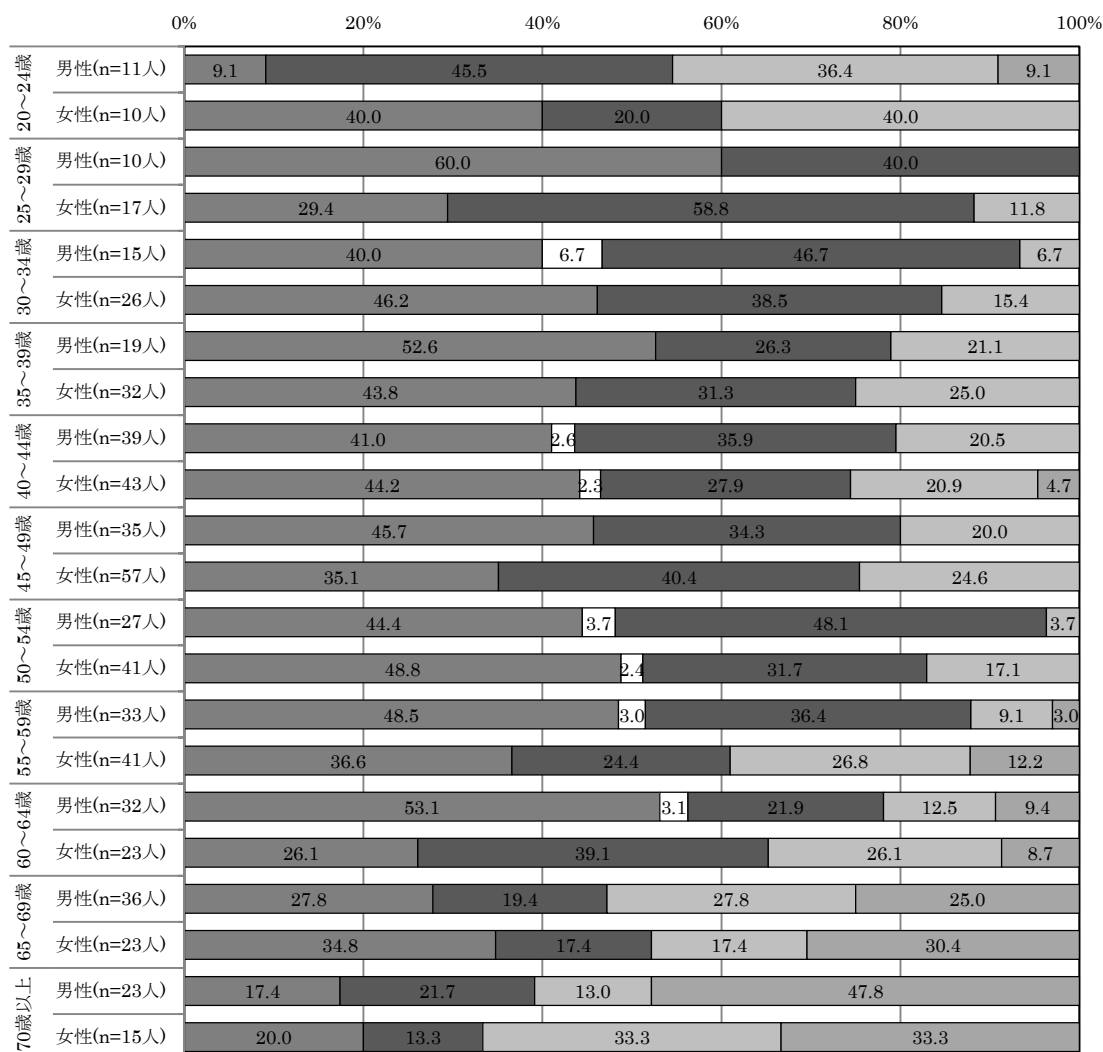


2 昇進や昇格

- ・性別でみると、男女ともに、「男性の方が優遇」という回答が最も多く、男性は40.7%で、女性は38.4%となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が32.5%、女性が32.0%となり、男性の方が女性より回答割合がやや高くなっている。

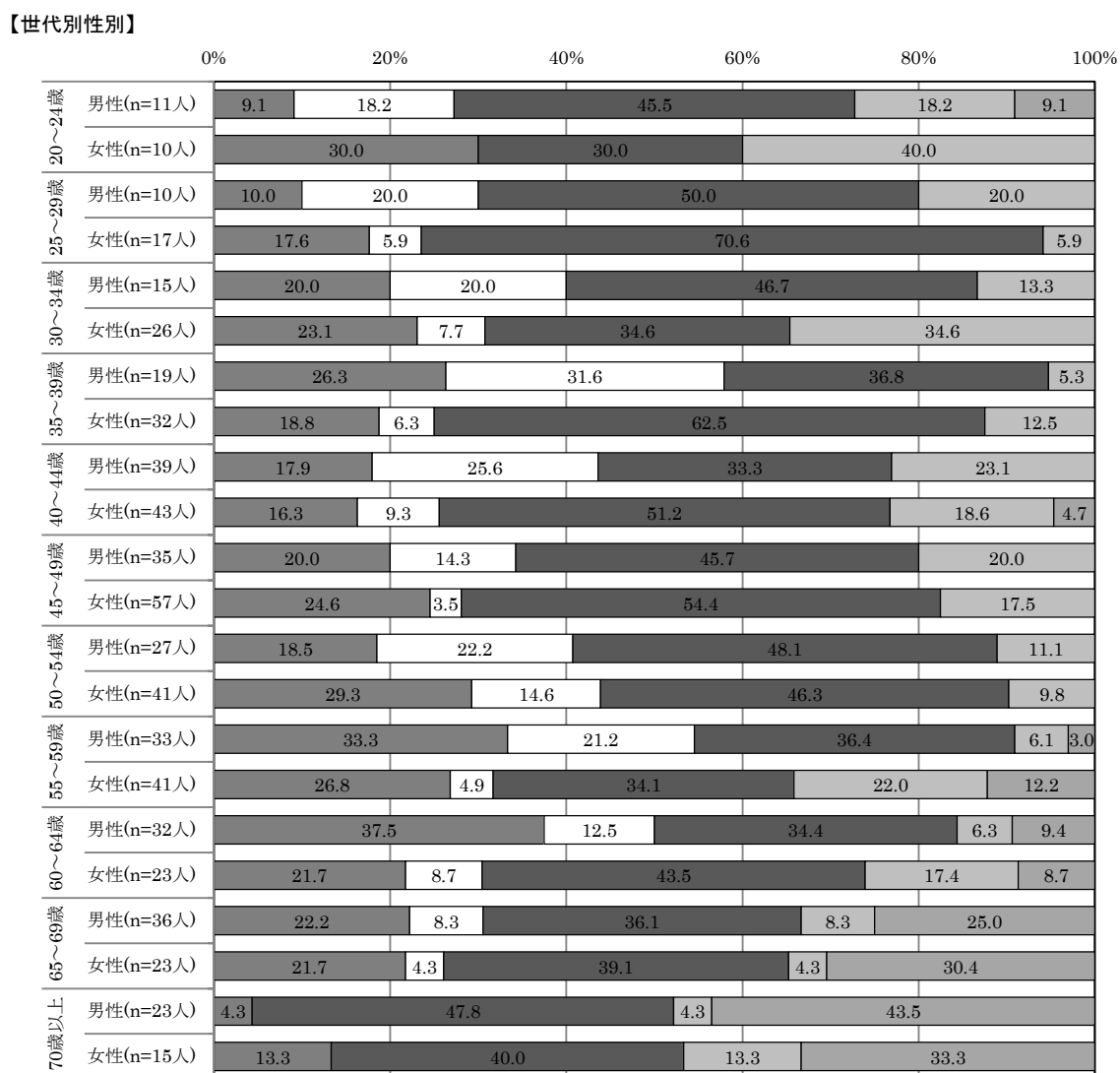
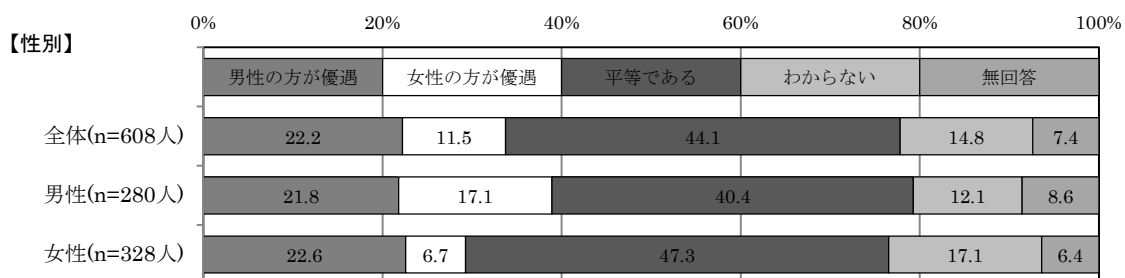


【世代別性別】



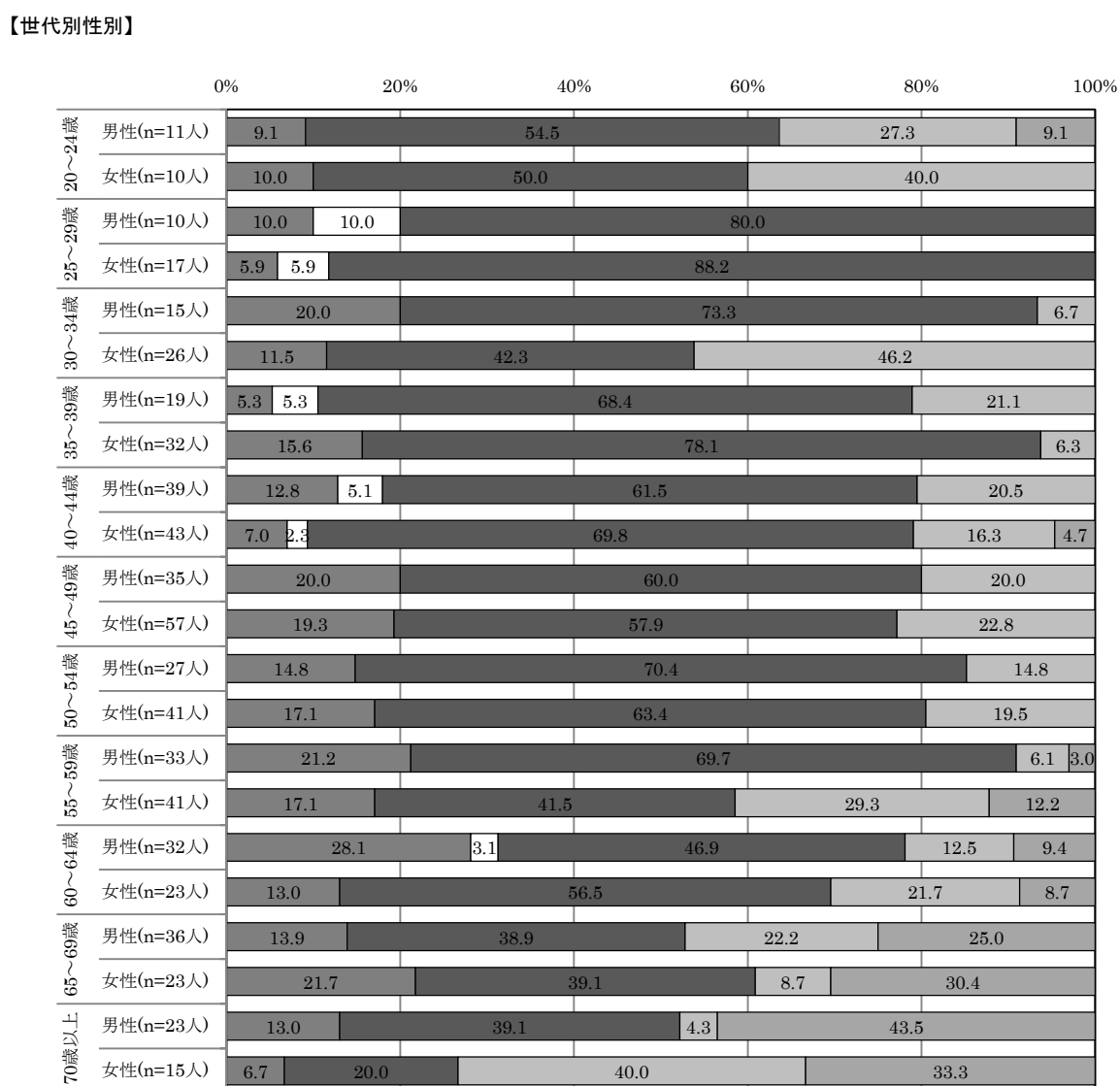
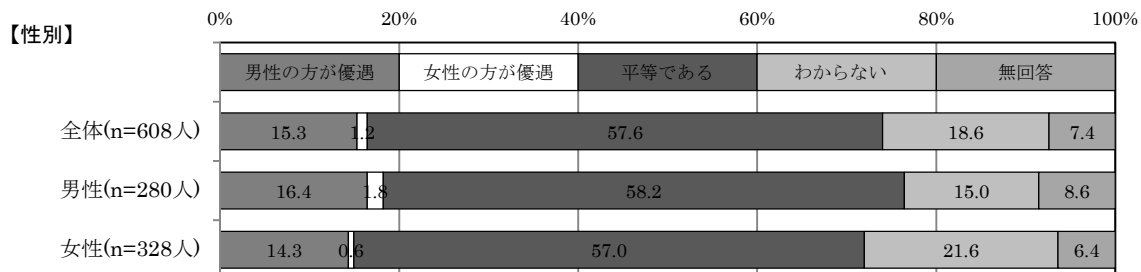
3 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が40.4%、女性が47.3%となっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が17.1%、女性が6.7%で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別では、男性の60歳～64歳においては、「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。



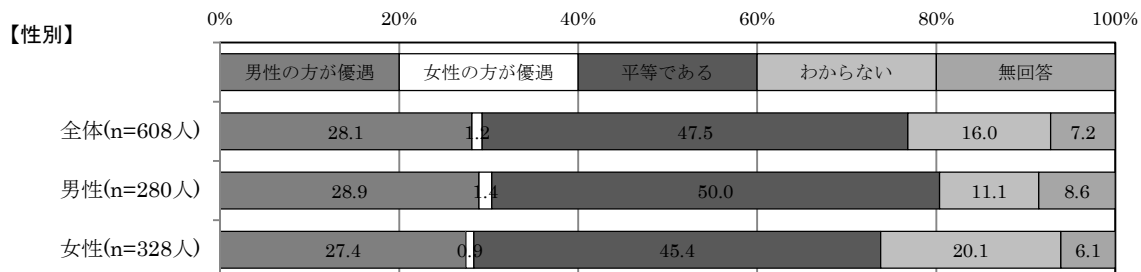
4 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が58.2%、女性が57.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳、70歳以上の女性以外は、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。70歳以上の女性で、「わからない」又は「無回答」という回答の割合が多い傾向がみられる。

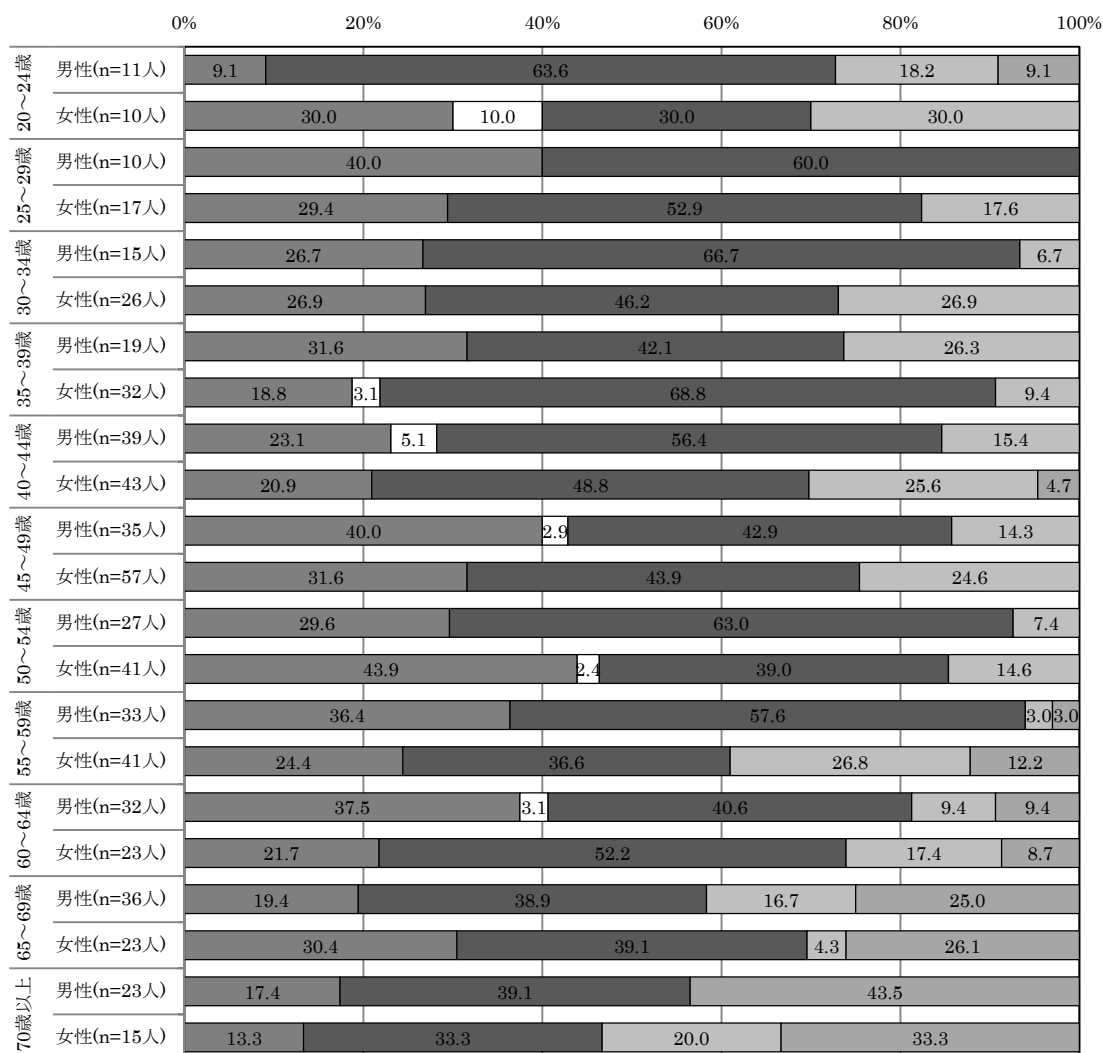


5 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が50.0%、女性が45.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、男性では70歳以上以外の年代で、女性では20歳～24歳、50歳～54歳、70歳以上以外で、いずれの年代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



【世代別性別】



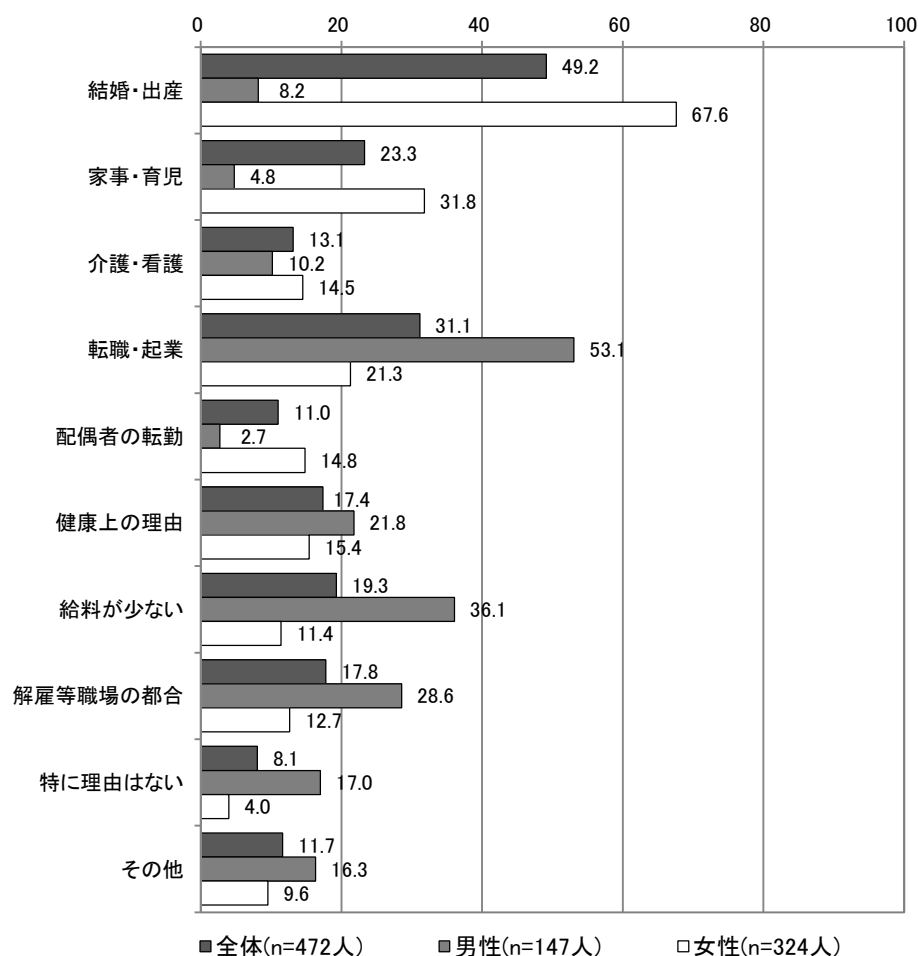
問7 離職経験のある方におたずねします。

離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- ・全体で見ると、「結婚・出産」(49.2%)が最も多い回答となっている。次いで、「転職・起業」(31.1%)、「家事・育児」(23.3%)の順が続いている。
 - ・性別で見ると、男性は、「転職・起業」(53.1%)、「給料が少ない」(36.1%)、「解雇等職場の都合」(28.6%)の順となっている。女性は、「結婚・出産」(67.6%)、「家事・育児」(31.8%)、「転職・起業」(21.3%)の順となっている。
- (※無回答は、離職経験のない方として集計している)。

(%)

【性別】

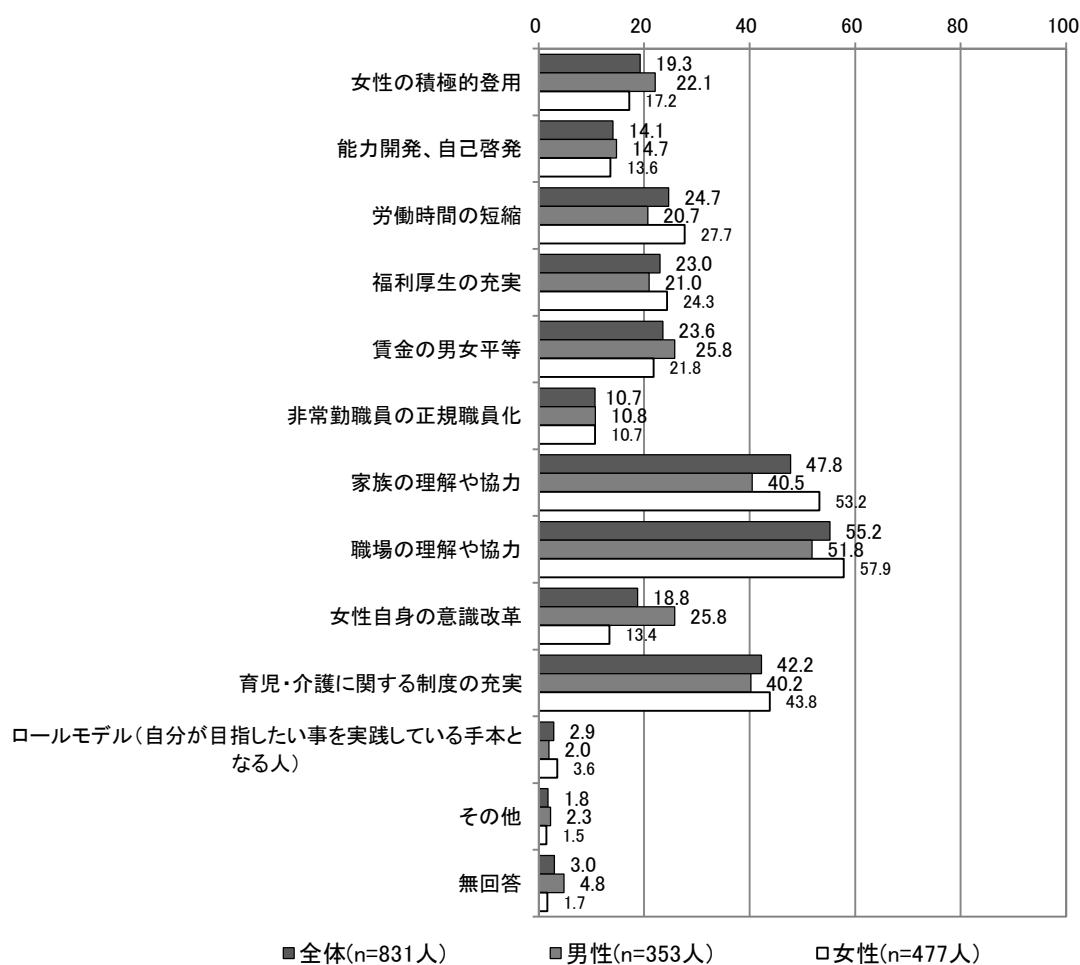


問8 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
該当するものを3つまでお選びください。

- 全体でみると、「職場の理解や協力」(55.2%)が最も多い回答となっている。次いで、「家族の理解や協力」(47.8%)、「育児・介護に関する制度の充実」(42.2%)の順が続いている。
- 性別でみると、男性は、「職場の理解や協力」(51.8%)、「家族の理解や協力」(40.5%)、「育児・介護に関する制度の充実」(40.2%)の順となっている。女性も同様に、「職場の理解や協力」(57.9%)、「家族の理解や協力」(53.2%)、「育児・介護に関する制度の充実」(43.8%)の順となっている。

(%)

【性別】

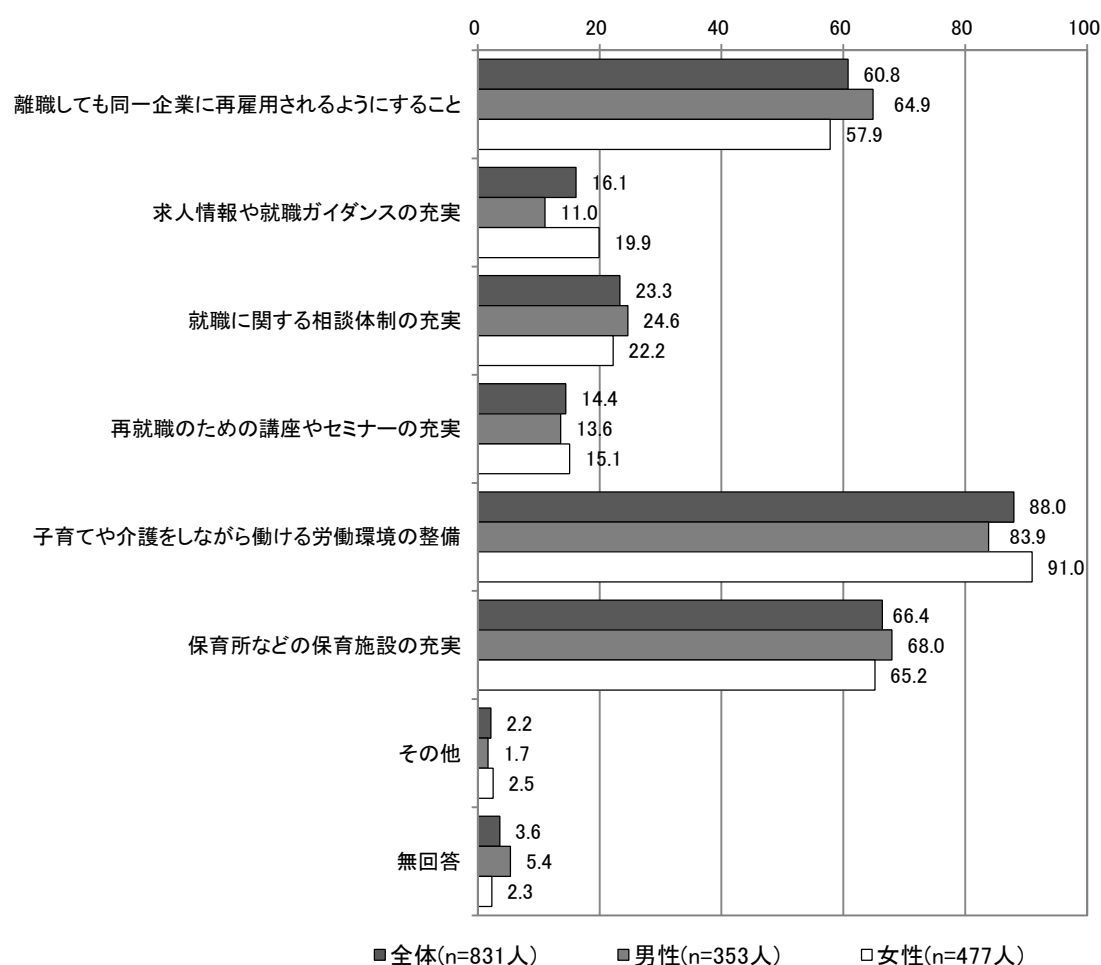


問9 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(88.0%)が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」(66.4%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(60.8%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(83.9%)、「保育所などの保育施設の充実」(68.0%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(64.9%)の順となっている。また、女性も同様に、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(91.0%)、「保育所などの保育施設の充実」(65.2%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(57.9%)の順となっている。

(%)

【性別】

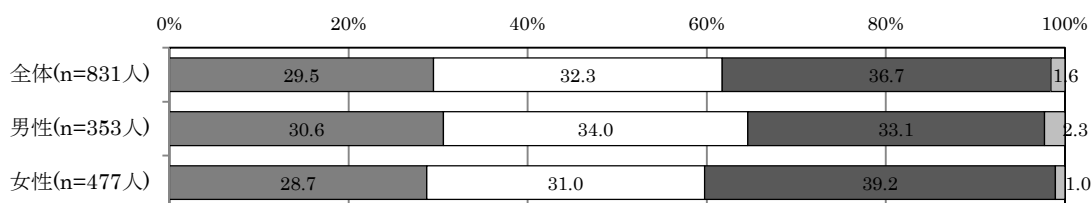


仕事と生活の調和に関することについて

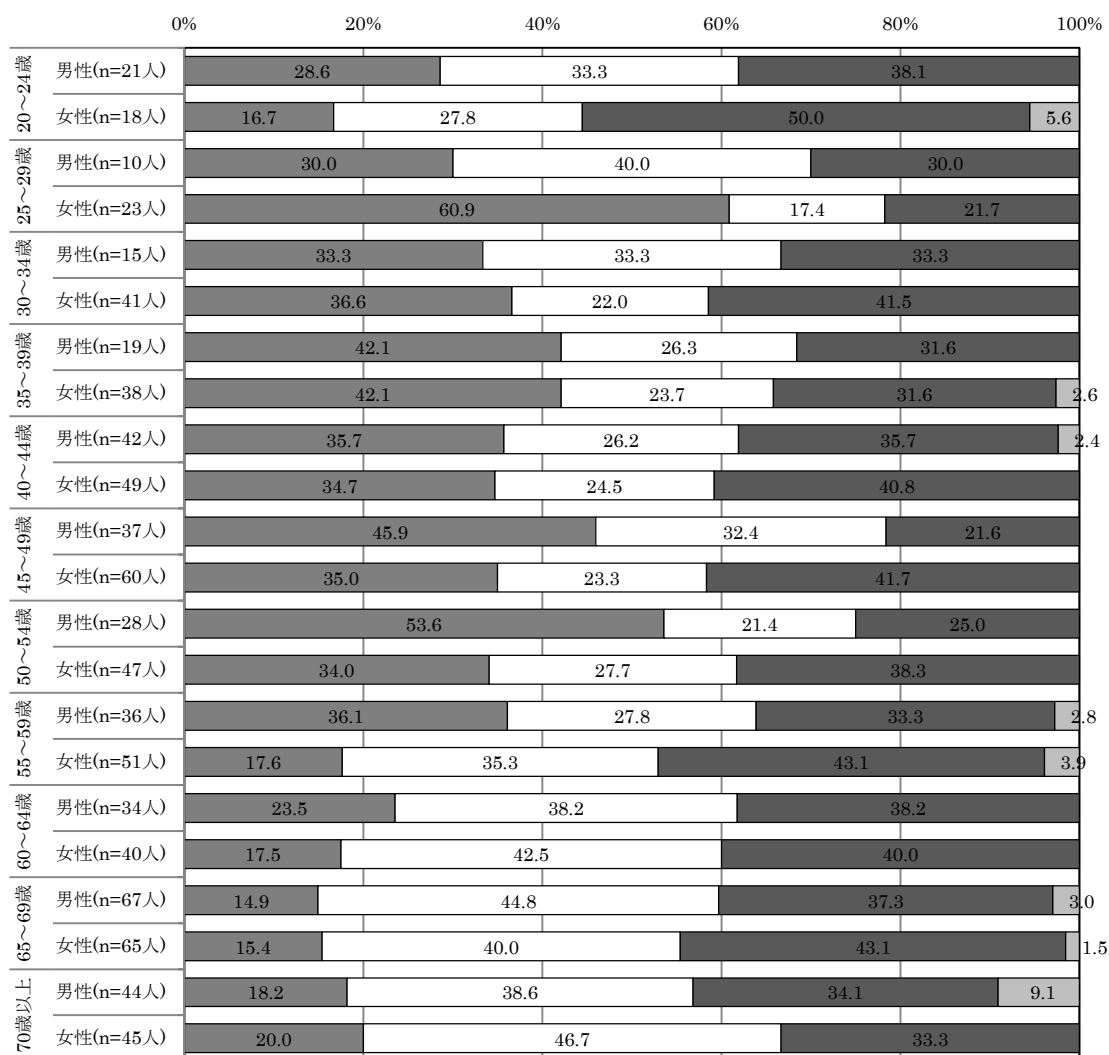
問 10 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男性では、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」という回答が最も多く、約3割（34.0%）であるのに対し、女性では「知らない」が約4割（39.2%）となっている。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が30.6%、女性が28.7%で、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では50歳～54歳、女性では25歳～29歳で、「言葉も内容も知っている」という回答割合が高くなっている。

【性別】 ■言葉も内容も知っている □言葉は聞いたことがあるが内容は知らない ■知らない □無回答



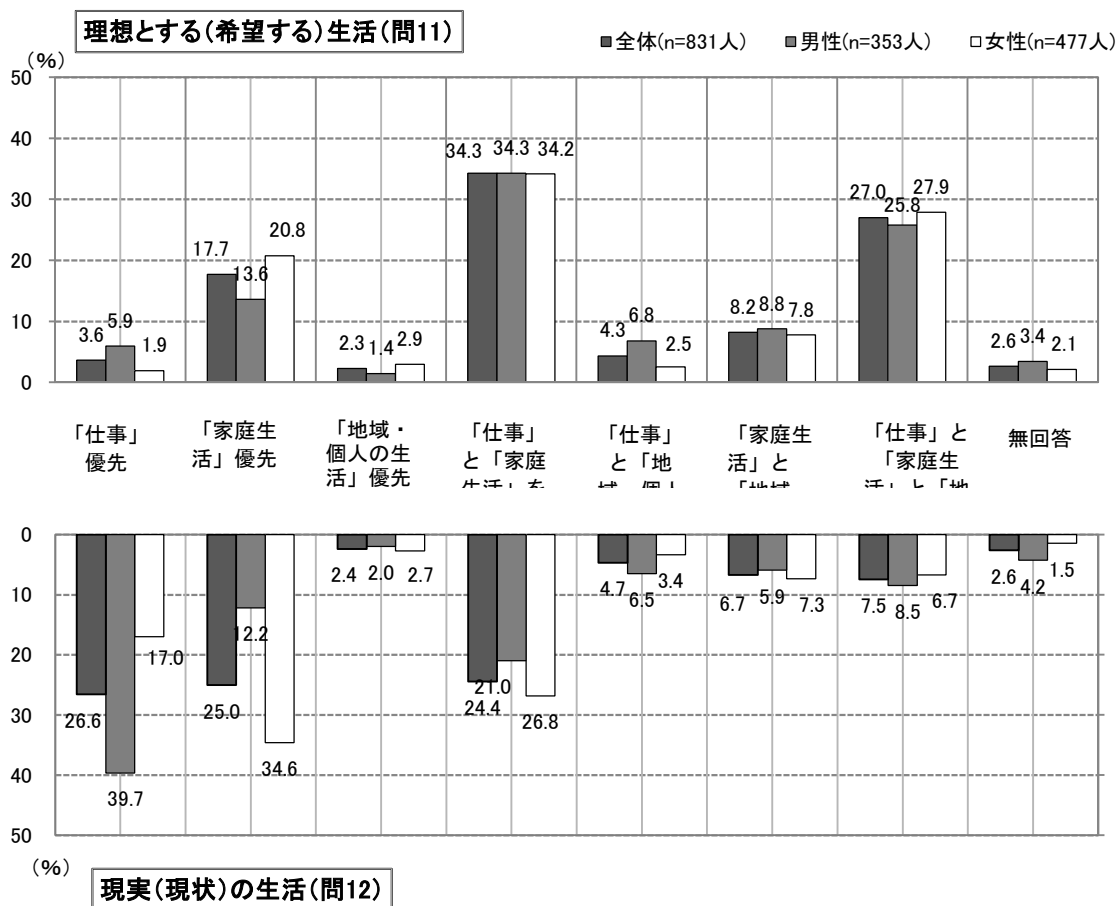
【世代別性別】



問11 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問12 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- ・全体でみると、問11の理想とする生活については『仕事』と『家庭生活』をともに優先という回答が最も多く、約3割（34.3%）となっている。次に、『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先（27.0%）、『家庭生活』優先（17.7%）の順が続いている。
- ・一方、問12の現実の生活では、『仕事』優先（26.6%）という回答が最も多く、次いで、『家庭生活』優先（25.0%）、『仕事』と『家庭生活』をともに優先（24.4%）となっている。
- ・理想の生活では1番目であった『仕事』と『家庭生活』をともに優先が、現実の生活では3番目となっている。また、理想の生活で2番目に多かった『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先という回答は、現実の生活では4番目となっている。
- ・性別でみると、理想の生活においては『家庭生活』優先以外男女の回答に大きな差は見られないが、現実の生活においては、男性は『仕事』優先、女性は『家庭生活』優先が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。

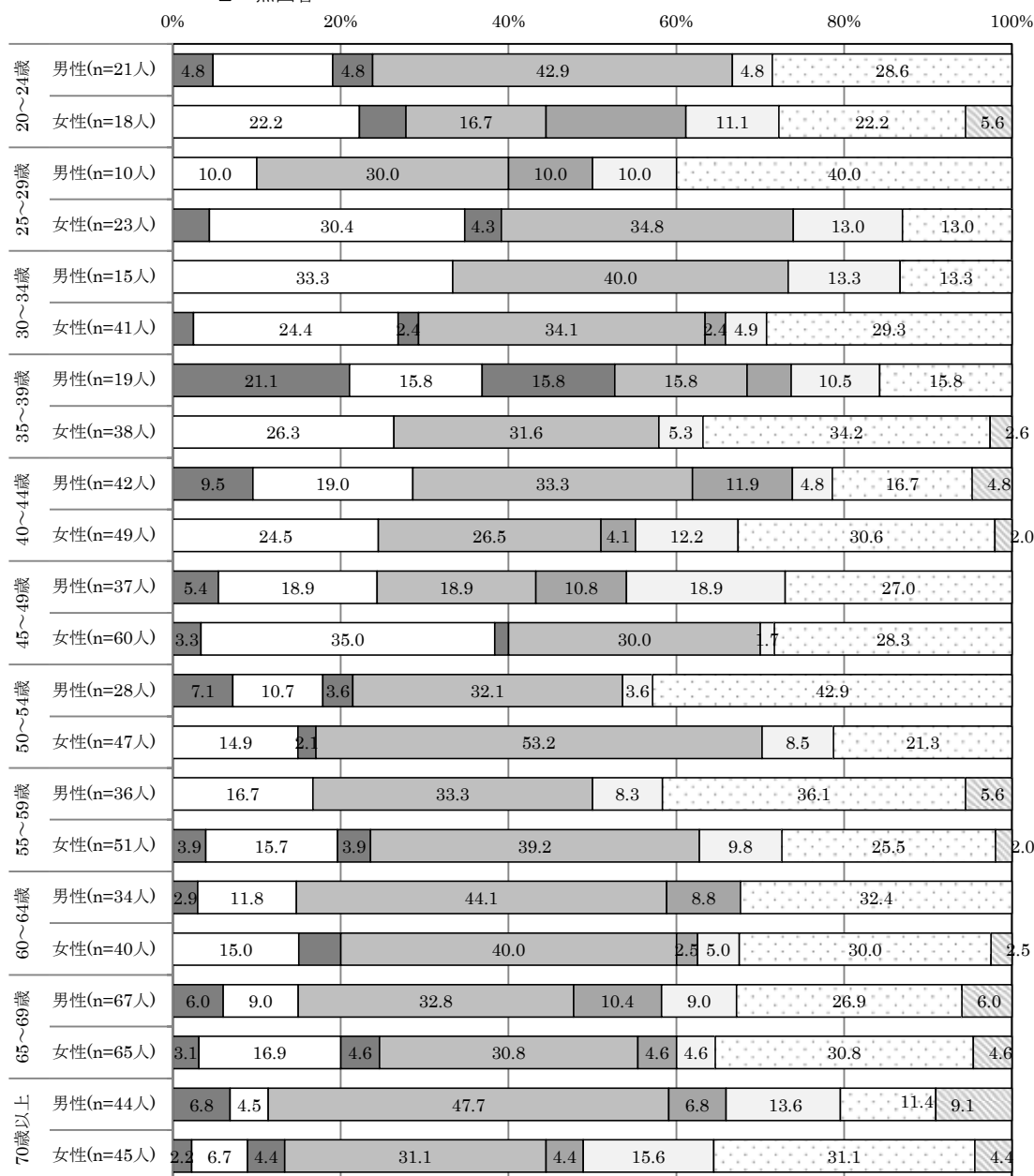


問 11 理想とする（希望する）生活 世代別性別

・世代別性別でみると、男性では35歳～39歳で「『仕事』優先」という回答が21.1%と他の回答を上回り、1番多い回答となっている。それ以外の年代では、男女ともに「『仕事』と『家庭生活』とともに優先」という回答や、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答が多い傾向にある。

【世代別性別】

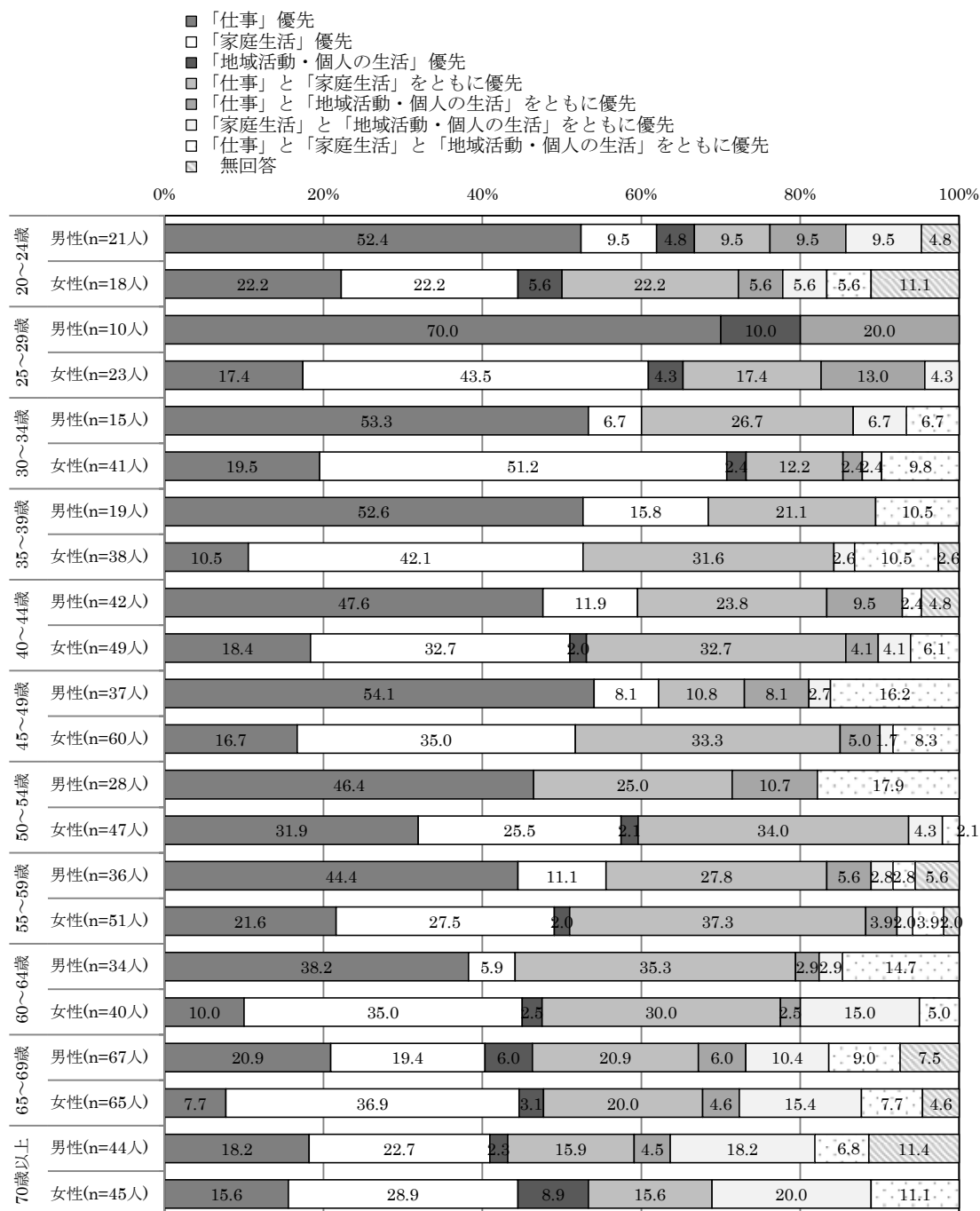
- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答



問 12 現実（現状）の生活 世代別性別

- ・世代別性別でみると、男性は、65歳～69歳、70歳以上以外の年代で、「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。一方女性は、20歳～24歳以外の年代で「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、65歳以上で増加している。

【世代別性別】

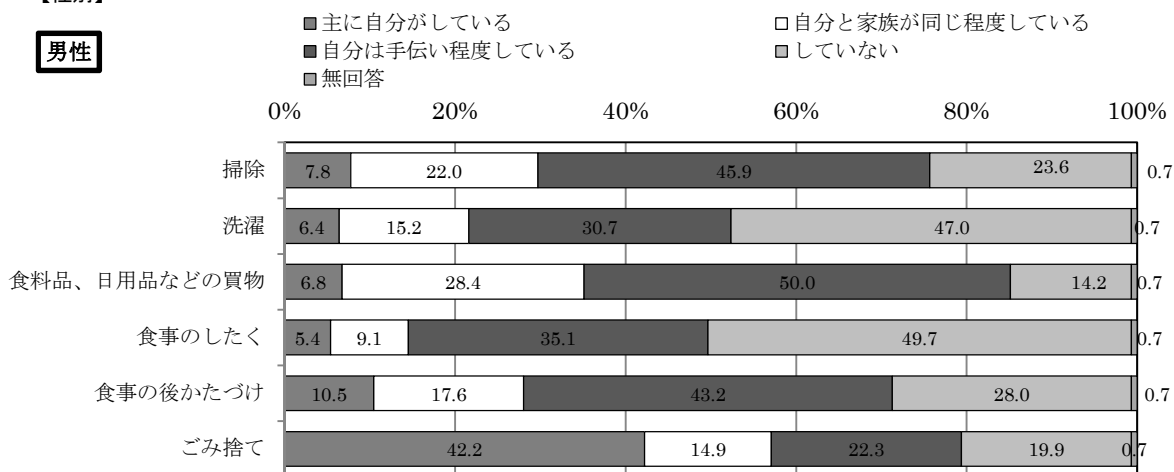


問 13 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。
 (※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 722 人とする)

- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約4割(42.2%)となっている。次いで、「食事の後かたづけ」(10.5%)、「掃除」(7.8%)と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約8割(79.6%)となっている。次いで、「洗濯」(74.6%)、「掃除」(72.3%)となっている。

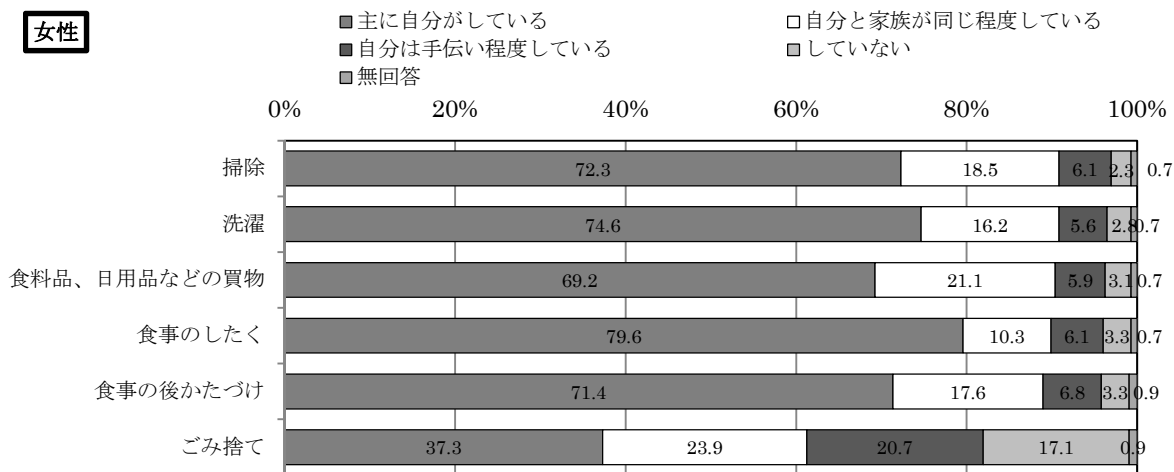
【性別】

男性



男性(n=296人)

女性

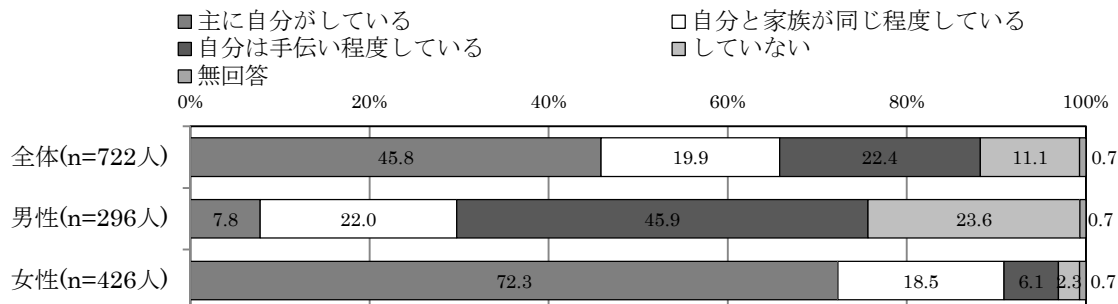


女性(n=426人)

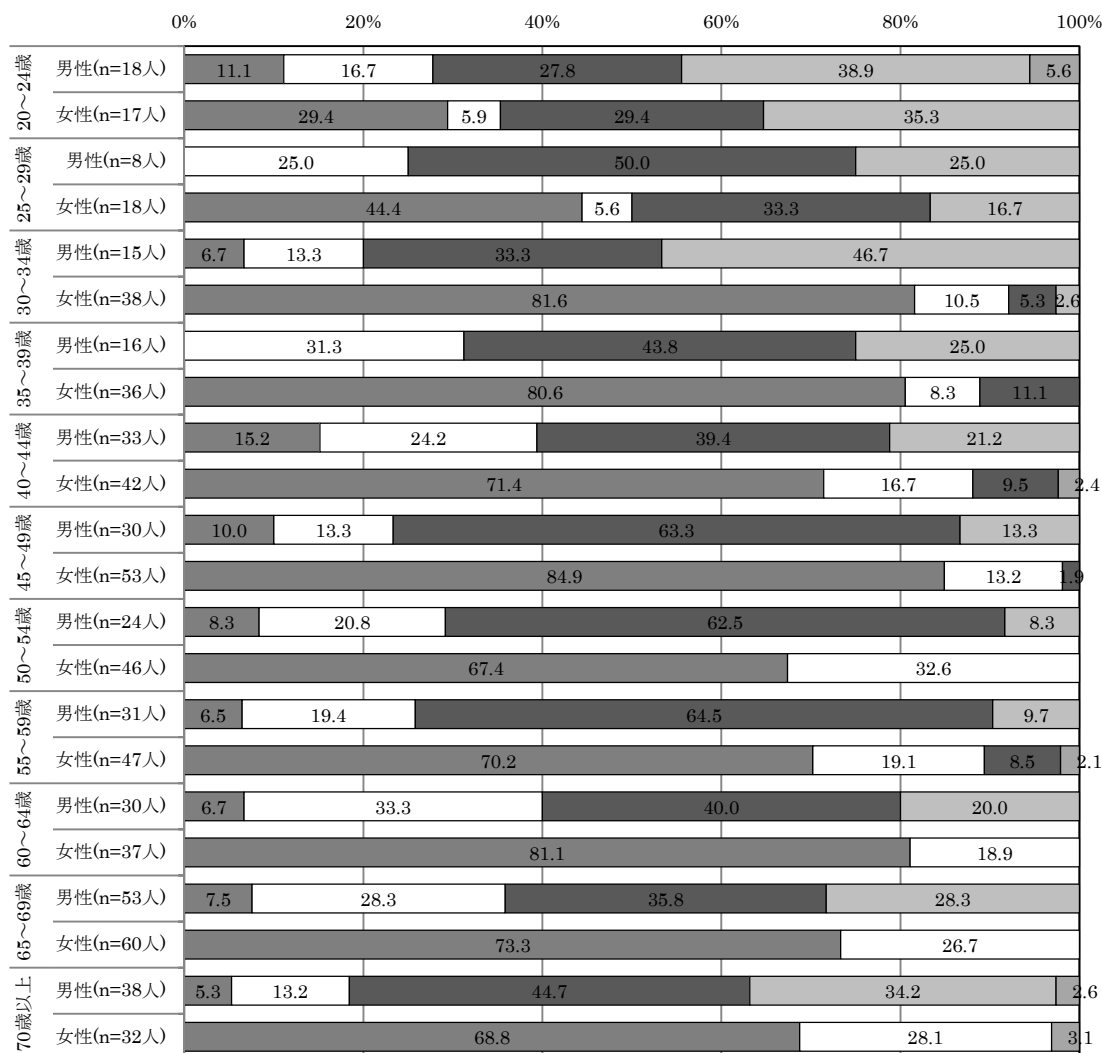
1 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(72.3%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(45.9%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が最も多いのは、30歳～34歳の男性46.7%となっている。

【性別】

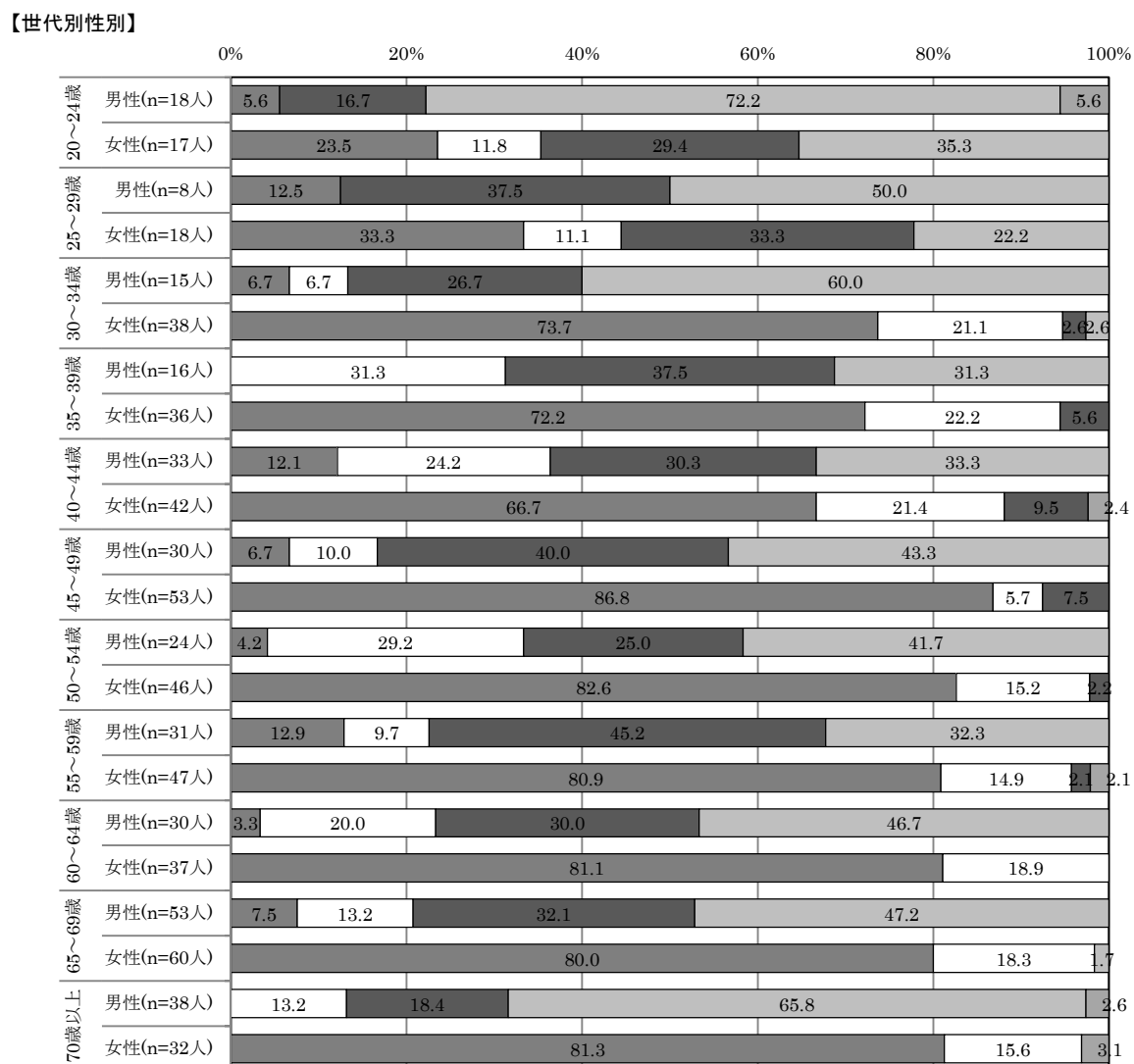
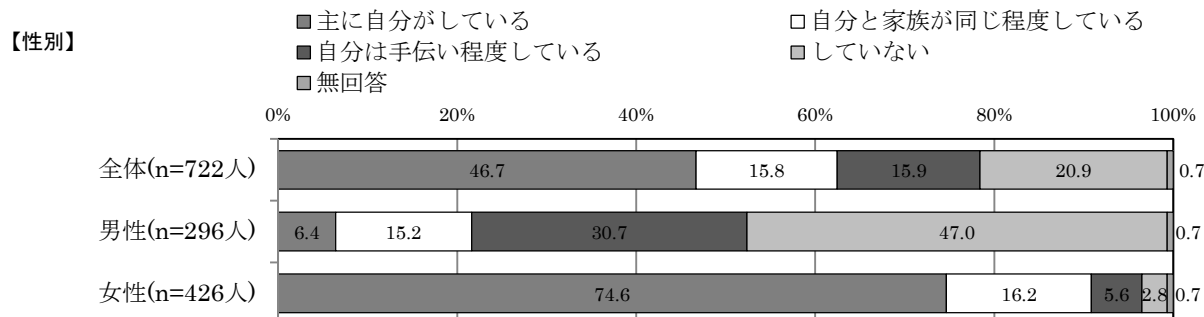


【世代別性別】



2 洗濯

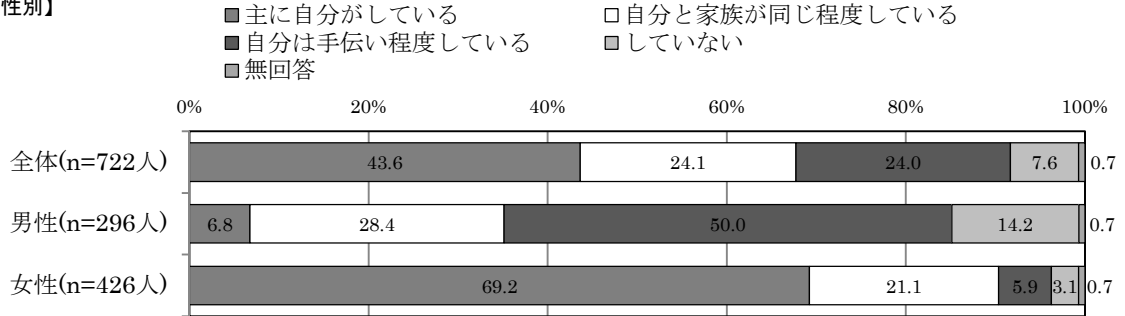
- ・性別で見ると、女性は「主に自分がしている」(74.6%)という回答が最も多く、男性は「していない」(47.0%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳～24歳の男性では、「していない」という回答割合が約7割(72.2%)となっている。



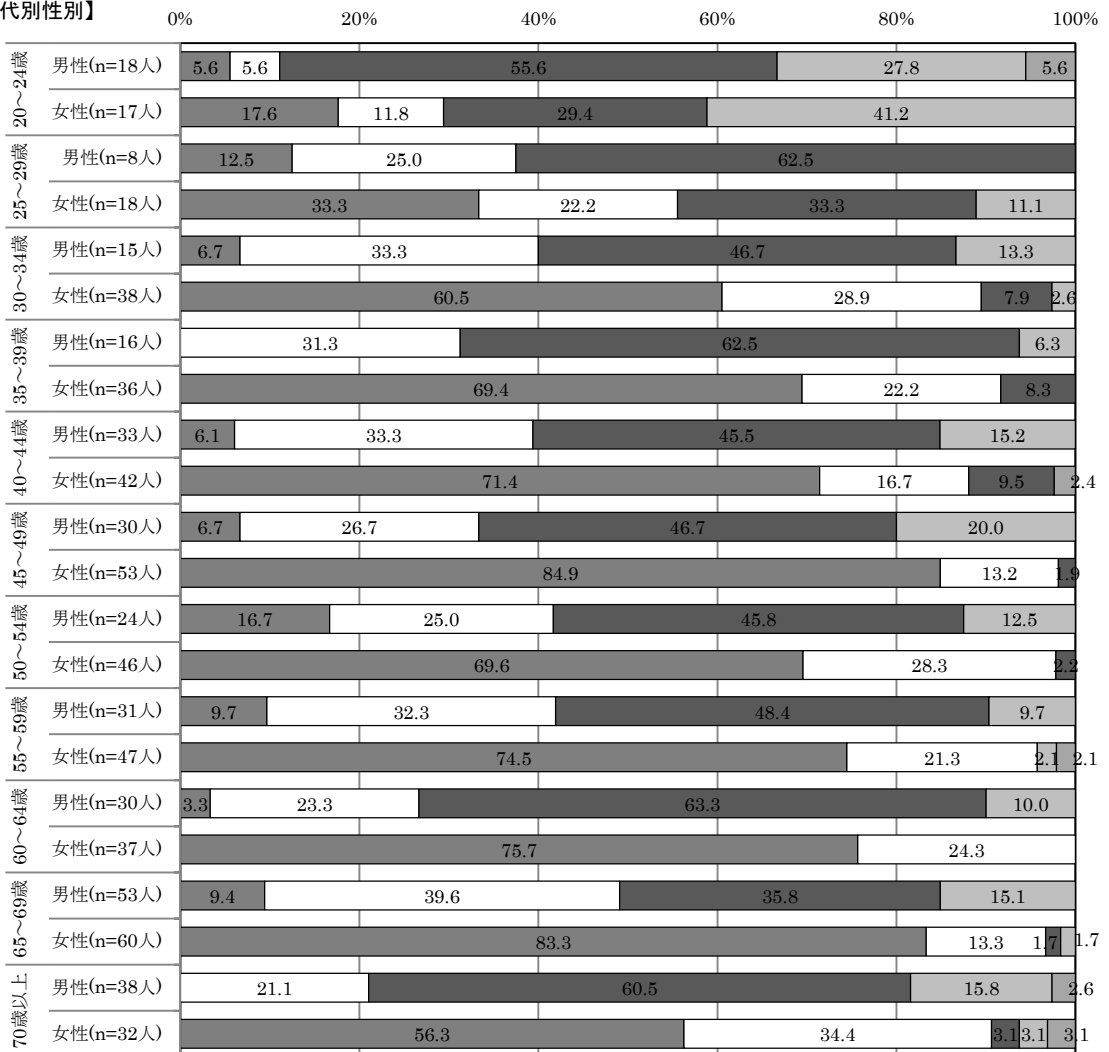
3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(69.2%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(50.0%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は65歳～69歳以外の全ての年代で、「自分は手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。一方女性は、「主に自分がしている」という回答が、20歳代では約2～3割だが、30歳代以降の年代では約6～8割となっている。

【性別】

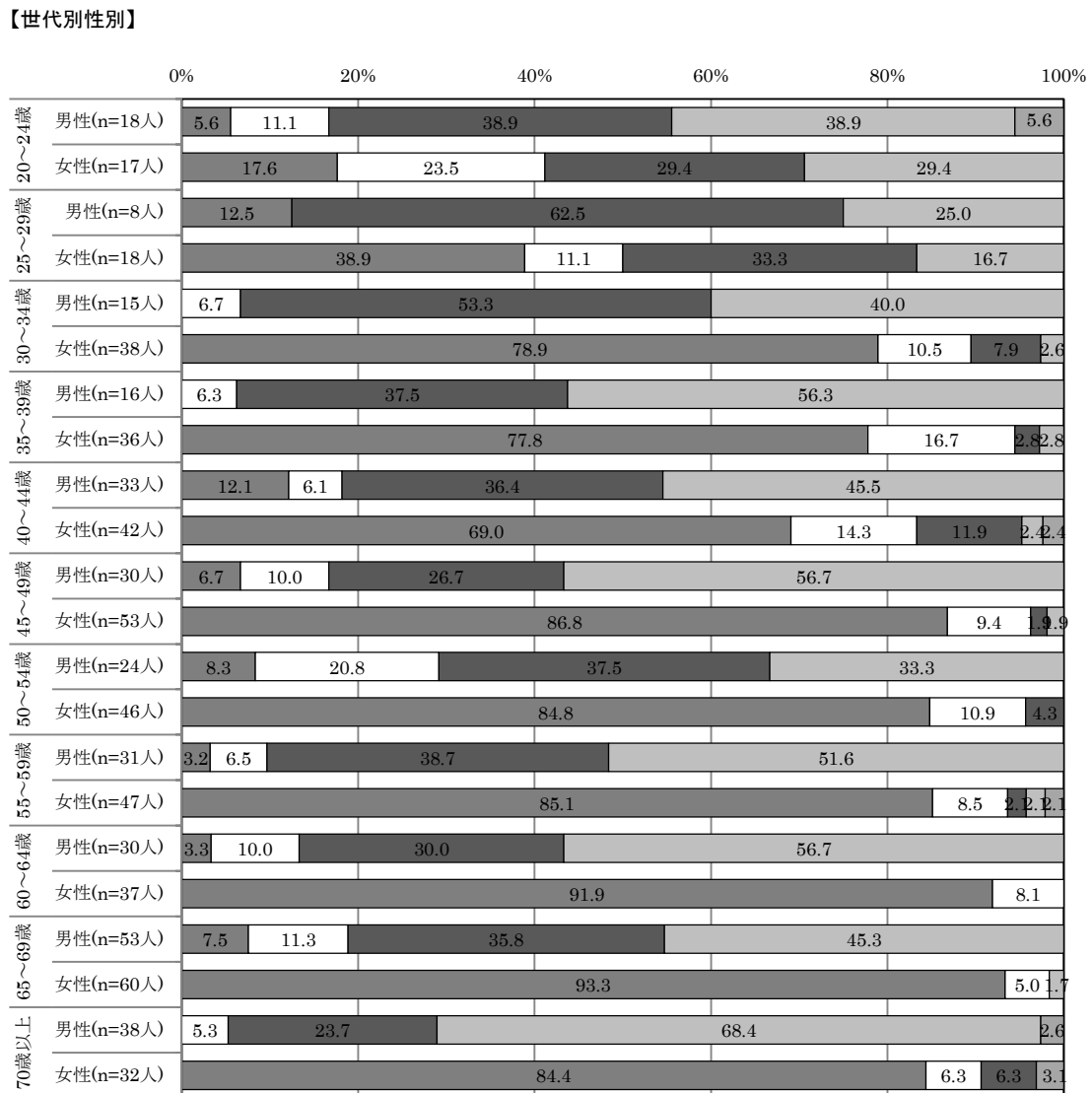
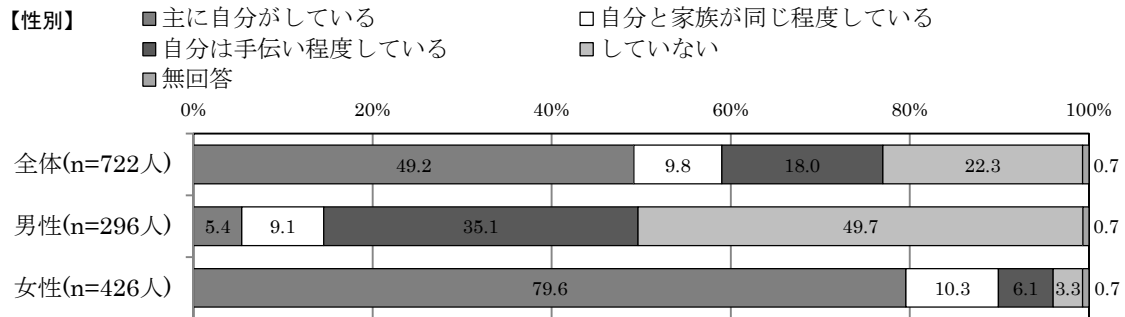


【世代別性別】



4 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(79.6%)という回答が最も多く、男性は「していない」(49.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は、25歳～29歳、30歳～34歳、50歳～54歳以外の年代では、「していない」という回答が最も多く、約4～7割という回答割合になっている。

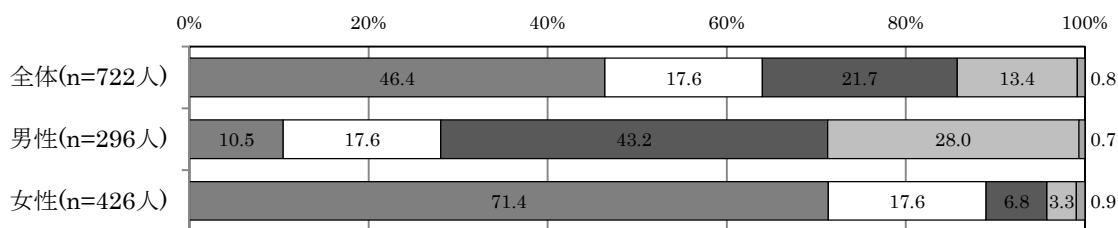


5 食事の後かたづけ

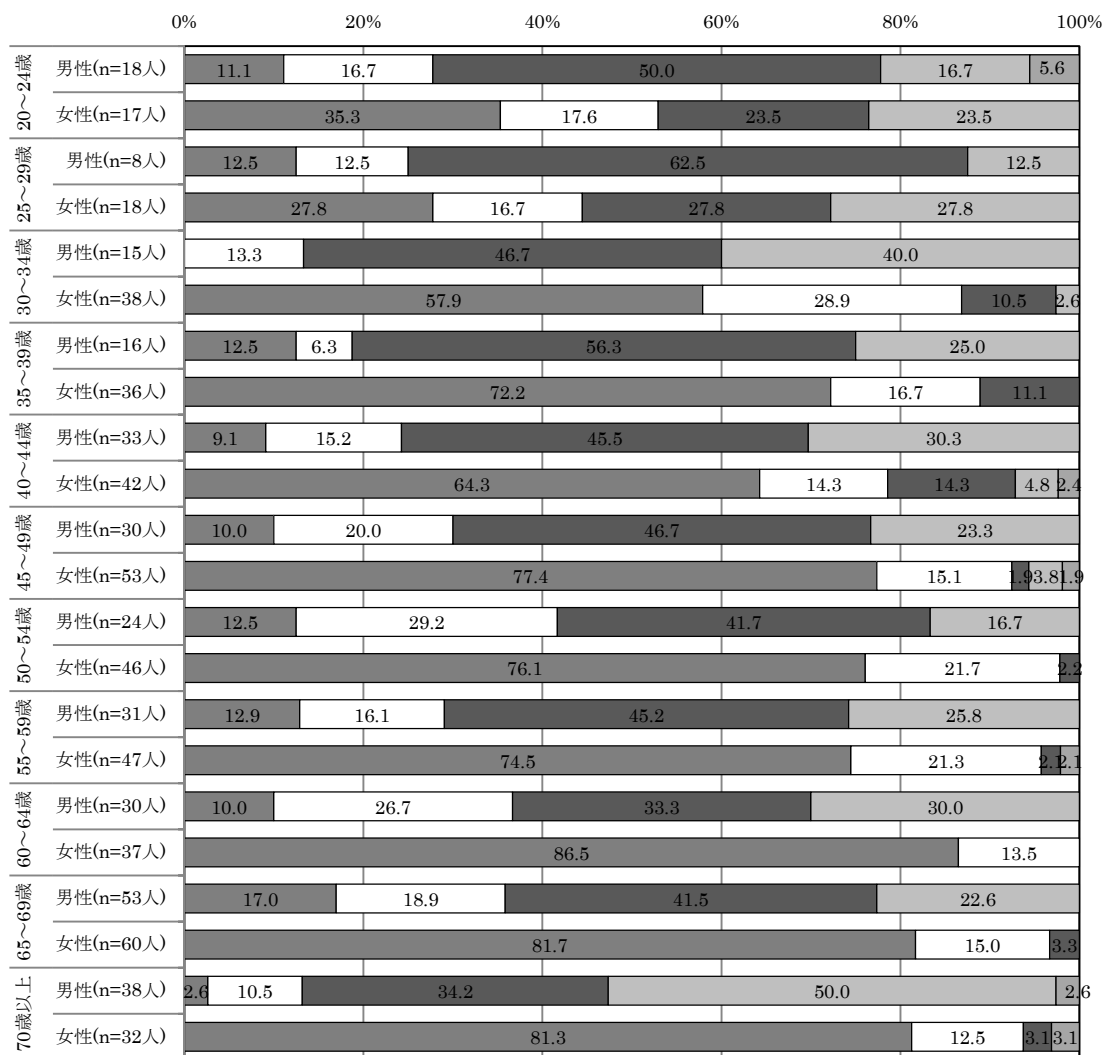
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(71.4%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(43.2%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、30歳～34歳で「主に自分がしている」という回答がなしとなっている。

【性別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している
 ■自分は手伝い程度している □していない
 ■無回答



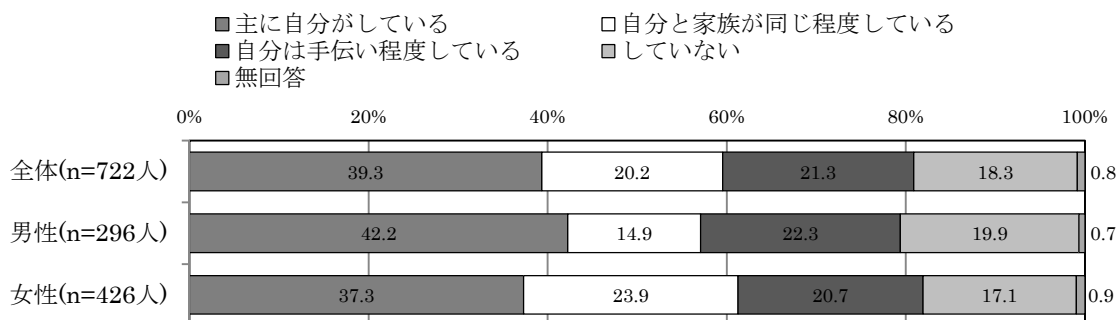
【世代別性別】



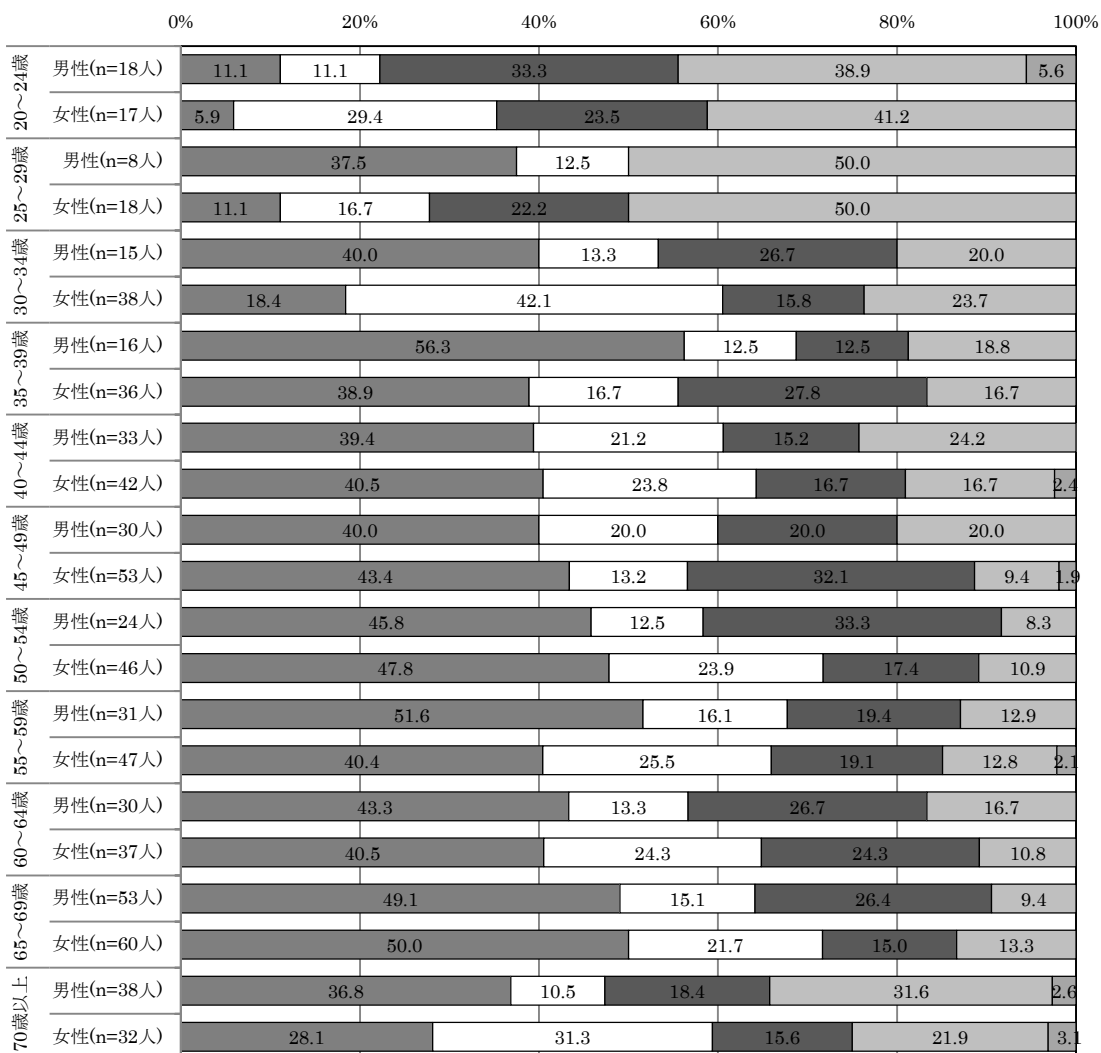
6 ごみ捨て

- ・性別で見ると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は37.3%、男性は42.2%となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳代、30歳代、55歳～59歳、60歳～64歳、70歳以上では、「主に自分がしている」という回答が女性よりも男性の方が多くなっている。

【性別】



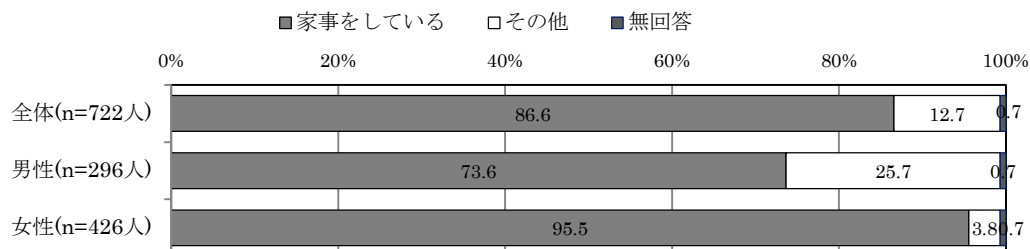
【世代別性別】



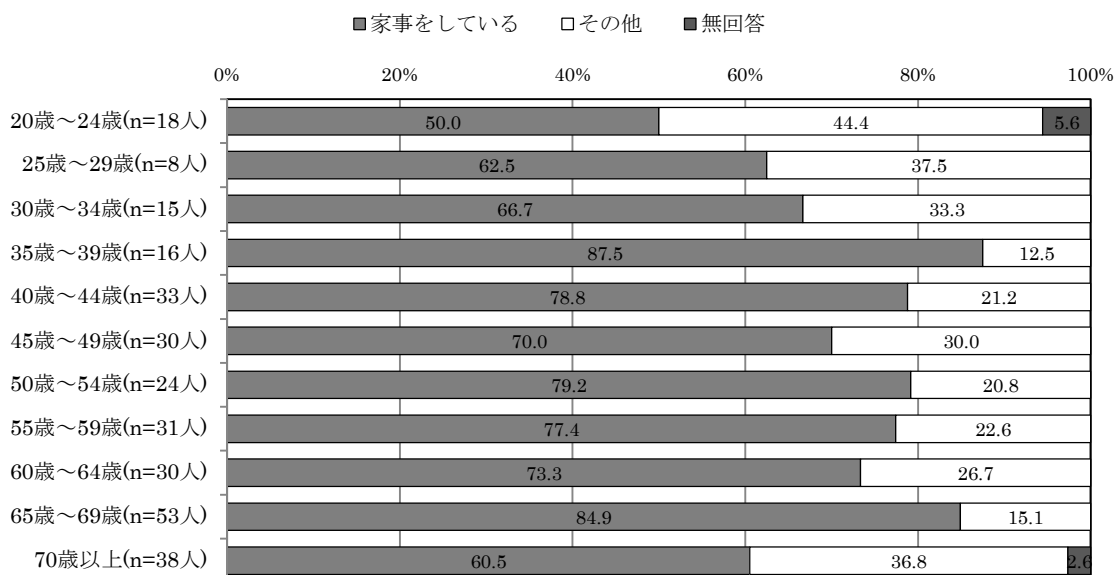
<家事への参画度>

- ・問 13 の 1 ～ 6 の家事について、いずれか1つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 86.6%がいずれかの「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 73.6%、女性は 95.5%の方が「家事をしている」となっており、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が約 2 割低くなっている。

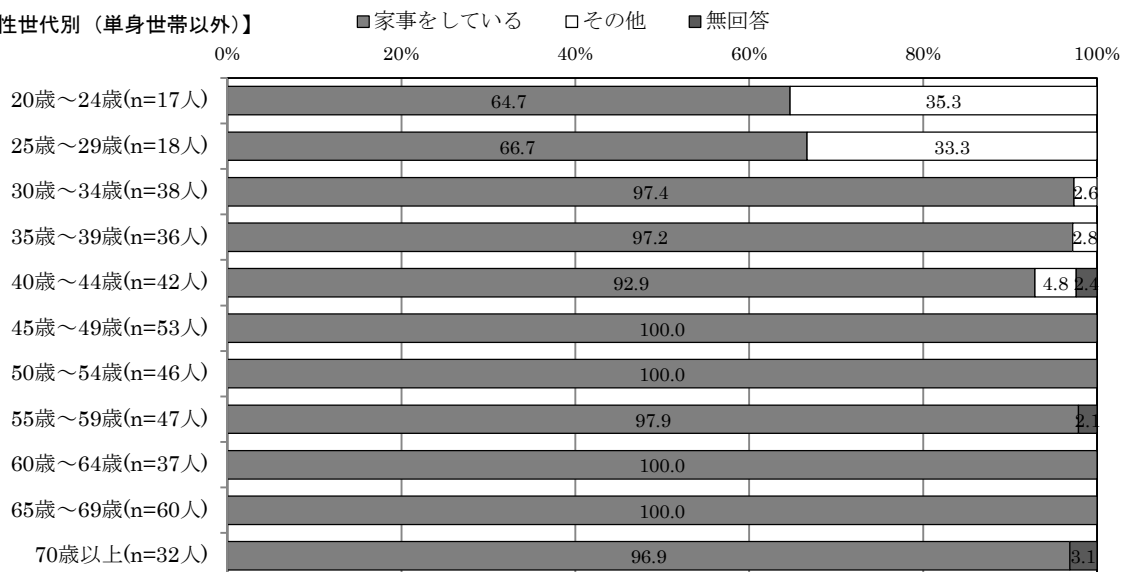
【性別】



【男性世代別（単身世帯以外）】



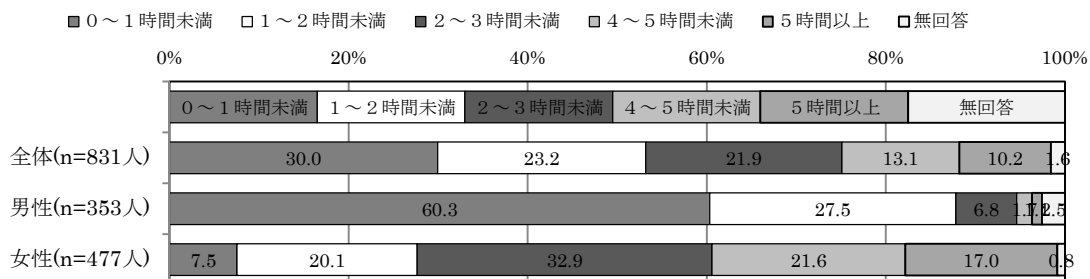
【女性世代別（単身世帯以外）】



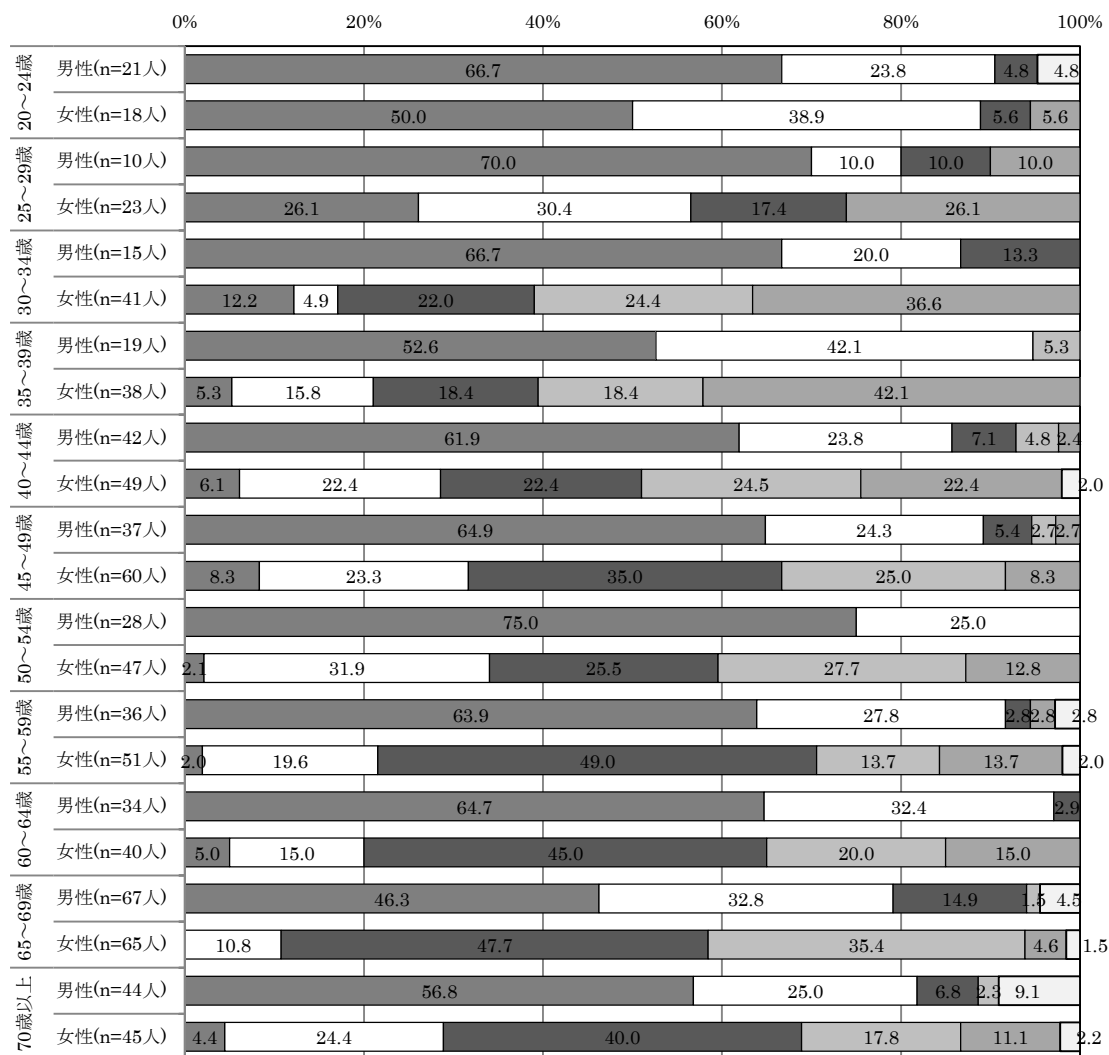
問 14 あなたは平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 当てはまる番号を1つずつお選びください。

- ・性別で見ると、男性は「0～1時間未満」（60.3%）という回答が最も多くなっている。一方、女性は「0～1時間未満」（7.5%）となっており、男女で大きな差がある。
- ・世代別性別で見ると、男性の65歳～69歳以外の年代で「0～1時間未満」という回答が5割を超えている。

【性別】



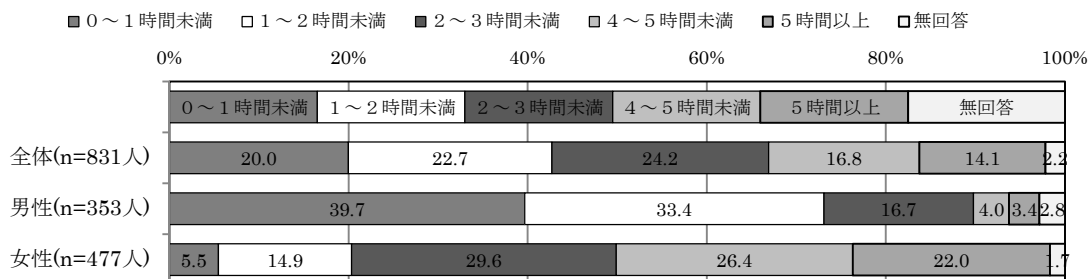
【世代別性別】



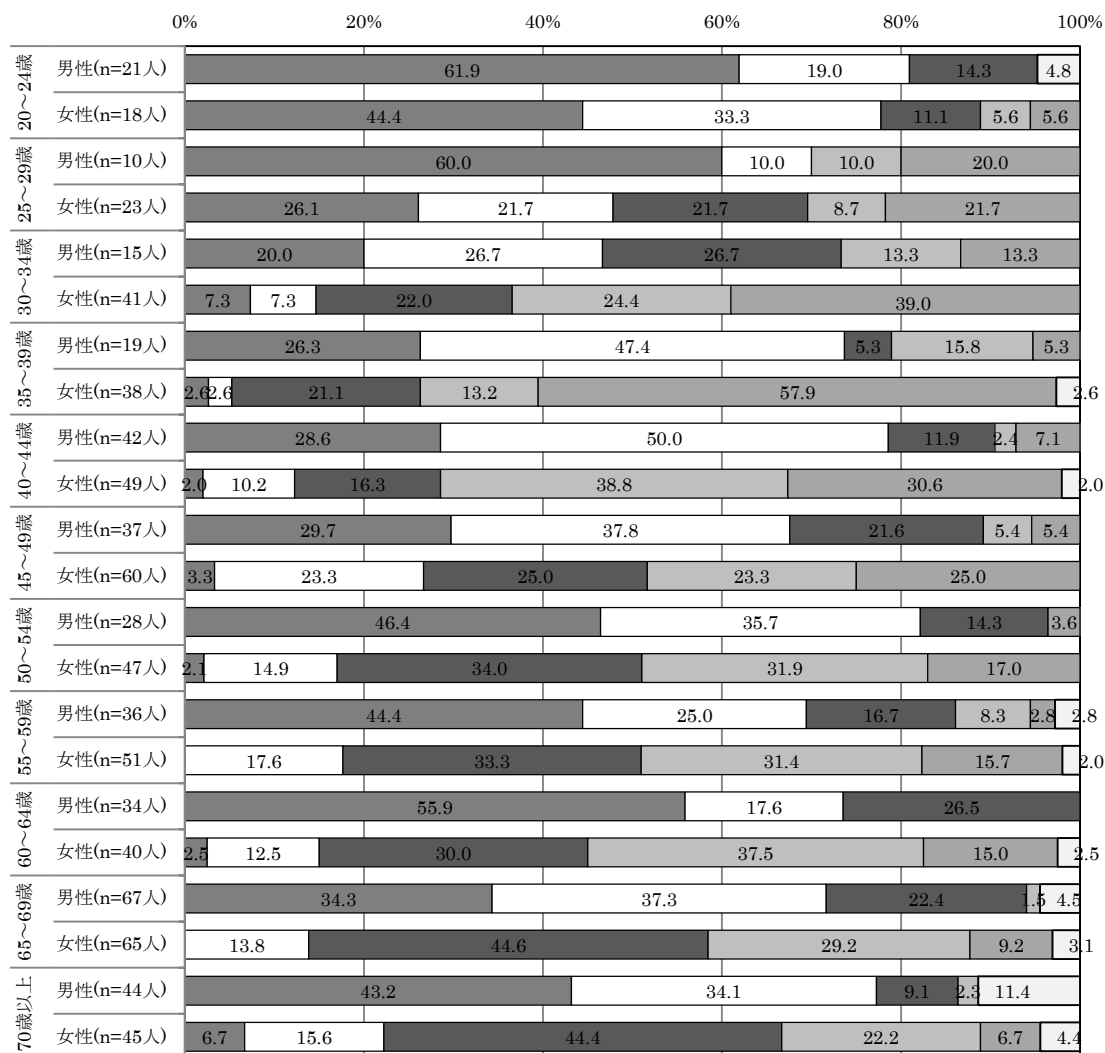
問 15 あなたは休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（39.7%）という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では30歳代、40歳代、65歳～69歳以外では「0～1時間未満」が最も多い回答割合になっている。一方、女性は20歳代以外で「0～1時間未満」の回答割合が、1割未満となっている。

【性別】



【世代別性別】

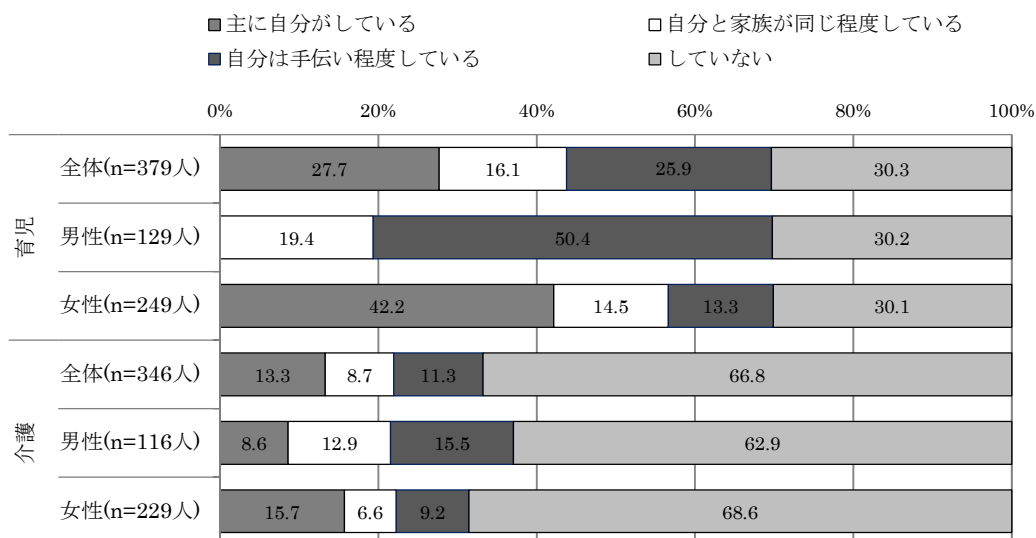


問 16 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答割合が約4割（42.2%）で、男性の回答割合0%と比べ大きな差がある。
 - ・介護では、男性は、「主に自分がしている」と「自分と家族が同じ程度している」の回答割合の合計が約2割（21.5%）となり、女性も約2割（22.3%）で育児に比べ性別による差は小さくなっている。
- （※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

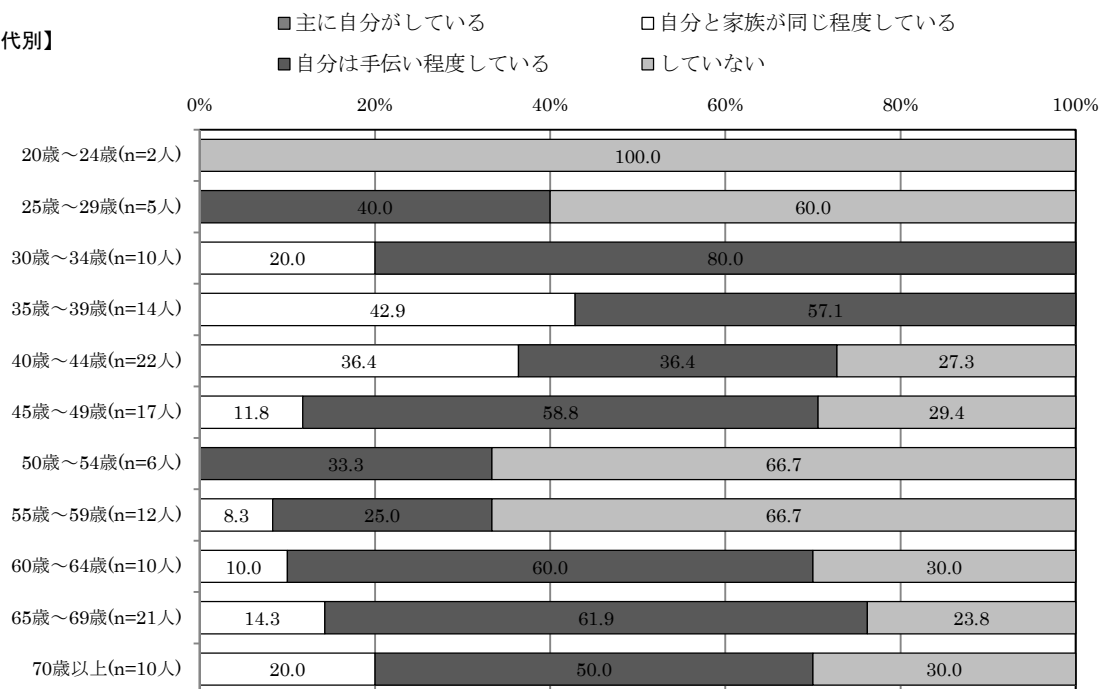
【全分野】



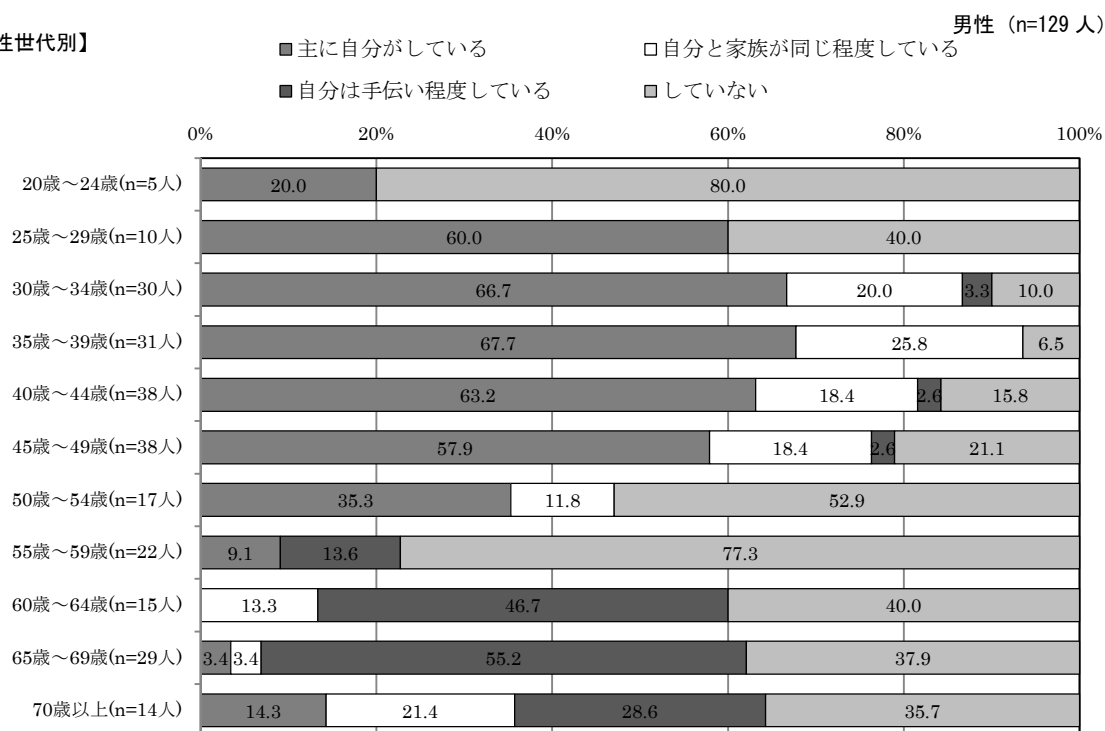
1 育児（お孫さんを含む）

- ・男性では30歳代、40歳～44歳では、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計が約2割～4割となっている。他の年代では、0～2割となっている。全ての年代の男性では、「主に自分がしている」という回答はなしとなっている。
- ・一方、女性では「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した女性が、20歳～24歳、50歳以上の年代以外で、約6割から9割となっている。

【男性世代別】



【女性世代別】

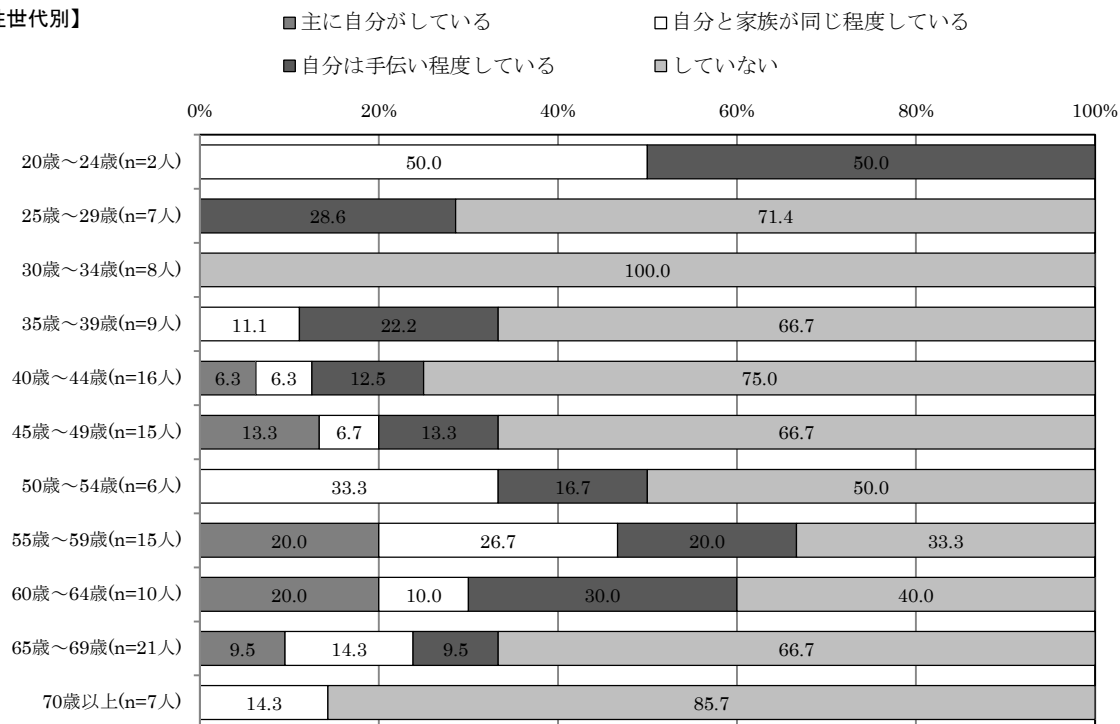


女性(n=249人)

2 介護

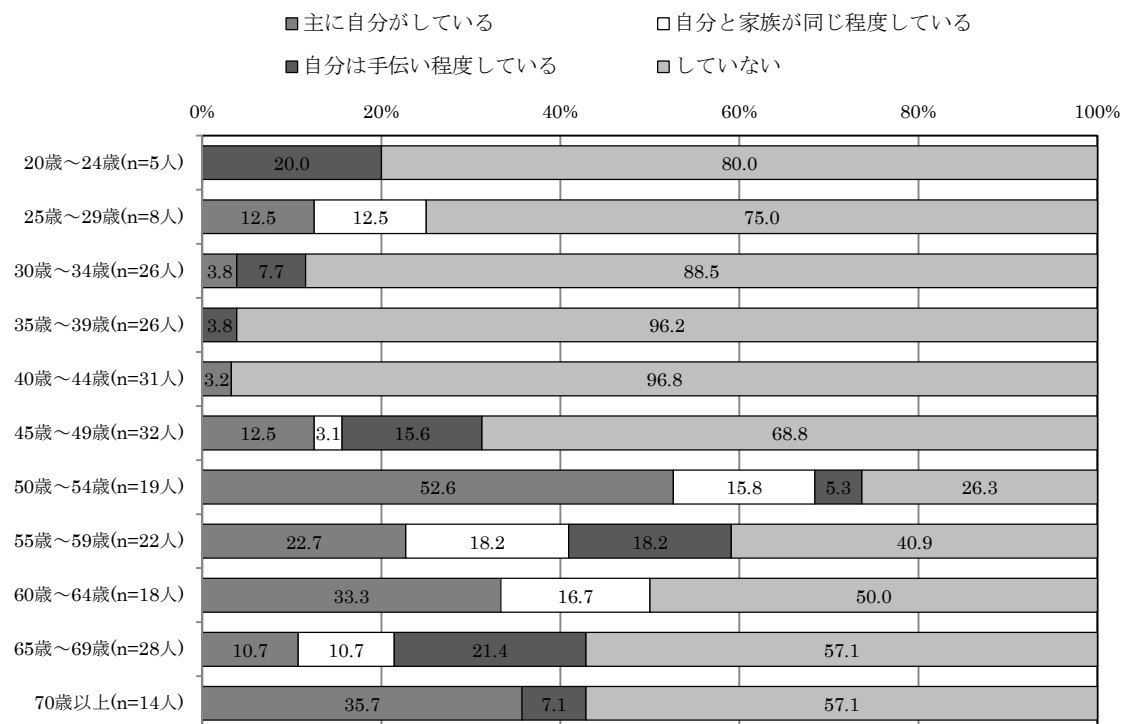
- ・性別でみると、男性は55歳以上の年代から、女性は50歳以上の年代から介護に関わる人の割合が多くなっており、「主に自分がしている」という回答割合が男性に比べ女性の方が多くなっている。

【男性世代別】



男性 (n=116人)

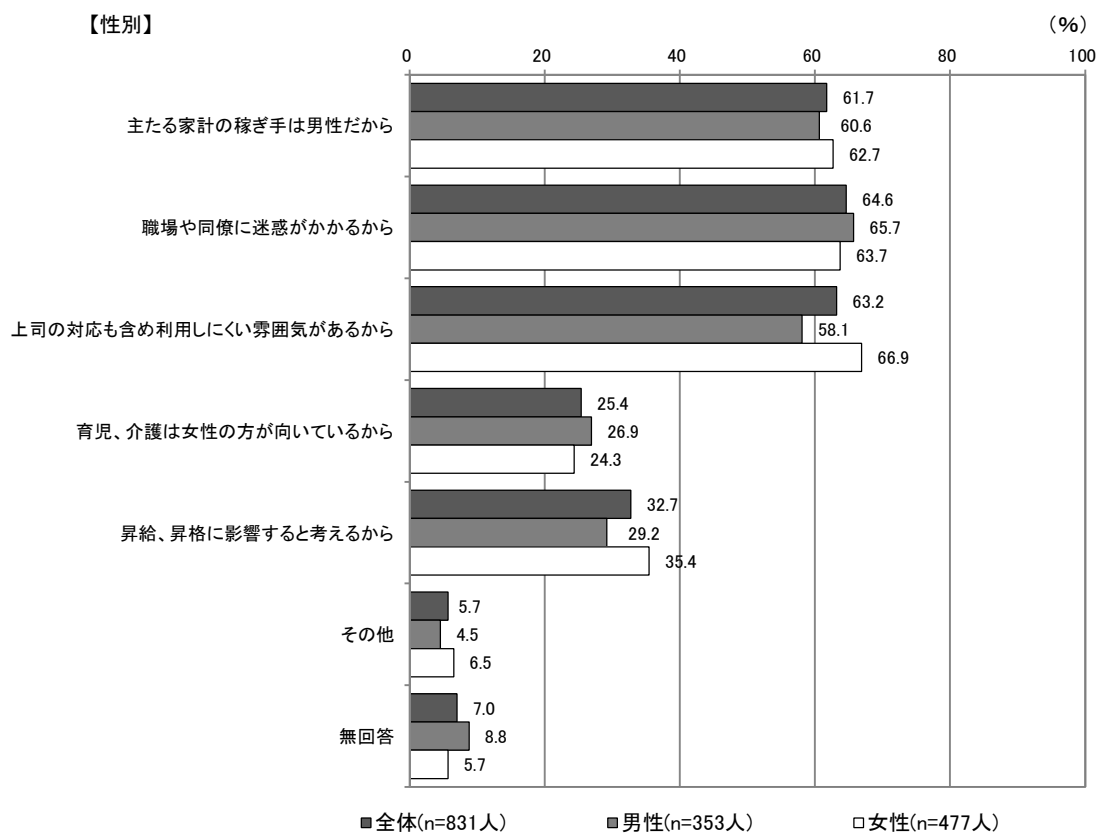
【女性世代別】



女性 (n=229人)

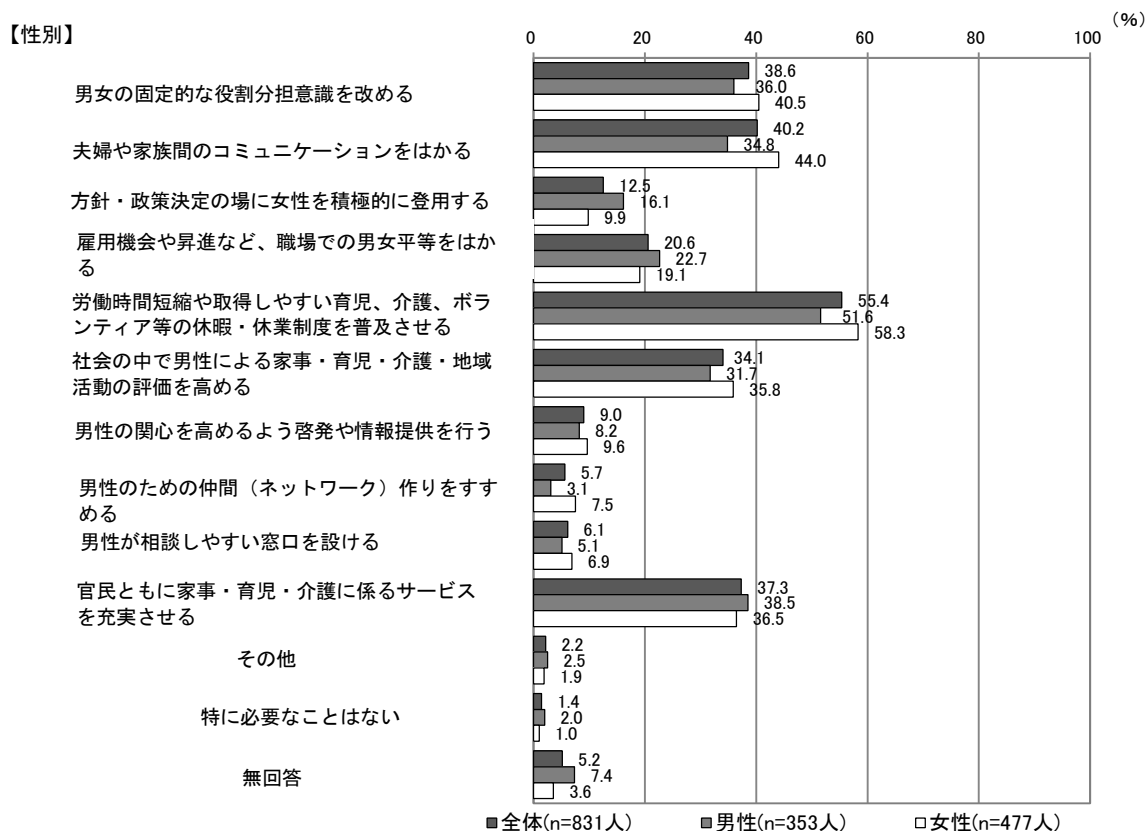
問 17 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 全体でみると、最も回答割合が多いのは、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(64.6%)で、約6割となっている。次いで、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(63.2%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(61.7%)となっている。
- 性別でみると、男性では「職場や同僚に迷惑がかかるから」(65.7%)、次いで「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(60.6%)、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(58.1%)となっている。
- 女性では男性同様、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(66.9%)が最も多くなっている。次いで、2番目に「職場や同僚に迷惑がかかるから」(63.7%)、3番目に「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(62.7%)の順となる。



問 18 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(55.4%)が最も多く、約6割となっている。次に、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(40.2%)、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(38.6%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(37.3%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(34.1%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(51.6%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(38.5%)、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(36.0%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(34.8%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(31.7%)の順となる。女性も、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(58.3%)という回答が最も多い。次に、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(44.0%)、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(40.5%)、「官民とともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(36.5%)の順となっている。

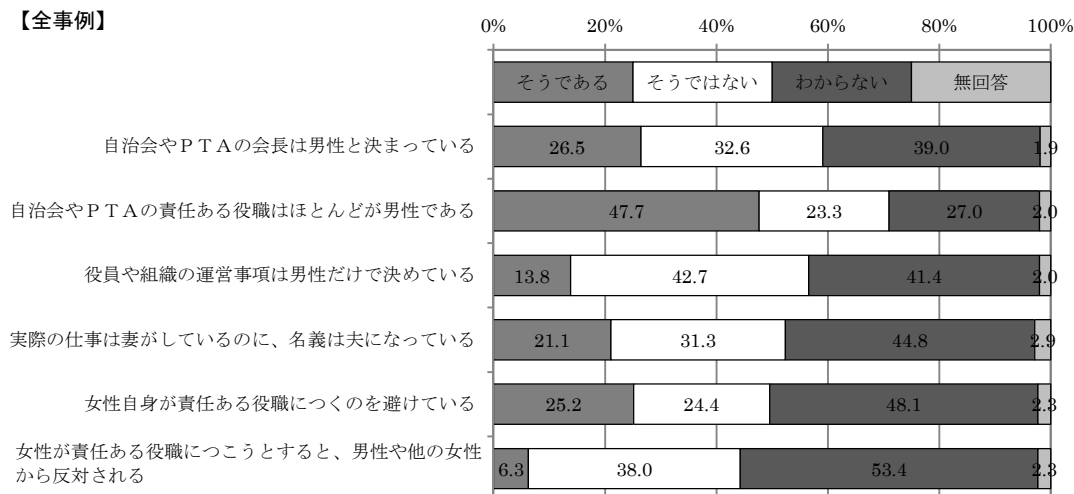


地域社会に関することについて

問 19 あなたが住んでいる地域では、自治会・P T A・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やP T Aの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（47.7%）となっている。次に、「自治会やP T Aの会長は男性と決まっている」（26.5%）、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」（25.2%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（42.7%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」（38.0%）、「自治会やP T Aの会長は男性と決まっている」（32.6%）と続いている。

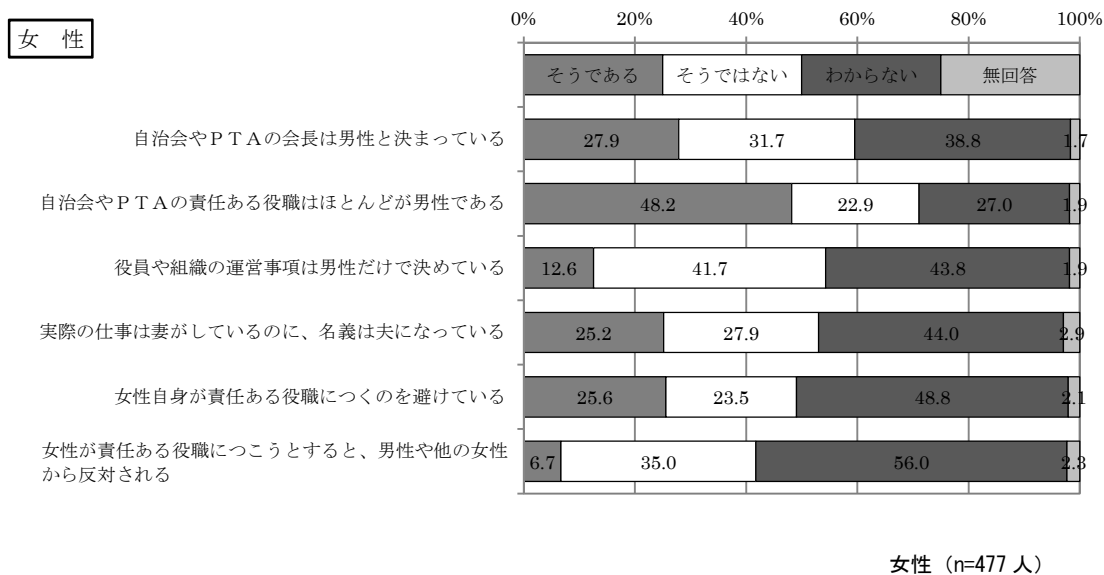
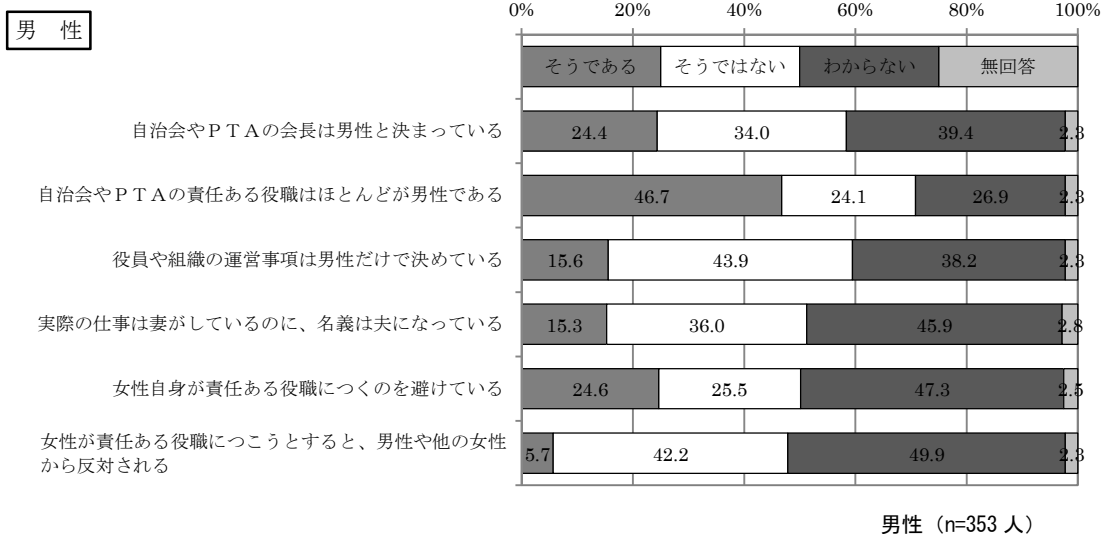
【全事例】



全体 (n=831 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

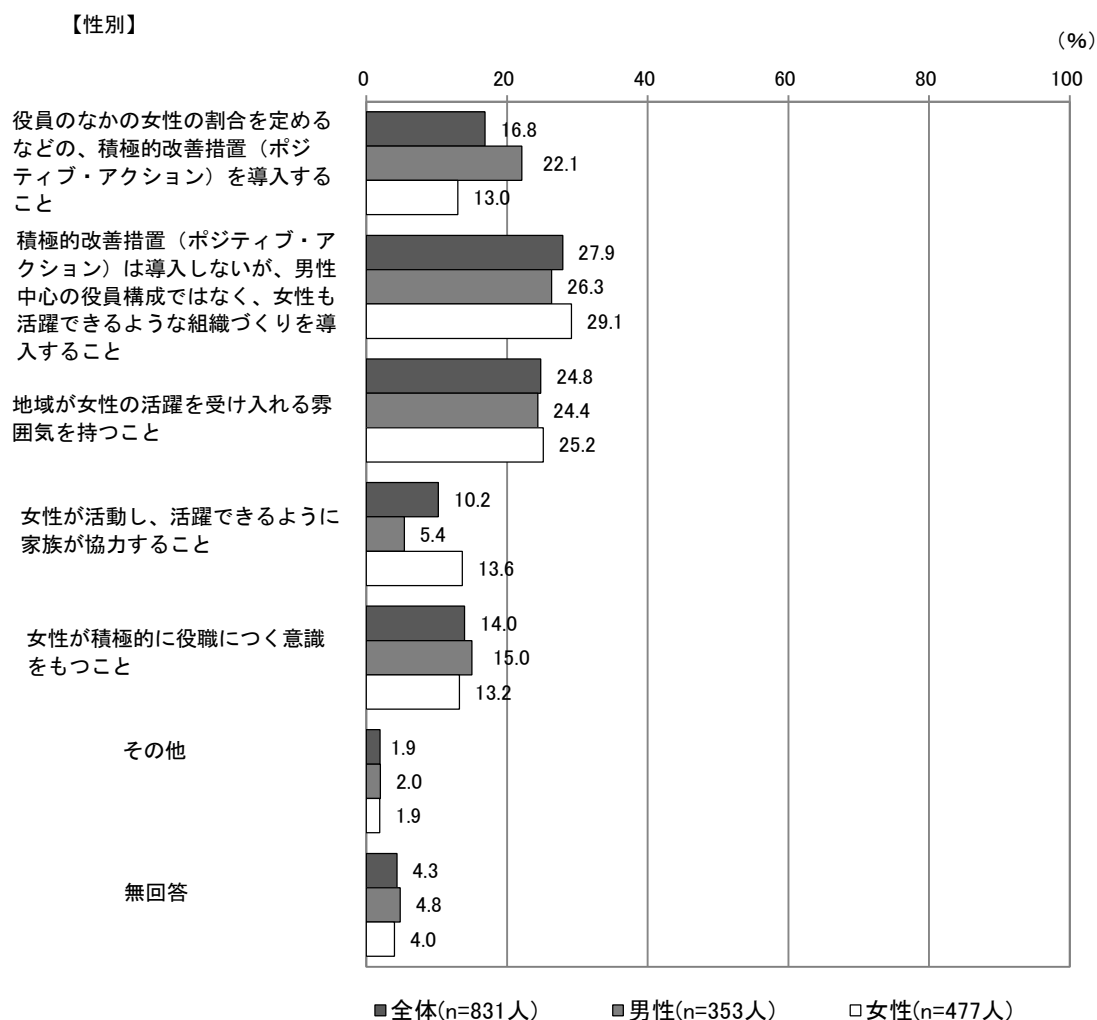
【性別】



問 20 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、約3割（27.9%）となっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気をもつこと」（24.8%）、「役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（16.8%）と続いている。
- ・性別でみると、男女どちらも「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、約3割となっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」が男女ともに2番目となっている。

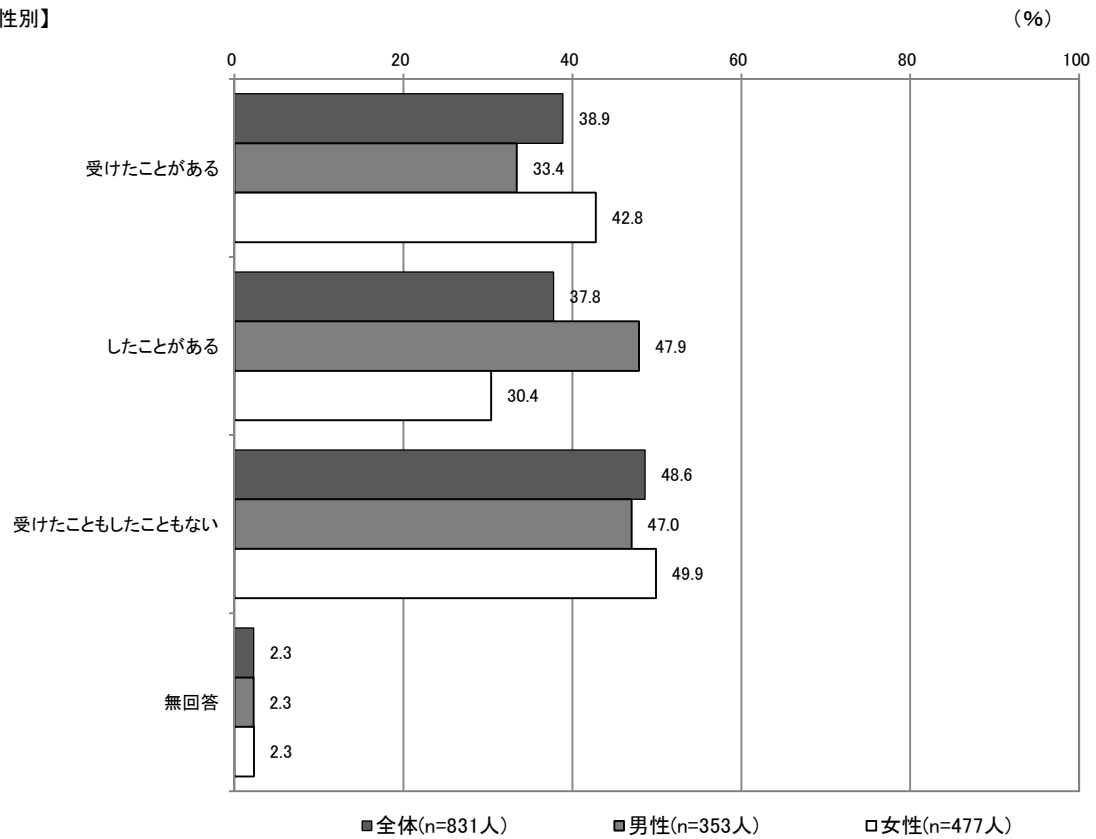


男女の人権に関することについて

問 21 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・性別では、男性で「したことがある」（47.9%）なのに対し、女性では「受けたことがある」（42.8%）となっている。

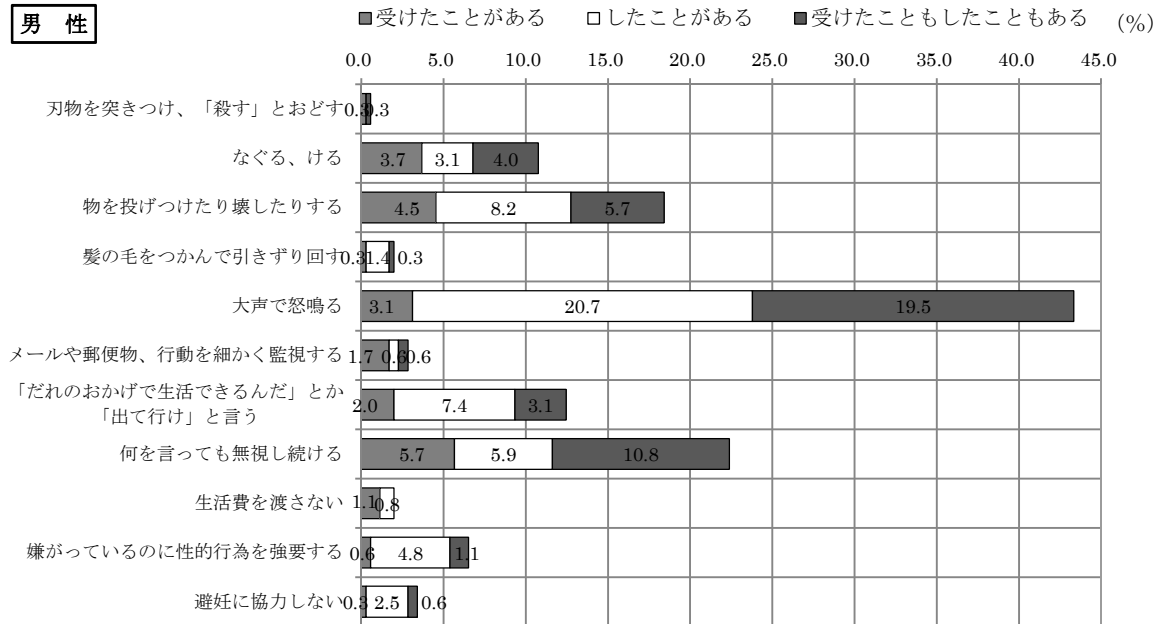
【性別】



- ・性別で見ると、「受けたこともしたこともない」という回答がほとんどの項目で大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「大声で怒鳴る」、「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性、女性ともほぼ同じとなっている。

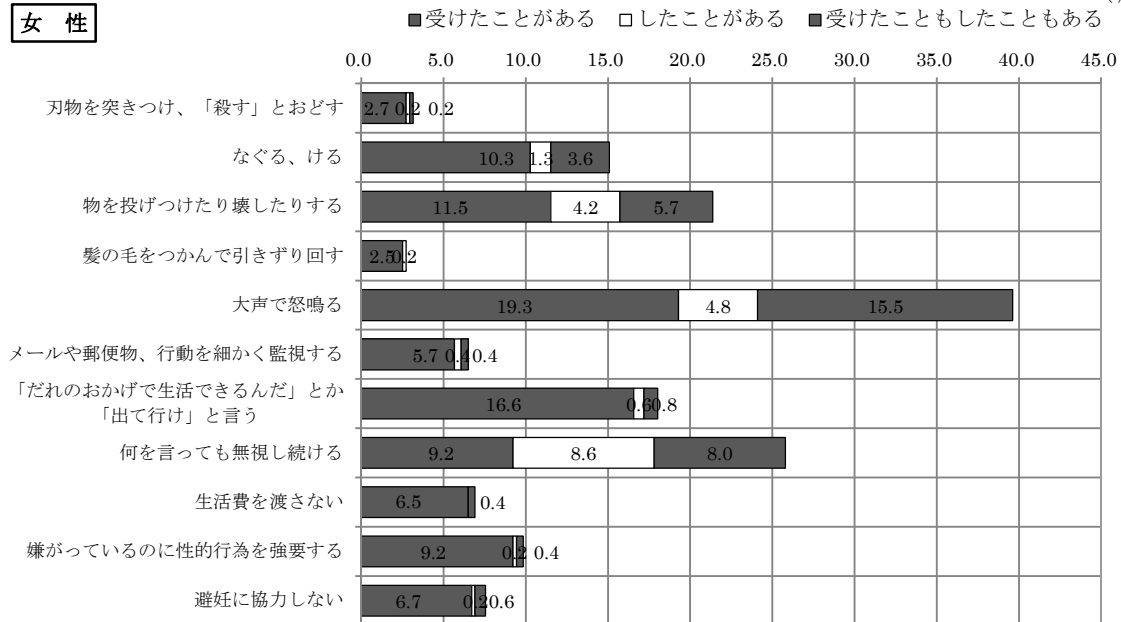
【性別】

男性



男性 (n=353 人)

女性



女性 (n=477 人)

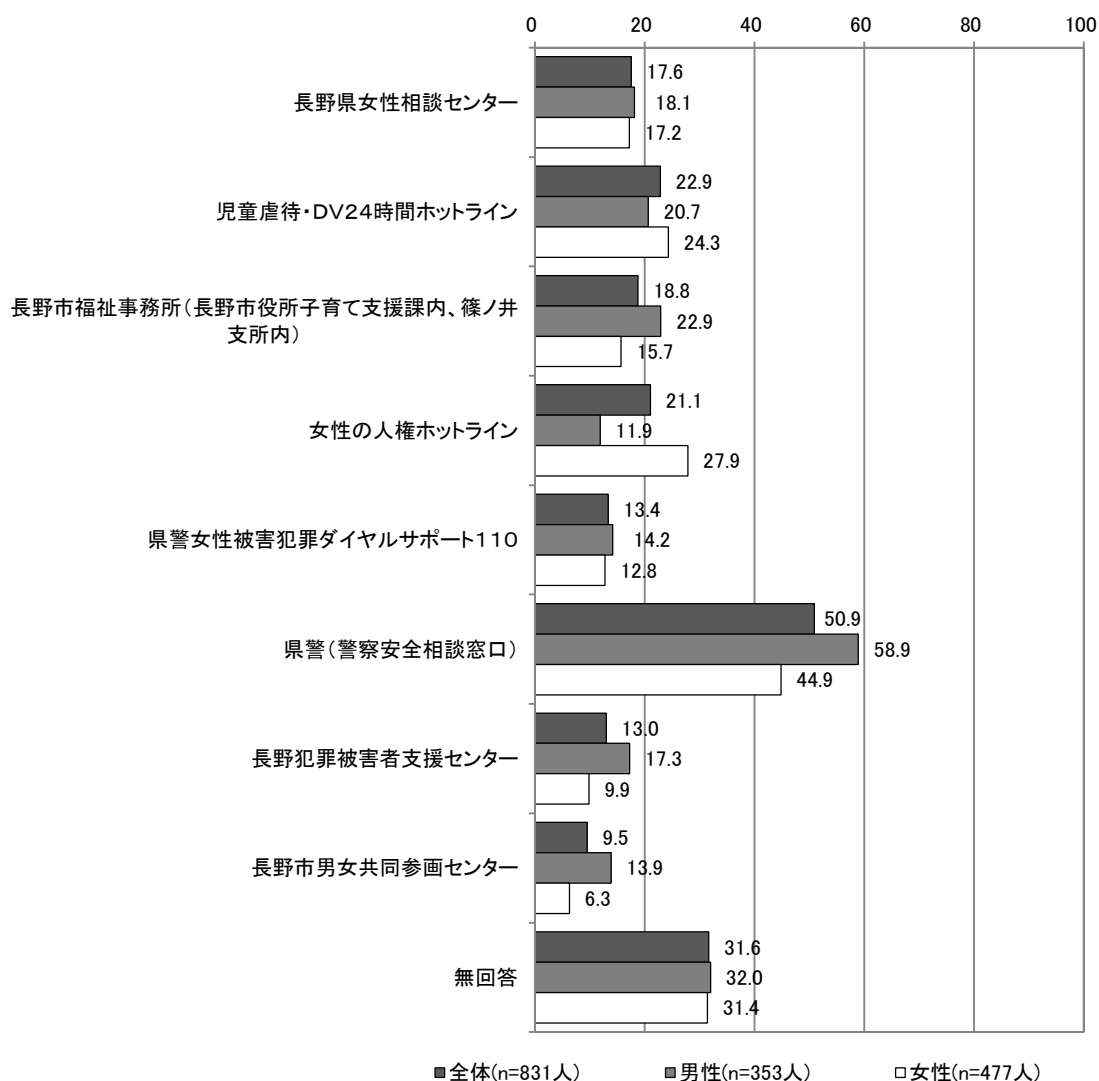
※無回答は男性で 2.3%~3.1%、女性で 2.1%~2.7%で、残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問 22 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体で見ると、最も回答が多かったのは「県警（警察安全相談窓口）」（50.9%）で、5割を超えている。次いで、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（22.9%）、「女性の人権ホットライン」（21.1%）、「長野市福祉事務所」（18.8%）、「長野県女性相談センター」（17.6%）と続いている。
- ・性別で見ると、男性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（50.9%）が約5割で最も多くなっている。次に、「長野市福祉事務所」（22.9%）、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（20.7%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（44.9%）、「女性の人権ホットライン」（27.9%）、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（24.3%）となっており、男性の回答とは認知度に差がある。

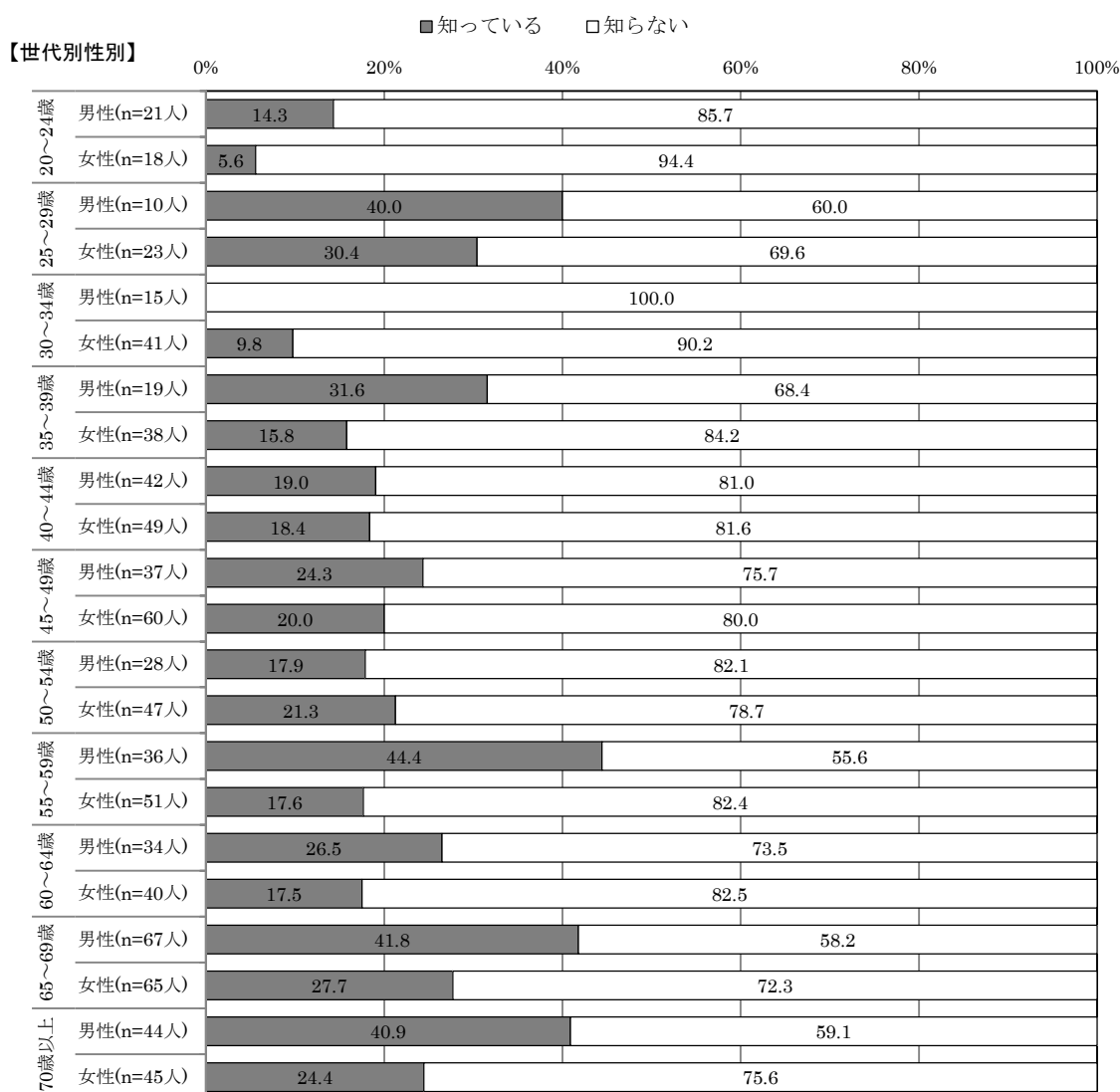
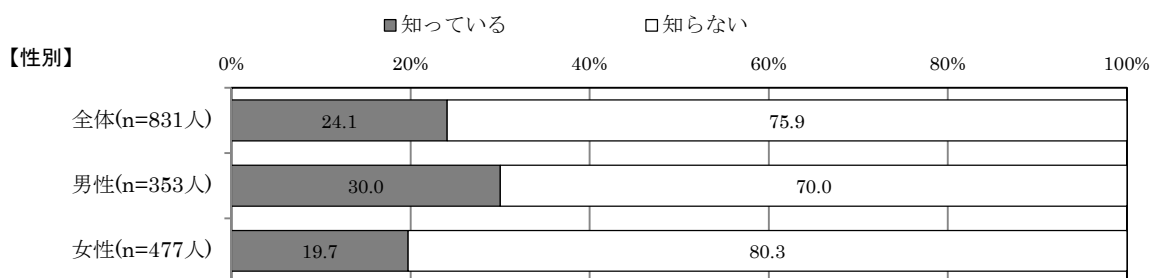
【性別】

(%)



<DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

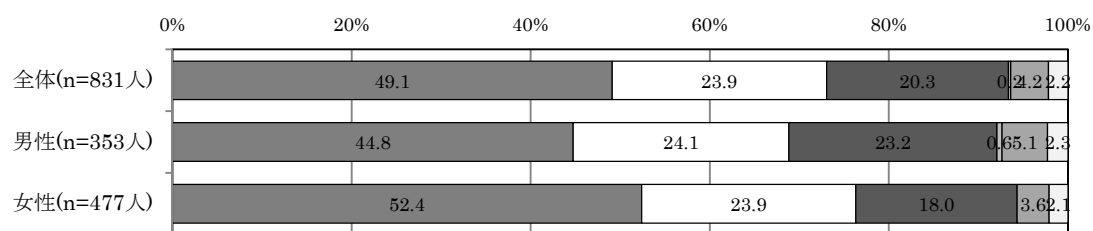
- ・問 22 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、2割（24.1%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、「男性」の方が「女性」より高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、25歳～29歳、55歳～59歳、65歳～69歳、70歳以上の年代において認知度が4割を超えている。一方、女性は65歳以上で認知度が高くなっている。



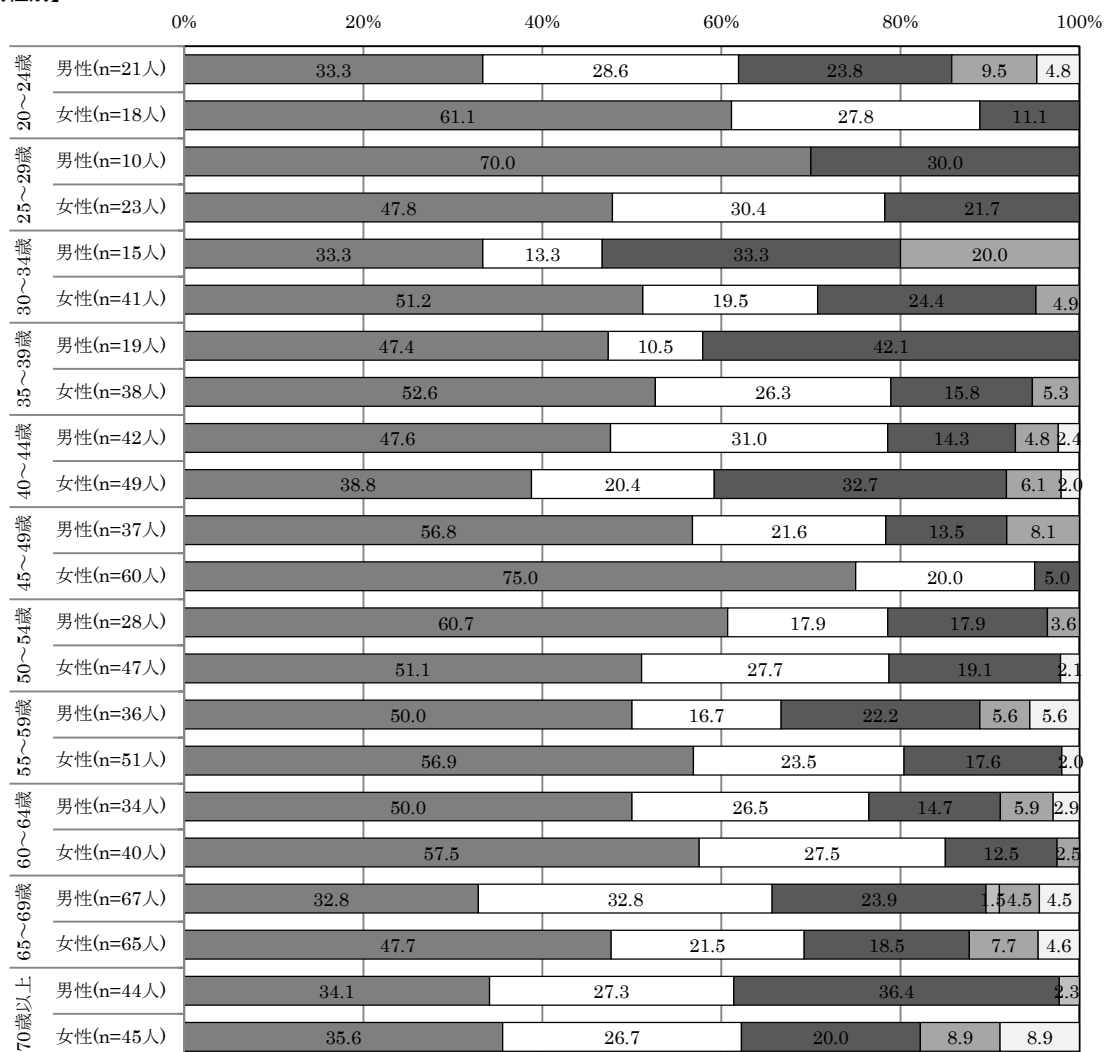
問 23 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのは
どれですか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（49.1%）が最も多い回答となっており、約5割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（23.9%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（20.3%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」という回答で、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、35歳～39歳の男性で、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答が多くなっている。

【性別】 ■どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う □どんな場合でも人権侵害にあたると思う
■人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う □人権侵害にあたるとは思わない
■わからない □無回答



【世代別性別】

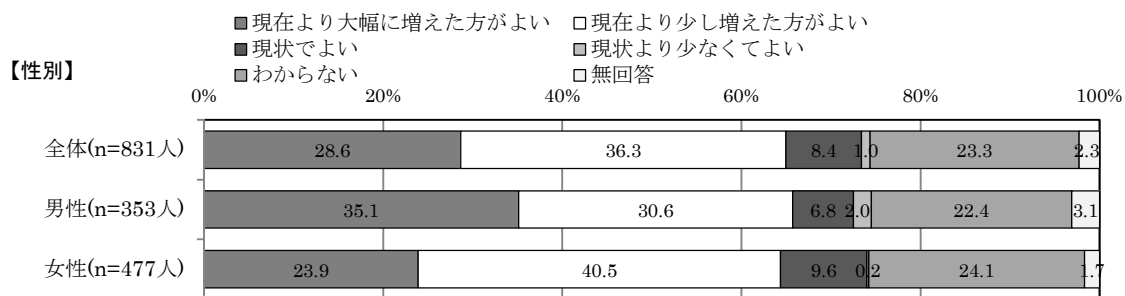


男女共同参画施策に関するについて

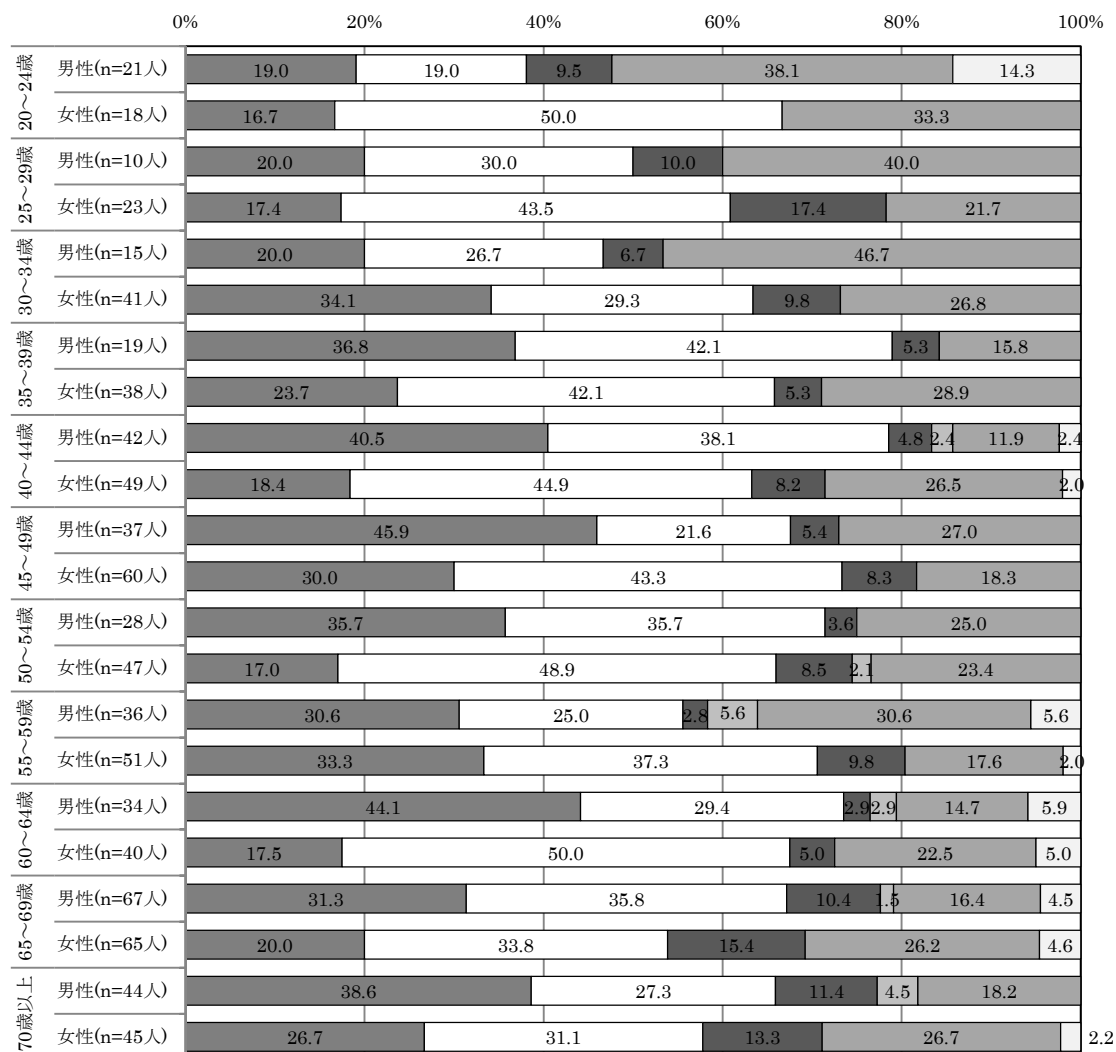
問 24 平成 29 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は、6 人(16.2%)、平成 29 年 4 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は 432 人(16.5%)となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを 1 つお選びください。

- ・全体でみると、「現在より大幅に増えた方がよい」(28.6%)及び「現在より少し増えた方がよい」(36.3%)という回答割合の合計は、6 割(64.9%)を超えている。
- ・性別では、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は男性 65.7%、女性 64.4%で、男性の方がやや多い。
- ・世代別性別でみると、35 歳～39 歳、40 歳～44 歳の男性で、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計が約 8 割となっている。



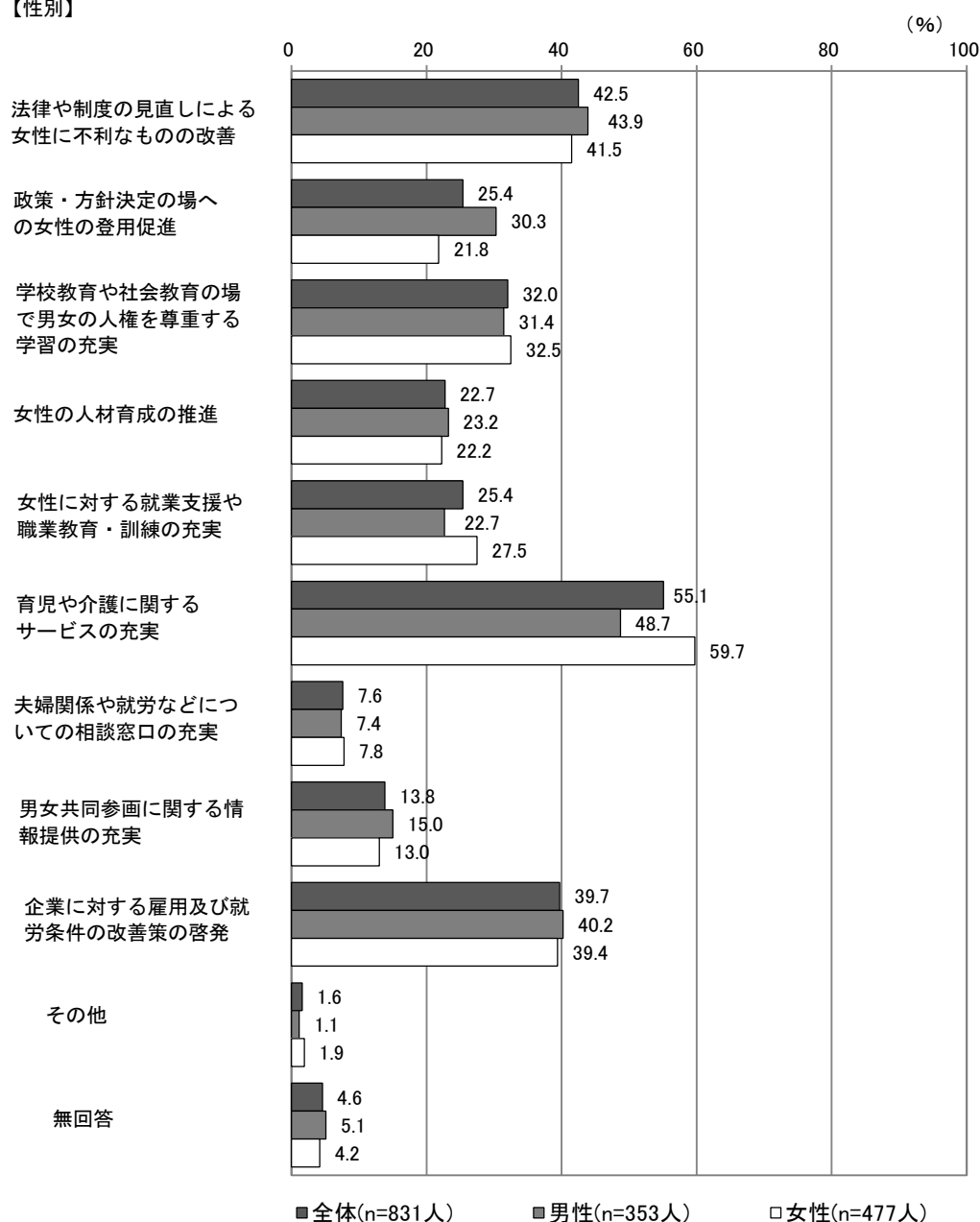
【世代別性別】



問 25 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「育児や介護に関するサービスの充実」(55.1%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(42.5%)、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(39.7%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性では、「育児や介護に関するサービスの充実」(48.7%)が最も多い回答となる。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(43.9%)、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(40.2%)となる。女性も、「育児や介護に関するサービスの充実」(59.7%)という回答が最も多くなっており、男性よりも回答割合が高くなっている。次に、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(41.5%)、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(39.4%)の順となる。

【性別】



資 料

単純集計

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	831	41.6%

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	353	42.5%
②女性	477	57.4%
無回答	1	0.1%
合計	831	100.0%

B あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳～24歳	39	4.7%
②25歳～29歳	33	4.0%
③30歳～34歳	56	6.7%
④35歳～39歳	57	6.9%
⑤40歳～44歳	91	11.0%
⑥45歳～49歳	97	11.7%
⑦50歳～54歳	75	9.0%
⑧55歳～59歳	87	10.5%
⑨60歳～64歳	74	8.9%
⑩65歳～69歳	132	15.9%
⑪70歳以上	89	10.7%
無回答	1	0.1%
合計	831	100.0%

C あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	20	2.4%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	32	3.9%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	13	1.6%
④会社役員・経営者	43	5.2%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	266	32.0%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	223	26.8%
⑦家事専業者	105	12.6%
⑧学生	13	1.6%
⑨無職	103	12.4%
⑩その他	11	1.3%
無回答	2	0.2%
合計	831	100.0%

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	88	10.6%
②一世代世帯(夫婦のみ)	191	23.0%
③二世帯世帯(親と子)	434	52.2%
④三世帯世帯(親と子と孫)	97	11.7%
⑤その他	17	2.0%
無回答	4	0.5%
合計	831	100.0%

E あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	622	74.8%
②結婚していない	129	15.5%
③結婚していないがパートナーがいる	22	2.6%
④配偶者と離・死別した	57	6.9%
無回答	1	0.1%
合計	831	100.0%

F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	625	75.2%
②いない	204	24.5%
無回答	2	0.2%
合計	831	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	255	30.7%
②女性が優位	96	11.6%
③平等である	386	46.5%
④わからない	85	10.2%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	98	11.8%
②女性が優位	33	4.0%
③平等である	454	54.6%
④わからない	231	27.8%
無回答	15	1.8%
合計	831	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	476	57.3%
②女性が優位	16	1.9%
③平等である	211	25.4%
④わからない	120	14.4%
無回答	8	1.0%
合計	831	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	439	52.8%
②女性が優位	28	3.4%
③平等である	240	28.9%
④わからない	110	13.2%
無回答	14	1.7%
合計	831	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	287	34.5%
②女性が優位	42	5.1%
③平等である	319	38.4%
④わからない	174	20.9%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

6 習慣・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	613	73.8%
②女性が優位	22	2.6%
③平等である	90	10.8%
④わからない	97	11.7%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	617	74.2%
②女性が優位	4	0.5%
③平等である	106	12.8%
④わからない	96	11.6%
無回答	8	1.0%
合計	831	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	566	68.1%
②女性が優位	16	1.9%
③平等である	109	13.1%
④わからない	132	15.9%
無回答	8	1.0%
合計	831	100.0%

問2 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	320	38.5%
②聞いたことがある	311	37.4%
③知らない	191	23.0%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

2 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	70	8.4%
②聞いたことがある	228	27.4%
③知らない	524	63.1%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

3 長野市男女共同参画センター

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	95	11.4%
②聞いたことがある	196	23.6%
③知らない	531	63.9%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

4 女性活躍推進法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	88	10.6%
②聞いたことがある	226	27.2%
③知らない	506	60.9%
無回答	11	1.3%
合計	831	100.0%

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の上で男女の差がなくなる社会	435	52.3%
②政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会	200	24.1%
③男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会	544	65.5%
④男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会	644	77.5%
⑤男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会	485	58.4%
⑥その他	13	1.6%
無回答	17	2.0%
対象数	831	-

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	27	3.2%
②どちらかといえば賛成	285	34.3%
③どちらかといえば反対	308	37.1%
④反対	206	24.8%
無回答	5	0.6%
合計	831	100.0%

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうか考えですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚するまでは職業をもつ方がよい	11	1.3%
②子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	42	5.1%
③子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	376	45.2%
④子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	311	37.4%
⑤その他	84	10.1%
無回答	7	0.8%
合計	831	100.0%

「就労」に関することでおたずねします。

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことに関して、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	177	29.1%
女性の方が優遇されている	1	0.2%
平等である	276	45.4%
わからない	109	17.9%
無回答	45	7.4%
合計	608	100.0%

2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	240	39.5%
女性の方が優遇されている	7	1.2%
平等である	196	32.2%
わからない	119	19.6%
無回答	46	7.6%
合計	608	100.0%

3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	135	22.2%
女性の方が優遇されている	70	11.5%
平等である	268	44.1%
わからない	90	14.8%
無回答	45	7.4%
合計	608	100.0%

4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	93	15.3%
女性の方が優遇されている	7	1.2%
平等である	350	57.6%
わからない	113	18.6%
無回答	45	7.4%
合計	608	100.0%

5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	171	28.1%
女性の方が優遇されている	7	1.2%
平等である	289	47.5%
わからない	97	16.0%
無回答	44	7.2%
合計	608	100.0%

問7 離職経験のある方におたずねします。

離職の原因(理由)としてあてはまるものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚・出産	232	49.2%
②家事・育児	110	23.3%
③介護・看護	62	13.1%
④転職・起業	147	31.1%
⑤配偶者の転勤	52	11.0%
⑥健康上の理由	82	17.4%
⑦給料が少ない	91	19.3%
⑧解雇等職場の都合	84	17.8%
⑨特に理由はない	38	8.1%
⑩その他	55	11.7%
対象数	472	-

問8 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。

該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	160	19.3%
②能力開発、自己啓発	117	14.1%
③労働時間の短縮	205	24.7%
④福利厚生の充実	191	23.0%
⑤賃金の男女平等	196	23.6%
⑥非常勤職員の正規職員化	89	10.7%
⑦家族の理解や協力	397	47.8%
⑧職場の理解や協力	459	55.2%
⑨女性自身の意識改革	156	18.8%
⑩育児・介護に関する制度の充実	351	42.2%
⑪ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	24	2.9%
⑫その他	15	1.8%
無回答	25	3.0%
対象数	831	-

問9 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	505	60.8%
②求人情報や就職ガイダンスの充実	134	16.1%
③就職に関する相談体制の充実	194	23.3%
④再就職のための講座やセミナーの充実	120	14.4%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	731	88.0%
⑥保育所などの保育施設の充実	552	66.4%
⑦その他	18	2.2%
無回答	30	3.6%
対象数	831	-

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することにおたずねします。

問10 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。

次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	245	29.5%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	268	32.3%
③知らない	305	36.7%
無回答	13	1.6%
合計	831	100.0%

問11 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	30	3.6%
②「家庭生活」優先	147	17.7%
③「地域活動・個人の生活」優先	19	2.3%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	285	34.3%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	36	4.3%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	68	8.2%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	224	27.0%
無回答	22	2.6%
合計	831	100.0%

問12 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	221	26.6%
②「家庭生活」優先	208	25.0%
③「地域活動・個人の生活」優先	20	2.4%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	203	24.4%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	39	4.7%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	56	6.7%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	62	7.5%
無回答	22	2.6%
合計	831	100.0%

問13 あなたは次にあげる家事をしていますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 掃除(単身世帯含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	419	50.4%
②自分と家族が同じ程度している	154	18.5%
③自分は手伝い程度している	166	20.0%
④していない	83	10.0%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

2 洗濯(単身世帯含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	426	51.3%
②自分と家族が同じ程度している	125	15.0%
③自分は手伝い程度している	116	14.0%
④していない	155	18.7%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

3 食料品、日用品などの買物(単身世帯含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	403	48.5%
②自分と家族が同じ程度している	186	22.4%
③自分は手伝い程度している	175	21.1%
④していない	58	7.0%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

4 食事のしたく(単身世帯含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	442	53.2%
②自分と家族が同じ程度している	80	9.6%
③自分は手伝い程度している	132	15.9%
④していない	168	20.2%
無回答	9	1.1%
合計	831	100.0%

5 食事の後かたづけ(単身世帯含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	420	50.5%
②自分と家族が同じ程度している	136	16.4%
③自分は手伝い程度している	162	19.5%
④していない	102	12.3%
無回答	11	1.3%
合計	831	100.0%

6 ごみ捨て(単身世帯含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	372	44.8%
②自分と家族が同じ程度している	156	18.8%
③自分は手伝い程度している	155	18.7%
④していない	138	16.6%
無回答	10	1.2%
合計	831	100.0%

問14 あなたは平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	249	30.0%
②1～2時間未満	193	23.2%
③2～3時間未満	182	21.9%
④4～5時間未満	109	13.1%
⑤5時間以上	85	10.2%
無回答	13	1.6%
合計	831	100.0%

問15 あなたは休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	166	20.0%
②1～2時間未満	189	22.7%
③2～3時間未満	201	24.2%
④4～5時間未満	140	16.8%
⑤5時間以上	117	14.1%
無回答	18	2.2%
合計	831	100.0%

問16 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	105	27.7%
②自分と家族が同じ程度している	61	16.1%
③自分は手伝い程度している	98	25.9%
④していない	115	30.3%
合計	379	100.0%

2 介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	46	13.3%
②自分と家族が同じ程度している	30	8.7%
③自分は手伝い程度している	39	11.3%
④していない	231	66.8%
合計	346	100.0%

問17 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。
主な理由を次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	513	61.7%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	537	64.6%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	525	63.2%
④育児、介護は女性の方が向いているから	211	25.4%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	272	32.7%
⑥その他	47	5.7%
無回答	58	7.0%
対象数	831	-

問18 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	321	38.6%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	334	40.2%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	104	12.5%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	171	20.6%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	460	55.4%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	283	34.1%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	75	9.0%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	47	5.7%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	51	6.1%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	310	37.3%
⑪その他	18	2.2%
⑫特に必要なことはない	12	1.4%
無回答	43	5.2%
対象数	831	-

「地域社会」に関することでおたずねします。

問19 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	220	26.5%
②そうではない	271	32.6%
③わからない	324	39.0%
無回答	16	1.9%
合計	831	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	396	47.7%
②そうではない	194	23.3%
③わからない	224	27.0%
無回答	17	2.0%
合計	831	100.0%

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	115	13.8%
②そうではない	355	42.7%
③わからない	344	41.4%
無回答	17	2.0%
合計	831	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	175	21.1%
②そうではない	260	31.3%
③わからない	372	44.8%
無回答	24	2.9%
合計	831	100.0%

5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	209	25.2%
②そうではない	203	24.4%
③わからない	400	48.1%
無回答	19	2.3%
合計	831	100.0%

6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	52	6.3%
②そうではない	316	38.0%
③わからない	444	53.4%
無回答	19	2.3%
合計	831	100.0%

問20 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。
あなたはどうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
① 役員の中での女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	140	16.8%
② 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	232	27.9%
③ 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	206	24.8%
④ 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	85	10.2%
⑤ 女性が積極的に役職につく意識をもつこと	116	14.0%
⑥ その他	16	1.9%
無回答	36	4.3%
合計	831	100.0%

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問21 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。
次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	15	1.8%
② したことがある	1	0.1%
③ 受けたこともしたこともある	2	0.2%
④ 受けたこともしたこともない	794	95.5%
無回答	19	2.3%
合計	831	100.0%

2 なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	63	7.6%
② したことがある	17	2.0%
③ 受けたこともしたこともある	31	3.7%
④ 受けたこともしたこともない	700	84.2%
無回答	20	2.4%
合計	831	100.0%

3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	72	8.7%
② したことがある	49	5.9%
③ 受けたこともしたこともある	47	5.7%
④ 受けたこともしたこともない	644	77.5%
無回答	19	2.3%
合計	831	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	13	1.6%
② したことがある	6	0.7%
③ 受けたこともしたこともある	1	0.1%
④ 受けたこともしたこともない	792	95.3%
無回答	19	2.3%
合計	831	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	104	12.5%
②したことがある	96	11.6%
③受けたこともしたこともある	143	17.2%
④受けたこともしたこともない	469	56.4%
無回答	19	2.3%
合計	831	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	33	4.0%
②したことがある	4	0.5%
③受けたこともしたこともある	4	0.5%
④受けたこともしたこともない	771	92.8%
無回答	19	2.3%
合計	831	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	86	10.3%
②したことがある	29	3.5%
③受けたこともしたこともある	15	1.8%
④受けたこともしたこともない	683	82.2%
無回答	18	2.2%
合計	831	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	64	7.7%
②したことがある	62	7.5%
③受けたこともしたこともある	76	9.1%
④受けたこともしたこともない	608	73.2%
無回答	21	2.5%
合計	831	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	36	4.3%
②したことがある	3	0.4%
③受けたこともしたこともある	2	0.2%
④受けたこともしたこともない	772	92.9%
無回答	18	2.2%
合計	831	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	47	5.7%
②したことがある	18	2.2%
③受けたこともしたこともある	6	0.7%
④受けたこともしたこともない	740	89.0%
無回答	20	2.4%
合計	831	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	33	4.0%
②したことがある	10	1.2%
③受けたこともしたこともある	5	0.6%
④受けたこともしたこともない	759	91.3%
無回答	24	2.9%
合計	831	100.0%

問22 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。
知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①長野県女性相談センター	146	17.6%
②児童虐待・DV24時間ホットライン	190	22.9%
③長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	156	18.8%
④女性の人権ホットライン	175	21.1%
⑤県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110	111	13.4%
⑥県警(警察安全相談窓口)	423	50.9%
⑦長野犯罪被害者支援センター	108	13.0%
⑧長野市男女共同参画センター	79	9.5%
無回答	263	31.6%
対象数	831	-

問23 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	408	49.1%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	199	23.9%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	169	20.3%
④人権侵害にあたるとは思わない	2	0.2%
⑤わからない	35	4.2%
無回答	18	2.2%
合計	831	100.0%

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問24 平成29年4月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は、6人(16.2%)、
平成29年4月1日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は432人(16.5%)
となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①現在より大幅に増えた方がよい	238	28.6%
②現在より少し増えた方がよい	302	36.3%
③現状でよい	70	8.4%
④現状より少なくてよい	8	1.0%
⑤わからない	194	23.3%
無回答	19	2.3%
合計	831	100.0%

問25 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善	353	42.5%
②政策・方針決定の場への女性の登用促進	211	25.4%
③学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実	266	32.0%
④女性の人材育成の推進	189	22.7%
⑤女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実	211	25.4%
⑥育児や介護に関するサービスの充実	458	55.1%
⑦夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実	63	7.6%
⑧男女共同参画に関する情報提供の充実	115	13.8%
⑨企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発	330	39.7%
⑩その他	13	1.6%
無回答	38	4.6%
対象数	831	-

問26 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
文章回答あり	137	16.5%
文章回答なし	694	83.5%
合計	831	100.0%

自由意見

問26 「男女共同参画」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
男性	25歳～29歳	正規雇用者	女性の社会進出は大変望ましいが、出産時や育児で休暇を取ると困る中小企業は少なくない。保育士が少ないがために保育所が建たない。私の職場においても女性社員は数十人いるが、育児により会社に来られず、その分負担になる社員がいること現状。男性の育児等はおお難しいと思う。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	社会全体としての「男女共同参画」については賛成ですが、職業分野によっては向き・不向き（体力など）があるのが現実です。それを踏まえた上での施策を期待しています。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	男性女性という考え方ではなく、個人の資質・特性を發揮できる社会が望ましい。その際に妨げになる制度・風習があれば、それは改善するべきと思う。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	女性の昇進、給料増は男性にとってはプレッシャーになる。女性の方が稼いでいるんだということは、結婚に踏み切れない。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	どちらかという女性優遇という風に見える質問が多いように思いました。男女どちらも生活しやすい社会の実現を図るためには、どちらも大切にするという観点で考えた方が良いと思います。具体的には、女性の就労だけ考えるのではなく、男女とも就労の面で家庭生活を尊重し合えるような職場環境づくりが必要だと思います。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	女性ばかりでなく、男性にも目を向けた活動が増えても良いと思う。男性は男性としての圧力や固定観念に苦しんでいる人がいるだろうと思う。また女性ばかりがたてられ、今度は男性がないがしろにされることのないよう、注意をして活動を進めてほしい。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	男女が平等という社会は大切だと思いますが、女性が社会に出て活躍する（重要な役職に一定の割合で女性が登用される制度を作るなど）をしてしまうことによって、少子化や人口減少等の社会問題をさらに引き起こしてしまうように感じます。社会的な差より、偏見や男女が互いの理解をすることを、日常生活の中からは行っていく必要があると思います。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	共働きの家庭でも家事は女性が負担するという意識が男性側に強く根付いているし、女性もそれを普通と認識している人が多い。職場では女性活躍に向けた環境改善が進められているが、女性自身の意識が変わらないため、昇進や昇給を望まない人が多くみられる。意識改革が必要と感じます。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	私の会社では、女性管理職の数値目標が導入され良いことである反面、明らかに男女の差別が起こっている気がします（従業員の8割は男性で、2割しかいない女性は管理職になりやすい）。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	もっと女性が活躍できる社会を望みます。共働きが多くなっているのでもっと会社や地域の人々の理解が必要と感じます。シングルマザーの人へ行政がもっと介入して手助けできることも必要だと思う。
女性	30歳～34歳	会社役員・経営者	「男女」でくくっているあたりがまだ甘い。子どもを持たない女性も多いはず。「男女」ではなく、一人一人が力を發揮できているか考えては？
女性	30歳～34歳	正規雇用者	現代において男尊女卑の光景は減ったように思います。今回のアンケートを通して男女共同参画という言葉や機関を初めて意識しました。もっと多くの人から周知されることで変わることがたくさんあると思います。周知する・できる機会をもっと身近に見聞きしやすいような工夫が必要だと思うので、こういった無作為なアンケートだけでなく、多くの人が周知できるようにしてもらいたいです。こういう機関が備わっていると知るだけでも助けになる人がいると思います。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	何にでも適材適所というものがあるので、そもそも「女性だから役職に就けた方が良い」という考え方はおかしいと思う。ただ人事をやっているのが男性だと、どうしても偏見で選ばれないということはいくらでも起こりうるので、そういうことがしにくい環境作りは必要だと思う。何をもって男女平等なのか、そこからしっかりと定義してほしいです。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	「男女共同参画」という言葉は知っていても、本当にはどういふことを言うのか良く分からないところがあります。今の社会は、男性優位と思われるところも、女性優位と思われるところもあると思います。また旧来の男性・女性という価値観に、男女ともに依存している部分もあると思います。もっと多くの人が「男女共同参画」という言葉の本当の意味を知れるよう、また旧来の価値観を変えていけるよう、もっと啓蒙していただく必要があると思います。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	子育てしながら働く上で、正規雇用の時短勤務を義務付けてほしい（今の所ではパートタイムになってしまう）。また時短で働ける期間も延長できるようにしてほしい。
女性	30歳～34歳	家事専業者	DVを受けている人はなかなか周囲に助けを求めることができませぬ（私が間違っているのだ、これさえ我慢すれば…、家庭の恥を外に漏らしたら…など）。私もそうでした。なので気軽に相談ができる施設やシェルター等、長野市にもあればなあと思ったことがあります。
女性	30歳～34歳	家事専業者	我が家は現在、2017年9月で2歳になる子どもが一人、主人は2016年7月より東京へ単身赴任中、海外出張（2week～1.5month）が多い。私の実母は近くに住んでいますが、実母の考え方・方針で、育児は頼めない状況です。私は主人と協力・分担しながら短時間勤務で仕事を続けたかったが（2006年より正社員で勤務していた）、子どもが1歳の誕生日で復帰と決まっており、私の負担が重く離職しました。初めて子育てを経験してみて、1歳での職場復帰はワンオペ育児の状況では厳しかった。会社の短時間勤務の取得（最短10時～15時）は、希望により取得できる制度ではなく、保育時間・勤務時間の制約が必要な場合というルールがありました。子どものことを一番に考えたら、希望で10時～15時勤務ができるくらいの制度が普通に存在すると、女性もワンオペ育児でも仕事も続けやすいと思います（介護の場合も同様かと思います。賃金は働いた時間等に応じて払われる）。また「つ」がつく年齢が大事と聞いたので、子どもが10歳になってから、または子どもやそれぞれ状況が異なると思うので、育児や介護で一旦離職しても長くて10年くらいブランクがあっても、それまで積んだキャリアを再び積んでいけるように、同一企業で正社員として再びキャリアが積める（確約されている）といいのに、と思います。それが私の希望です。制度化が難しいのは分かりますが、働いていた企業に言うべきことかもしれませぬが。
女性	30歳～34歳	家事専業者	平等とは言うけれど難しいと思う。そこまで不便さを感じないし、それぞれ考え方も違うので。でもやっぱり男女の得意・得意はあると思うし、家事も男の人よりは女性の方が優れていると思う（考え方が古いので）。
女性	30歳～34歳	家事専業者	男女共同は夢。でも実際、男性と同じように働きたい女性ばかりではないので、すべて平等とされるのも困る。だからと言って女性ばかり優遇しなければという流れもどうなのか？と少し疑問に思います。
男性	35歳～39歳	会社役員・経営者	出来る人がやれば良い。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	男女ともに意識改革が必要。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	女性の社会進出、役員比例など、過度な推進はプレッシャーになります。家族や個人により考え方が異なることを十分に考慮すべきだと思います。つまり、やりたいと思う女性（全員がこのような人ではないということ）が自由に活躍できる法律、制度、習慣、雰囲気をつくるのが大切です。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	難しい問題がたくさんありそうですね。私の会社は、女性も積極的に働ける環境が整っている気がします。
男性	35歳～39歳	非正規雇用者	「男女共同参画」とは何かをもっと分かりやすく市民に伝えていくべきではないでしょうか？そうでないとこのアンケートも“行いました”だけになって無意味なものになってしまう気がします。
女性	35歳～39歳	自営業（農・林・漁業）	性差があるので全てに平等とは言わないが、仕事・家事・育児等男女で役割意識を持つのではなく、得意な方がやる（できる方）で良いと思う。男女で区別する考え方を変えるべき。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	35歳～39歳	自営業（農・林・漁業以外）	女性は保守的な考えか、役職に就くことが面倒という考えの方が多いため、小さいころからの教育として、役職や人の上に立つことへのメリットもしっかり教えていけたら良いのではと思います。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	法律や制度を変えても、国民の意識が変わらなければ意味がない。会社に復帰できてもその空気が悪ければ働きにくいし、自己退社にもっていかれる。良くなってきてはいるが、もう少しだと思う。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	結果的に女性だけが限界まで頑張らせているイメージがある。男が楽をし過ぎている（全体的に）。男はもっと家事・育児をする時間を、他の国みたいに増やすべきであると思う。意味のない残業（サービス残業等）はやめてほしい。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	小学生の児童センターを1日単位で利用できると良い。働きやすくなる。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	優れている人がいれば、男女問わず登用されるのが望ましいと思います。それをねたんでいじめる社会がなくなれば良いと思います。年長者の方から、意識改革が必要じゃないかと思えます。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	男も女もそれぞれ男は男でかばい合い、自分たちの面倒になるようなことは徒党を組んで決めたりするだろうが、女も女で自分たちが面倒にならないように逃げている（面倒は男に押し付ける）ところがあるので、変わらないと思う。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	結局は「レディースDAY」や「女子会コース」等で、女性も恩恵を受けている節がある。男女平等は無理なのかもしれない。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	家事と子育ては女性になるのは自然なこと。そこに男性と同じように働くのは体力が持たない。男性と女性は脳も体も役割も得手不得手も違うので、子どもを持った時点で役割は自ずと決まる。共同は理想ですが。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	性別的役割として完全に平等は難しいが、お互いの役割を同じようにこなせる環境が必要。収入の低い世帯ほど平等でなく、女性の負担が多い。非正規だったり福利厚生もない。その見直しが必要だと思う。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	両親たちの時代は、女性が家事・育児を全てやるのが当然の社会でした。それを見て生活してきたので、私も“そうしなければいけない”という思いがあるものの、フルタイムの仕事に子育て、思っていた以上にいっぱい입니다。主人も子育てに協力的ではあるものの、やはり家事・育児は女性が中心に…という気持ちがあるように言動から感じてしまいます。子どもたちが大きくなったころの社会、男女が平等であることが当たり前になっている社会であれば良いと感じつつ日々生活しています。
女性	35歳～39歳	家事専業者	夫の転勤などで引っ越しをしなければならなくなった際に、妻が転職先を探しながら、同時に子どもの保育園を探すのは本当に大変です。保育園に落ちた場合に、内定が決まっていた転職先にも迷惑が掛かり、復職が難しいため、求職中での点数を高くしてほしい。
男性	40歳～44歳	会社役員・経営者	男女ではなく能力が基本だと考えています。女性でも能力のある人はどんどん出ても良いが、諸外国と違い出れば出るほど結婚や出産が遠くなっている。主夫が向いている男性もいるので、それぞれの能力を开花させることの方が大切だと思う。
男性	40歳～44歳	自由業	このようなアンケートは意味があるのでしょうか？男女男女と言っているうちは何も解決されないと思います。どうすればいいのか？小学校から教育していかないとダメだと思いますし、学校の教師でさえ男女差別があるので無理ですね。本当に男女共同を考えるのであれば、このようなアンケートではなくちゃんとしましょうよ！日本の教育システムに問題があると思います。日本の文化も！このような固定されたアンケート自体がこのような社会を生んでいると思いますし、男女平等という言葉自体が差別していると思う。アメリカと同じような社会になると、日本はダメになるでしょう！

性別	年齢	職業	記入内容
男性	40歳～44歳	正規雇用者	女性リーダーの育成を実現。それを裏でバカにしている男性の意識改革。制度としては確立しつつあるが、まだまだ絵に描いた餅である。女性リーダーをもっと積極的に擁立し、女性もそれに応えるよう努力すべき。第二、第三の小池百合子の出現を期待しています。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	意味の分からないアンケートはやめてほしい。税金の無駄遣いと思う。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	男女平等は理想だが無理と思う。民間レベルでは「女性専用」サービスがあふれている。若い世代の女性は強くなりすぎ、男性の方が生きづらさを感じる人が多いと思う。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	無理に女性の登用を進めるのではなく、能力で登用すべきだと思う。
男性	40歳～44歳	無職	男性が家庭に入り育児や家のことをやり、女性が働いて家族を養うのも当然ありかと思えます。
男性	40歳～44歳	無職	企業内ではなかなか整えられない、経済面・経営面・就労面から一歩踏み込んだ制度作成を行政にお願いしたい。
女性	40歳～44歳	自由業	年配者の女性差別が当たり前になっている現実で、頭の固い年配者への意識改革ができるとは思えないので、あまり明るい未来は望んでおりません。女性を差別している年配者が育てた子どもが大きくなって、差別が当たり前となっている子どもたち（中年）もまだまだ大勢おります。海外のように、地域を大きく発展していきたいなら、根本から変えないといつまでも同じことの繰り返しの気がします。世界男女平等ランキングの日本111位の結果を、他の市町村も一緒だからしょうがないと思うか、少しでも国全体のランクを上げたいと思うかは、市町村次第かと思えます。
女性	40歳～44歳	自由業	男性・女性と分けていることが違和感を感じる。男女の差はもちろんあるので、それぞれの良さを活かすのが大切だと思う。それは男女だけでなく、人間が誰でも持つ能力の凸凹として受け入れ、障害のある人も一緒に活かし合えたらと思えます。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	このようなアンケートをしたところで何か改善されるのでしょうか？市議会議員の男女の割合の前に、人数が多すぎると思う。本当に市のことを考えているのなら、手当等を減らして税金を有効に使ってほしい。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	官公庁・大企業と同様な条件を中小企業に求めることは、現状は難しいと思う。画一的な制度より、柔軟な制度の方が受け入れられるのではないか。学校教育・社会教育の場等で、指導する側も本当に「男女共同参画社会の実現」を目指している方でないと思われないと思えます。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	残業ありきの仕事、突発的に帰宅時間が遅くなることは、育児をしていると協力者がいないと全く対応できない。そうなると、家族のうち1人（つまり女性）は仕事に限られてしまう。仕方がないことなのか…。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	社会の意識を変えるには何が必要かを一番に考えてほしいと思えます。“女性の登用”を声高に言う前に、行政にはすでに当たり前というスタンスで実行してほしいです。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	大変興味深い内容でしたが、どういうサービスがあるのか、どういった活動をしているのかもっと知りたいと思いましたが、どうすればよいのか分からない。どういった時に利用できるものか分からない。こういう疑問を解消できるよう、もっと広まったらいいなと思えます。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	育児に対し、男性が仕事を休みやすい会社作りをしてほしい。
男性	45歳～49歳	会社役員・経営者	子どもにとってはお母さんは重要で、育児したい女性もいる。何でもかんでも男女参画しないでも良いこともある。お父さんの給料よくなれば（育児費用が下がるとか）、お母さん働かなくても良いんだけど。
男性	45歳～49歳	会社役員・経営者	大変重要なことだとは思いますが、なかなか難しい問題ですし、人によって感じ方や考え方が異なるので、どうなれば一番良いのかは分かりませんが、いろいろな場面において男女共同参画は大事だと思います。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	45歳～49歳	正規雇用者	理想は男女平等です。しかし女性の大多数が社会進出を望んでいるとは思えない。社会の考えがまだまだ男性優位である以上、平等にという前に社会全体の考えを変えるべき。男性でも自治会への参加は非常に大変です（仕事があるのに休んでまで参加を求められる）。もう時代遅れ。生活のために働いているのに、休んでまで参加はおかしい。参加しないと文句を言われる。なんとかしてほしい。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	昔に比べて女性の社会進出が目まぐるしいと思いますが、それが人口減少や社会のバランスが崩れていることも事実だと思います。ある程度男性が中心の世界の方が、政治や国は安定することも考えられます。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	既成概念に縛られない取り組みが必要と思う。税金の無駄遣いはしないように。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	男性中心の慣習や社会的風潮を少しずつ変えていく必要があると思う。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	男女関係なく、人財が活きる場をうまくマッチングできる仕組み・制度を、何らかの方法で改善できないでしょうか。男性にも力を発揮できず悶々としている人が大勢いると思います。
男性	45歳～49歳	非正規雇用者	男性の育児休暇とかは、もっともっと取れる方が良いと思う。まだまだ出産前後の育児と言えば女性という風になりがちだが、そうではなく、育児というのは夫婦でしてくものなので、職場とかでももっと育児休暇を取得できるようになっていけば良いと思う。ただ育児休暇を取得した時、男性（夫）の収入とかの保障などがもっとしっかりしていれば良いと思うが…。
男性	45歳～49歳	非正規雇用者	娑婆の分かっていない質問が多い。もっと社会・会社を理解してほしい。ブラックな企業はもっともっとたくさんある。皆見えていない。またDVは男性女性どちらもあると思う。企業により差があり過ぎる。賃金低下により企業の差があり過ぎる。女性が働かなくてはならない現在の収入では男女の差は変化ない。女性が、能力あるなら男性が家事をやっても良いが、社会の偏見があり過ぎる。このアンケートは全く一般的な家庭を理解していない。温度差あります。
男性	45歳～49歳	無職	このアンケートが実になり花になる事より、根っこを育ててほしいです。
女性	45歳～49歳	自由業	十人十色でアンケートに正直困った。聞いてくる内容が受け身であり、この内容でどのように変えられるのかが不思議である。シュミレーションではないが、「こんな時にどうしたい?」「相談者はいるか?」と聞いた方がアンケートの意味があると思う。子無し、パートナー無しの人の回答にはズレ過ぎでしたね。
女性	45歳～49歳	自由業	根本的に女性が育児することは変えることのできない事実。外へ出て仕事をするなら、サービスが充実した社会が一番の理想。でも数十年前とは男女の考え方は変わってきているのは現実。プラスになっていくような意識改革も必要。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	こういった実態調査をたくさん行って、多くの意見を反映させてほしい。もっとオープンに女性の声を広げていける場が（特に中山間地←なかなか古くからの慣習が負担です）必要だと思います。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	庁舎にガラスの天井があると思う。公務員から変わってほしい。女性管理職の割合を半数にして。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	「女性のための…」などは最近多くみられますが、あまりにも女性有利の社会になり過ぎるのも良くない。あくまで対等に。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	子どもが以上児として保育園・幼稚園に入れるまでの期間に、もっと支援できるサービス（行政・企業）があると良いと思う。生活費が確保できれば働かなくて、子どものそばにいたいと思っているお母さんは多いと思います。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	特に職場では年配の方（50歳から上ぐらいの方）、小さな職場では古い考え方の人が多い。
女性	45歳～49歳	無職	各家庭によりけりだと思うが、外面が良くみられているので、実際家庭に入ると口の暴力があり、それを外部に発信しても信用されづらい。そのような件も含め、行ってほしいと思う。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	50歳～54歳	正規雇用者	性差の無い社会の早期実現。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	長野市の10、20、30年後（2030年、2040年、2050年）の人口動態予想を明示し、行政サービスの動向予測を開示してゆくことで、長野市のあるべき姿を具体的に示してゆかないといけない。立ち行かなくなることを危機感を持ってモデル化する必要があると考えます。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	女性の参加が女性にとって無理のないように。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	性別で考えない。人の能力で考えることもあっていいと思う（例えば、問24のように女性の割合を増やすという考えではなく）。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	50代になると仕事に対する意欲が薄れて、関心がだんだん健康に向かっています。心身ともに健康でないと仕事が出来ないためとの理由もあります。能力のある女性はたくさんいるため、50代の男性の考え方・プライドを変えていかないと若い子は育たないと思います。企画をし、周知するには時間がかかり、それから浸透するにも時間がかかります。蚊帳の外の意見で申し訳ありません。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	真の「男女共同参画」を進めるには、男性の教育が最も必要だと思います。出産・子育てにおいてはどうしても女性でなければならない部分があるにもかかわらず、男性の理解が及ばず職場で不利な扱いをされるということに、日本が男性社会で長い間進んできたための大きな問題があると考えます。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	地域や職場の判断に任せるだけだと、女性に不利な状態が長引くので、政策や法制度を変えていってほしい。子育ては子ども一人につき3歳（3年間）までは、夫・妻のどちらかが家庭でしっかり育てた方が良く思っている。その3年間の経済支援政策も必要。しっかりとした次世代の社会人（納税者・納税する能力を持つ大人）の基礎を育ててから、また社会に戻れる制度が必要。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	「女性が輝く社会」と叫ばれて久しく、女性は「外」（仕事や地域活動等）に出て行っているが、では「内」（家庭）に男性は入ってきているのか。いつも変わらなければならないのは女性で、男性は何ひとつ変わらない。外でも内でも女性が頑張らなければならない社会では、女性の就業や地域活動の意識は高まらない（そんなに頑張れないので）と思います。男性を家庭に帰す取り組みや、世の中の意識変換の策を考えていただきたい。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	長野県は慣習等他県と比較し、男女共同参画についてというより、あらゆる面で新しいことに取り組むことが難しいと思います。長野県は長野に生まれ育った人間以外を認めない。そんなところから改善していかないと道のりは遠いと思います。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	結婚して24年、子どもはなく夫婦二人で過ごしてまいりましたが、結婚とともに名字が変わることで男性優位の意識を持たされているように思います。現在は表現活動において旧姓を使いバランスをとっていますが、自分の名前に対しては心もとなさがいつもあります。
女性	50歳～54歳	家事専業者	男女にとられず、個人を尊重できるような教育に力を入れることも、大切だと思います。
男性	55歳～59歳	会社役員・経営者	男だから女だからではなく、個人の資質能力・特性を生かせるような社会になれば。男女で会費や食事のメニューが違ったり、特典が付くのも差別だと思います。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	問19において、自治会等に参画していないので良く分からないのが実情です。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	中には消極的な女性もいるし、役職の割合を決める必要はないと思う。積極的な人が認められ、要職に就くような社会になれば良いと思う。あえて割合を決める必要はない。
女性	55歳～59歳	自営業（農・林・漁業以外）	法律や制度の改善は必要だと思います。けれど人々の意識が追いつかないと、なかなか前へ進まないのではないのでしょうか。少しでも早く平等な社会が来ることを祈っています。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	男女共同とは言っても、身体的に男性には男性として頑張ってもらいたいところ。女性にはできないこともあるので平等は難しいと思う。女性が社会に出ることにより、家族に迷惑がかかること（子どもを他人任せにすること）はどうなのかと思う。子育てが終わってから社会に出られると良いのでは？
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	講座やセミナーの開催を増やし、告知してほしい。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	良く分からないので、もう少し世間に知られるようにPRした方が良いと思う。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	いくら職場の理解があっても、保育園が増えても、夫の理解・協力がなくては女性の負担が増えるばかりです。夫婦の在り方・考え方が変わらなければ子どもも産めないし、働くこともできません。世の男性たちよ、まずは奥さんにやさしい言葉の一つもかけてみてはいかがでしょう…！
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	女性は確かに男性と比べると不平等な面も多いが、その立場を大いに利用している面もある。男性女性双方の立場を理解し合い、男性にしかできないこと、女性だからできること等、役割分担も必要だと思う。何でもかんでも平等というのではなく、全体を見たら平等というのが理想ではないかと？
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	お互いのそれぞれの立場で、相手のことを思いやれる社会の仕組みや制度があればもっと良いと思う。
女性	55歳～59歳	家事専業者	男女平等という言葉は学生の時から知っていましたが、残念なことに男女共同参画という言葉は初めて聞きました。できればもっと詳しく知りたいです。
男性	60歳～64歳	会社役員・経営者	設問に異常さを感じます。こんなステレオタイプの設問で良いのでしょうか。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	男女がともに活躍でき、平等な社会になることを望みます。
女性	60歳～64歳	その他	男女平等なんて絶対なりません。そんなに簡単なものではないと思います。世の中が女だけになったらいいでしょう！男はいらないと思います、極端な話。
女性	60歳～64歳	その他	障害者が先頭に立って意見が言えるよう組織づくりと、理解される、反映されるような社会を望みます。
女性	60歳～64歳	会社役員・経営者	60歳以上の女性も社会・職場に出て、活躍できる社会になると良い。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	女性が安心して出産・育児ができるように、補助金等が充実すれば、人口減少も食い止められるかもしれません。私の子どもも、結婚しても子どもを作れませんでした。共働きをしなければ生活していけません。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	調査してどうする。家庭環境が違いすぎる。賃金の差があり過ぎ。男女共同参画とは違いますね、すいません。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	有能でやる気のある女性が社会・地域に出て行くことは必要だと思うが、やはり性別による差は出てくるし、役割も違っていいと思っている。同じことをする必要が必ずあるとは思えない。
女性	60歳～64歳	無職	基本的に男性女性問わず、その方の人格が優れていれば、どんな社会でも参画していただきたいと思います。中には意味を分らず「平等」という言葉を唱える女性には、がっかりさせられることが多々あります。もの言わない、できない女性に光を与えられるような社会になっていただきたいと思います。
男性	65歳～69歳	正規雇用者	建設業の仕事をしてますが、男女感にはもともと肉体的や感性に違いがあるので、それも考慮した上で共同参画になる。全く同じには性別があるのでならない。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	保育所の設置など、女性が働きやすい環境を整えない限り男女共同参画は進まないと思う。また職場での意識改革を進める取り組みをしてほしい（今の日本の社会・職場は、女性を温かく迎え入れる意識が低い）。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	女性の積極性。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	意識を改革させることはもちろんだが、具体的なことが実現していくことに伴って、意識が変化していくことが多い。政策・方針は具体的に目に見える（納得できる）実現が成されたときに意識が高まっていく。とにかく予算を増やし、実現されていく場面を増やしてほしい。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	一人では生きられない。相手のために思いやり、尽くすことができるか？生かされて生きる。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	65歳～69歳	無職	理論相当前から聞いておりましたが、行政そのものが一貫したプロジェクトの基、活動しているという情報は聞こえてきません。もっと一般市民に参加しやすい行事・講演会等を、身近になるような工夫が欲しいと思います。中身の改善等はその後だと思います（結論ありきで経過が見えない）。行政として具体的な行動がアンケートだけでは誠に淋しい。
男性	65歳～69歳	無職	長い取り組みの中での今、現実から小さくても一歩前進できる、できることを実施してほしい。単なる数値向上目標では、現実の課題が見えにくくなると考えます。より良い人間関係のために、取り組みを期待しています。
男性	65歳～69歳	無職	時代とともに人間も変化が必要である。
男性	65歳～69歳	無職	先進国の中で日本は女性のリーダー・マネージャーが少ないのは、本音では「これで良い」という意識があるためと思う。経済は一流、政治は三流と言われるのは、ワールドワイドでの人材育成の視点が欠けているから。人材育成において男女の差がまだある、と問題になるのは低レベルの議論。視点を高くしてボトムアップをすべき。
女性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業以外）	男性も女性も自分のできることと、やるべきことをもっとじっくり見つめて、背伸びせず家庭第一で生活していくことが大事ではないかと思います。まず家族が一番だと思います。
女性	65歳～69歳	非正規雇用者	近年の男女差の少なくなった社会は喜ばしいこととは思いますが。しかし女性しか成し得ない出産という事柄は、男性にはできないことです。でもそれ以後、育児からは男性も社会（会社）も参加できることです。それが原点だと思っていますが（そうは言っても自分の子どもは自分の手で育てたいと思う母心もあるのですが）。
女性	65歳～69歳	家事専業者	男性も女性も、現在自分の置かれている状況に合わせて活動することが良い。どんなに有能な方でも無理をすれば…。可能な状況にする努力は、できる時代だと思います。
女性	65歳～69歳	家事専業者	勉強不足で反省しています。これを機会に関心を持ち、勉強したいと思います。
女性	65歳～69歳	家事専業者	私の年代はまだ男性が上に立つような風習があり、男女共同であるとは言えない。私は専業主婦で家事全般をやっていますが、それを労働とせず、自分だけが働いていて食わしてやっていると考えている男性が多いと思います。
女性	65歳～69歳	無職	これからの女性は、結婚しても自立していけるよう願っています（精神的・経済的）。問24の意見、実力、能力がない女性が割合合わせに増えてもどうか？
女性	65歳～69歳	無職	日常的に家事をしていないと要領が分からないので、手を出すのが苦手、億劫になる。
女性	65歳～69歳	無職	定年退職前は社会福祉法人に勤務していました。その法人は女性の雇用が多く、すべて（特に給与）の面で男女均等の就業規則となっています。まだ一般企業では雇用等が改善されていないのでしょうか？
女性	65歳～69歳	無職	「男女共同参画」言葉はきれいですね。男女平等って何でしょう？平等という名もとの不平等！まともななくてすみません。
女性	65歳～69歳	無職	昔のように男尊女卑でなく、男女の人権を尊重して、地域・社会の活動ができれば良いと思う。
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）	制度の見直しにより女性を登用する。また男女の人材の育成を図る。
男性	70歳以上	正規雇用者	職場にしる地域にしる、性に関係なく各個人が持つ能力を充分発揮してもらえるよう、環境を整える努力が必要だと思います。
男性	70歳以上	無職	調査の集計の公表と、施策の公表をしてください。膨大な費用をかけているのですから。
男性	70歳以上	無職	地域における自治役職が男性首脳であり、身近から考え方を変えた方が良い。
男性	70歳以上	無職	学校教育と社会教育の充実。
男性	70歳以上	無職	大きさに集会まで開催して騒ぐことでもないと思う。今の時代、各個人の意識に委ねてもいいのではないか。
男性	70歳以上	無職	70歳の人には難しいアンケート…。私にはよく分からない！！

性別	年齢	職業	記入内容
女性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）	なかなか口で言うように物事は進みません。そんなことのない世の中になってもらいたいし、なってほしいです。時代は変わりましたし、変えてほしいです。
女性	70歳以上	非正規雇用者	出来る方にお任せ。
女性	70歳以上	家事専業者	本人の意識と家族の協力が必要。法律・制度の充実は二の次と思う。
女性	70歳以上	無職	平成7年に県で男女共同参画年としての冊子ができ、関連会議で部長クラスが集まるが多かったが、公務員が低意識で「これは500年かかる」と思いました。世代交替していけば良くなるかと思いますが、教育は欠かせません。家庭・地域の実践と、高い意識も育つようにしてほしいものです。
女性	70歳以上	無職	意味が分からない質問が多数あり、答えられなかった。
女性	70歳以上	無職	男女共同参画は子どもの頃からの教育がとても大切であり、家庭内はもとより学校教育の中で積極的に取り組むことが、一番効果的だと思います。

調査票

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	男性が優位	女性が優位	平等である	わからない		問1
1 家庭では	1	2	3	4	→	
2 学校教育の場では	1	2	3	4	→	
3 地域社会では	1	2	3	4	→	
4 職場では	1	2	3	4	→	
5 法律や制度の上では	1	2	3	4	→	
6 習慣・しきたりでは	1	2	3	4	→	
7 政治の場では	1	2	3	4	→	
8 社会全体では	1	2	3	4	→	

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	知っている	聞いたことがある	知らない		問2
1 男女共同参画社会	1	2	3	→	
2 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3	→	
3 長野市男女共同参画センター	1	2	3	→	
4 女性活躍推進法	1	2	3	→	

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の上で男女の差がなくなる社会
- 2 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会
- 3 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- 4 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- 5 男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会
- 6 その他 ()

問3

次ページもございます

問 8 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
該当するものを3つまでお選びください。

- | | | |
|-----------------------------------|-------------|---------------|
| 1 女性の積極的登用 | 2 能力開発、自己啓発 | 3 労働時間の短縮 |
| 4 福利厚生の実施 | 5 賃金の男女平等 | 6 非常勤職員の正規職員化 |
| 7 家族の理解や協力 | 8 職場の理解や協力 | 9 女性自身の意識改革 |
| 10 育児・介護に関する制度の充実 | | |
| 11 ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人） | | |
| 12 その他 [] | | |

問 8

問 9 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

- 1 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること
- 2 求人情報や就職ガイダンスの充実
- 3 就職に関する相談体制の充実
- 4 再就職のための講座やセミナーの充実
- 5 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備
- 6 保育所などの保育施設の充実
- 7 その他 []

問 9

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することでおたずねします。

問 10 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問 10

問 11 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問 11

問 12 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問 12

次ページもごさいます

問 13 あなたは次にあげる家事をしていますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族 が同じ程度 している	自分は手伝 い程度して いる	していない		問 13
1 掃除	1	2	3	4	→	
2 洗濯	1	2	3	4	→	
3 食料品、日用品などの 買物	1	2	3	4	→	
4 食事のしたく	1	2	3	4	→	
5 食事の後かたづけ	1	2	3	4	→	
6 ごみ捨て	1	2	3	4	→	

問 14 あなたは平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

- 1 0～1時間未満 2 1～2時間未満
3 2～3時間未満 4 4～5時間未満
5 5時間以上

問 14

問 15 あなたは休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

- 1 0～1時間未満 2 1～2時間未満
3 2～3時間未満 4 4～5時間未満
5 5時間以上

問 15

問 16 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。
あなたは育児または介護をどの程度していますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族 が同じ程度 している	自分は手伝 い程度して いる	していない		問 16
1 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4	→	
2 介護	1	2	3	4	→	

問 17 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。
主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
2 職場や同僚に迷惑がかかるから
3 上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
4 育児、介護は女性の方が向いているから
5 昇給、昇格に影響すると考えるから
6 その他(具体的に)

問 17

問 18 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の固定的な役割分担意識を改める
- 2 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
- 3 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
- 5 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
- 7 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性のための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- 9 男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他（具体的に)
- 12 特に必要なことはない

問 18

「地域社会」に関することでおたずねします。

問 19 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そうで ある	そうで はない	わから ない		問 19
1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている	1	2	3	→	
2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である	1	2	3	→	
3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている	1	2	3	→	
4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている	1	2	3	→	
6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

問 20 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※1を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと
- 4 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 5 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
- 6 その他（具体的に)

問 20

※1 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）…男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するために必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう

次ページもごさいます

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問 21 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。
 ※2
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

※2 DV(ドメスティック・バイオレンス)・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない		問 21
1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2 なぐる、ける	1	2	3	4	→	
3 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4	→	
4 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6 メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

問 22 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所（長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内）
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警（警察安全相談窓口）
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

問 22	

次ページもございます

問 23 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

問 23

--

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問 24 平成 29 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は 6 人(16.2%)、
平成 29 年 4 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は 432 人(16.5%)
となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 現在より大幅に増えた方がよい
- 2 現在より少し増えた方がよい
- 3 現状でよい
- 4 現状より少なくてよい
- 5 わからない

問 24

--

問 25 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会
を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。
特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善
- 2 政策・方針決定の場への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 育児や介護に関するサービスの充実
- 7 夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実
- 8 男女共同参画に関する情報提供の充実
- 9 企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発
- 10 その他(具体的に)

問 25

--

--

--

問 26 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

--

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入もれ等を確認いただき、同封の返信用封筒に調査票を入れ 9月22日(金)まで にポストへ
ご投函ください。

平成29年11月発行

発行 長野市

編集 長野市地域・市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地 電話 026 (224) 5032 (直通)

E-mail : jinken-danjo@city.nagano.lg.jp

集計 協同組合長野シーアイ開発センター